－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	アパレル企画論						
担当教員	福西　由美子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73190
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	消費者分析とアパレル商品企画のプロセスを身につける。
授業の概要	アパレル商品企画において必要となる消費者ニーズ、ファッション生活を観察することを通じて、ファッション市場の特性や動向を分析する力、商品企画に関する基本的な知識を身につける。消費者の様々な生活スタイルやシーズン、ファッションタイプ、トレンド感性を理解した上で、トレンド情報の収集、市場調査の分析を行う。具体的な商品企画のステップに沿って、自らが企画・立案したオリジナル・ブランドの商品企画書を作成する。
到達目標	(1)アパレル商品の種類と特性を説明することができる。【知識・理解】 (2)商品企画の背景、意図、商品化までのプロセスを理解し、企画構想に繋げることができる【汎用的技能】 (3)新規のアパレル商品企画・提案をすることができ、企画書として表すことができる。【態度・志向性】
授業計画	第１回　消費者行動とファッション表現 第２回　ライフスタイルとファッション 第３回　ファッションイメージ、トレンド感性の分類 第４回　感覚年齢（マインドエイジ）の分析 第５回　アパレル産業の仕組みとアパレル商品知識 第６回　ファッションマーケティングと商品企画 第７回　アパレル商品企画の基本ステップ 第８回　ターゲット企画 第９回　情報企画 第10回　商品コンセプト企画 第11回　コーディネート企画 第12回　アイテム企画 第13回　オリジナルのアパレルブランド企画(1)プロモーション 第14回　オリジナルのアパレルブランド企画(2)企画書のまとめ 第15回　授業のまとめと講評
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：ファッション雑誌、小売店の店頭ディスプレイ等を日常的にリサーチすること、ファッション分野だけでなくアートやカルチャーにも視野を広げ、「トレンドを捉える」意識をもつこと。 収集した情報、切り抜きなどの資料をストックし、各課題の材料とする。＜2時間＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。＜2時間＞
授業方法	講義・演習形式で行う。 授業テーマに基づき、グループ内でのマップ作成・グループ発表を行う。 講義内容をもとに資料やフィールドワークで収集した情報、自由な発想で各自のオリジナル・ブランド商品企画書を作成、松蔭manabaに提出する。
評価基準と評価方法	授業内課題 70%：レポート、企画書の内容、完成度を評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 授業態度　30%：グループワークの取り組み、参加度、積極性を評価する。 課題のフィードバック方法：グループワークの課題や企画書については、授業で紹介・解説する。
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失うものとする。 20分以上の遅刻・早退の場合は、欠席とする。 スマートフォン等は使用指示がない限り、机上に置かないようにする。
教科書	プリントを配布する。
参考書	「ファッション・マーケティング」菅原正博・本山光子共著ファッション教育社 ISBN978-4-7952-4177-0C2063 「ファッションビジネス[1]改訂版」 日本ファッション教育振興会　ISBN978-4-931378-28-5-C2034 「文化ファッション大系 ファッション流通講座７ コーディネートテクニック演出編」文化服装学院編 ISBN978-4-579-10941-8C5377

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	アパレル生産実習						
担当教員	戸田　賀志子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U22120
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜1～2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	衣服制作における技能の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解する。
授業の概要	衣服制作における技能の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解することを目的とする。日常生活を送る上で必要な基礎縫いや身近な小物の制作を通じて、被服の手入れや修繕に必要な技能を身につける。さらに、これらの技能を生かし、複数の実物制作に取り組むことで縫製技術の定着を図り、アパレル制作に必要な基礎的知識及び技能を総合的に養う。
到達目標	アパレル製品の設計・縫製過程を理解し、完成させるまでの技能を身につけることができる。（知識・理解）（汎用的技能）
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　裁縫道具の種類と使い方、手縫いの基礎 第３回　手縫いの基礎と仕上げ 第４回　ミシンの使い方 第５回　ミシン縫いの基礎と仕上げ 第６回　部分縫い（ボタン・ボタンホール、鍵ホック） 第７回　袋物の制作１　巾着（紐通し、ロックミシン） 第８回　袋物の制作１　巾着（仕上げ） 第９回　袋物の制作２　ポーチ（ファスナー） 第10回　袋物の制作２　ポーチ（仕上げ） 第11回　袋物の制作３　バッグ（布地裁断） 第12回　袋物の制作３　バッグ（縫製） 第13回　袋物の制作３　バッグ（ポケット付け） 第14回　袋物の制作３　バッグ（仕上げ） 第15回　実習ノートの評価
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：衣服について日頃から関心を持ち、デザイン・縫製・使い心地など自分なりに考察しておくこと。また本実習ではミシンを使用するので、家庭用ミシン程度は使えるように自己学習しておくこと。授業後学習：欠席すると制作が遅れます。また、授業に出席していても宿題となる部分が多くあります。授業内で詳しく説明するので、宿題は必ず各自進めておくこと。
授業方法	実習：本実習では小物作成を行う中で、手縫いやミシンを用いた基礎縫いを中心的に扱う。授業は基本的に個人単位で進めるが、一部履修者間での教え合いを取り入れることがある。各回で上手くいった点や反省点などを整理すること。
評価基準と評価方法	作品課題60%　レポート20%　実習取り組み態度　20% 作品課題：作品の完成度を評価する。（到達目標：「完成させるまでの技能を身につけることができる」の確認） レポート：レポートのまとめ方、考察の内容について評価する（到達目標：「アパレル製品の設計・縫製過程を理解」の確認） 実習取り組み態度：毎回の実習に主体的に臨んでいるか、自らの課題を意識し粘り強く取り組んでいるかについて評価する。（到達目標全体の確認）
履修上の注意	・実習に用いる材料はすべて自己負担 ・購入に際しては題材に合った布地を自ら選ぶこと。 ・10回以上の出席がないと受講資格を失う。実習のため遅刻や欠席をすると作業が大幅に遅れる。遅れた場合は次週までに必ず進めておくこと。 ・課題作品は期限内に必ず提出すること。 ・質問は授業の前後で受けつける。不明なままにしないこと。
教科書	必要に応じてプリントを配付する
参考書	授業の内容に応じて紹介する

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	アパレルデザイン論						
担当教員	藤井　雅範					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73200
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	アパレルデザインに関する表現方法や素材、デザイン、色彩などの基本的な知識を身につける。
授業の概要	私たちが普段着用、購入するアパレル商品は様々なデザイン要素の組み合わせで成り立っている。本講義では、アパレルデザインに関する基本的な知識を身につけ、現在販売されているアパレル商品がどのようにデザインされているか考える。アパレルデザインの提案へと発展させていく。
到達目標	アパレル商品の機能性、審美性、表現方法を知り、服飾デザインの基本について説明できる。【知識・理解】 適切な素材、デザイン、色彩の組み合わせによるバリエーションを提案することができる。【汎用的技能】 アパレルデザインにより、更に質の高い衣生活のあり方を提案し、表現できる。【態度・志向性】
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　アパレルとは、アパレルの商品企画 第３回　ファッションビジネスとは、ブランドについて 第４回　ファッションの変遷①　パリモードの変遷 第５回　ファッションの変遷②　日本のファッションの変遷 第６回　衣服デザインの基礎①　形態 第７回　衣服デザインの基礎②　衣服のディティール 第８回　衣服デザインの基礎③　色彩 第９回　衣服デザインの基礎④　素材 第10回　流行とは何か、ファッションとテイスト 第11回　現在のファッションのトレンドについて 第12回　現代ファッションが取り組む問題 第13回　情報の収集と分析 第14回　デザイン構成の要素 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	［授業前準備学習：２時間］ SNS、ファッション情報サイト、ファッション雑誌等で、積極的に情報収集し、授業の理解に繋げる。 内容の理解につなげる。 ［授業後学習：２時間］ 授業での内容をまとめ、理解できない事柄について復習し、必要であれば、次回授業での質問事項としてまとめる。
授業方法	講義 授業内容に応じて、レポート、実際にデザインを考案する等の課題を課す。 課題にはディスカッション、グループワークを含む
評価基準と評価方法	課題70%　授業態度30% デザインやレポート、リサーチ等各課題を総合的に評価する。
履修上の注意	提出物の期限を厳守すること。 10回以上の出席がないと、受講資格を失う。
教科書	改訂 アパレルデザインの基礎 日本衣料管理協会 03-3437-6416 発行 日本印刷株式会社（ISBNなし）
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	衣生活論						
担当教員	花田　美和子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U11010
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	衣生活学入門
授業の概要	衣生活学の入門として位置づけ、人と被服、社会と被服という観点から衣生活をとらえ、幅広い内容を学ぶ。被服と社会との関連、被服自体のなりたち、被服が人の心と体に及ぼす影響について習得することを目標とする。具体的に取り扱う内容は、被服の歴史と文化、被服の構成、被服の素材、染色、被服衛生、高齢者・障害者の被服とユニバーサルファッション、被服の管理と洗濯、被服の取扱いと表示、被服の廃棄とリサイクル等である。また、衣料管理士のしごとについても解説する。
到達目標	・被服と社会とを関係づけることができる【知識・理解】 ・被服のなりたちについて説明することができる【知識・理解】 ・被服と人の心身とを関係づけることができる【知識・理解】
授業計画	第１回　人と被服との関わりについて考える 第２回　被服の起源 第３回　被服の歴史と文化①和服の歴史 第４回　被服の歴史と文化②洋服の時代へ 第５回　被服の未来　機能性とデザイン 第６回　民族と衣生活 第７回　自然環境と被服 第８回　レポート課題のプレゼンテーション［PC必携］ 第９回　ライフスタイルと被服①　衣生活の現状 第１０回　これからの衣生活、グループディスカッション［PC必携］ 第１１回　ライフスタイルと被服② TPOとフォーマルウェア 第１２回　ライフスタイルと被服③ ライフサイクルから見た衣服設計 第１３回　衣服の取扱いと表示 第１４回　被服の廃棄とリサイクル 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んで予習しておく（60分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をまとめプリントで確認する。（120分）
授業方法	講義、動画視聴等を含む。 BYOD対象科目
評価基準と評価方法	平常点 40%、試験とレポート課題 60% 平常点は、各回提出の小課題の内容、記述の的確さ等を評価する。
履修上の注意	出席を重視する。 ほとんどすべての授業回でmanabaを使用するため、PCの携行を推奨する。
教科書	『生活科学テキストシリーズ　衣生活学』佐々井 啓・大塚美智子 編著（朝倉書店）ISBN 978-4-254-60633-1
参考書	随時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	インテリア・コーディネート実習						
担当教員	山本　嘉寛					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U12150
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	インテリア・コーディネートの概要を実習を通して確実に理解し、表現力の基礎を身につける。
授業の概要	映像を利用した講義の後、内容に即した実習課題に取り組む。ほぼ毎回この流れで授業が進行する。ライフスタイル別のインテリア・コーディネートから開始し、カラーコーディネート、課題空間のゾーニングから家具計画、照明計画、窓装飾計画へと進める。
到達目標	１．インテリアにまつわるスタイル、エレメント、コーディネートについて理解できる。【知識・理解】 ２．漠然としたイメージから具体的な空間を構想することができる。【汎用的技能】 ３．構想した空間を表現することができる。【汎用的技能】 ４．表現した空間を他者に伝えることができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回：授業のガイダンスとスタイル（様式）についての概説[PC必携] 第2回：各自のテーマとなる言葉の検討と、その言葉から連想される空間の実例集め[PC必携] 第3回：床仕上材の概説とそのコーディネート[PC必携] 第4回：壁仕上材の概説とそのコーディネート[PC必携] 第5回：天井仕上材の概説とそのコーディネート[PC必携] 第6回：建具の概説とそのコーディネート[PC必携] 第7回：窓装飾の概説とそのコーディネート[PC必携] 第8回：インテリア模型の概説と演習[PC必携] 第9回：給排水衛生設備の概説とそのコーディネート[PC必携] 第10回：照明器具の概説とそのコーディネート[PC必携] 第11回：インテリア模型の制作(1)床・壁・天井・建具[PC必携] 第12回：建築図面と寸法・縮尺の概説[PC必携] 第13回：インテリア模型の制作(2)仕上[PC必携] 第14回：仕様書・仕上表とコンセプトテキストの制作[PC必携] 第15回：製作した課題のプレゼンテーションと総評[PC必携]
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学修：仕様書・仕上表・インテリア模型の制作を進める。(3時間) 授業後学修：講義内容を復習し、小テストを松蔭manabaに提出する。(1時間)
授業方法	実習・演習形式で行う。 インテリアにまつわるスタイル・エレメント・コーディネートについて概説し、小テストにて内容理解を深める。インテリアを着想する手がかりとして空間的なイメージを帯びた言葉を選び、連想する空間イメージをブラウザの画像検索機能やPinterest等を用いて収集する。仕様書・仕上表はExcelにて制作し、毎回の授業終了時にOneDrivexを用いて提出する。収集したイメージやExcelデータはOneDriveにて共有し、受講生間での考え方の違いや共通点を認識しながら課題を進める。スチレンボードその他の材料を用いてインテリア模型を制作する。制作した課題の要旨をテキストにまとめる。仕様書・仕上表とインテリア模型を用いてプレゼンテーションを行う。 <BYOD対象科目>
評価基準と評価方法	小テスト20%：授業内容の理解度を評価する。 仕様書・仕上表：30%：課題主旨とテーマの整合性、テーマとデザインの整合性、内容の充実度、独自性を評価する。 インテリア模型30%：模型と仕様書・仕上表の整合性、完成度、独自性を評価する。 プレゼンテーション10%：デザインしたアイデアを他者に分かりやすく伝達できているかを評価する。 コンセプトテキスト10%：テーマとテキストの整合性、デザインしたアイデアを他者に分かりやすく伝達できているかを評価する。
履修上の注意	■カッターナイフ、カッターナイフ替刃、ものさし（鋼尺推奨）、のり、はさみ、紙袋(20x20x6[cm]の模型が入る奥行)を各自用意する。 ■その他、必要に応じて各自画材を用意する。 ■Microsoft Excel、Webブラウザ(Internet Explorer、Microsoft Edge、Google Chrome等）、OneDriveの基本的な操作知識が必要である。 ■実習のため毎回出席することが原則である。出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。30分以上遅刻・途中退出・早退の場合は欠席とする。
教科書	なし
参考書	■東京ホテル図鑑　実測水彩スケッチ集 / 著：遠藤慧 / 出版社：学芸出版社 / ISBN978-4-7615-2857-7 ■100 Interiors Around The World (Bibliotheca Universalis) / 編集：Balthazar Taschen , Laszlo Tasche n / 出版社：Taschen America Llc / ISBN-13: 978-3836557269 ■1000 Chairs (Bibliotheca Universalis) / 編集：Charlotte Fiell , Peter Fiell / 出版社：Tasche n America Llc / ISBN-13: 978-3836563697 ■1000 Lights (Bibliotheca Universalis) / 編集：Charlotte Fiell , Peter Fiell / 出版社：Tasche

参考書	n America Llc / ISBN-13: 978-3836546768

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	香りの科学						
担当教員	鳥居　さくら					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73240
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	香りのさまざまな心理学的効用の考察
授業の概要	においは人が生活していくうえで身の周りにあふれている。この授業では、香りの心理学的および生理学的メカニズムについて知ることを目的とする。香りの人間に対する作用のなかには、自律神経系、免疫系、認知機能など心身に対する影響があり、香りを用いた研究例をもとに理解する。また、精油を実際に使いながらそれらの心理的効用を理解する。
到達目標	1. 嗅覚の仕組みに関する用語を理解し、それを用いて嗅覚の特徴を説明できる。[知識・理解] 2. 香りの心理学的効用を複数説明でき、生活の中で用いられる場面と関係づけて自分の考えを述べることができる。[知識・理解][態度・志向性] 3. 実際に精油に触れ、それらの違いを識別でき、特徴や心身に対する作用をわかりやすい言葉で表現することができる。[知識・理解]
授業計画	1.オリエンテーション 2.香りと自己表現　[PC必携] 3.嗅覚の仕組み　[PC必携] 4.香りの鎮静覚醒作用　[PC必携] 5.香りとストレス　[PC必携] 6.香りと睡眠　[PC必携] 7.香りと疲労　[PC必携] 8.香りと免疫　[PC必携] 9.芳香物質の役割　[PC必携] 10.精油の特徴　[PC必携] 11.精油の生理的作用　[PC必携] 12.香りと認知　[PC必携] 13.香りと記憶　[PC必携] 14.嗅覚の個人差　[PC必携] 15.まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業で取り上げる香りの効用について参考書などで予習する。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：授業で実際に嗅いだ香りの特徴と効用を配布用紙に記入、もしくは、松蔭manabaに投稿する（学習時間：2<時間>）
授業方法	主に講義形式でおこなう。各回精油の香りを実際に嗅ぎ、グループで香りの特徴についてディスカッションし、各回のテーマについて解説・講義をおこなう。manabaを利用し小テストやアンケートなどをおこなう授業回もある。 〈BYOD対象科目〉
評価基準と評価方法	授業内での提出物および松蔭manabaへの投稿(40%)　：香りの特徴を表現する力、生活のなかでの香りに関する自分の考えを表現する力を評価する。到達目標２および３に関する到達度の確認。 試験(60%)：嗅覚の仕組み、香りの特徴や効用に関する知識に関する理解度を評価する。到達目標１および３に関する到達度の確認。
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。
教科書	なし。適宜、プリントを配布する。
参考書	「〈香り〉はなぜ脳に効くのか アロマセラピーと先端医療」　NHK出版新書　ISBN: 978-4140883853 「アロマテラピーの教科書」　新星出版社　ISBN: 978-4405091658

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	家族関係学						
担当教員	稲見　直子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72030
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	家族関係を多角的に捉え、家族・家庭生活と社会との関わりについて考える。
授業の概要	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭生活と社会との関わりについて理解を深めるほか、家族・家庭生活を主体的に創造する力を身に付ける。
到達目標	(1)家族・家庭生活に関する多様な事象について科学的に理解することができる。【知識・理解】 (2)家族・家庭生活の中から問題を見いだして課題を設定し解決策を構想できる。【汎用的技能】 (3)よりよい家族・家庭生活の実現に向け、生活を主体的に工夫・創造する態度を身に付けることができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回　人の一生と家族 第2回　青年期の自立と家族 第3回　若者の恋愛と結婚 第4回　少子化とその要因 第5回　家族関係を分析する視点－ジェンダー論 第6回　家族関係を分析する視点－近代家族論(1)　映画「クレイマー、クレイマー」から考える家族 第7回　家族関係を分析する視点－近代家族論(2)　近代化と家族 第8回　家族と労働 第9回　育児の国際比較（日本とスウェーデンを中心に） 第10回　法律と家族 第11回　高齢化と社会保障 第12回　グローバル化と家族 第13回　地域社会と家族 第14回　多様なパートナーシップ・家族 第15回　振り返りと期末テスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱うテーマに関する新聞記事を探して読み、下調べをする。＜2時間＞ 授業後学習：各回の授業で扱ったキーワードを整理しまとめる。＜2時間＞
授業方法	基本的に講義形式をとるが、授業内ではワークシートの記入やグループディスカッションなども取り入れ、学生の主体的な参加を促す。
評価基準と評価方法	・授業参加度（30%）：授業に主体的取り組んでいるか、ワークシートにおいて分析的に書けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・小レポート（20%）：現代家族に関する新聞記事を基にしたレポートを作成し、内容などを総合的に評価。到達目標(2)の確認。 ・期末テスト（50%）：家族に関する専門用語の理解およびグラフ・表の読解を確認。到達目標(1)の確認。
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 ・授業中のスマホ操作・私語・居眠り禁止。注意しても改善されない場合は減点対象とする。
教科書	適宜レジメと資料を配布する。
参考書	神原文子・杉井潤子・竹田美知編著, 2016,『よくわかる現代家族〔第2版〕』ミネルヴァ書房.

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	家族文化演習						
担当教員	白坂　文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73120
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	ブライダル業界やブライダルビジネスの現状を理解し、業種や実態、ブライダルの歴史や慣習、挙式・披露宴、附帯するサービスに関する内容を学ぶ。また、ブライダルのオリジナル企画やブライダル・アイテムの制作も自身で行う。
授業の概要	家族構成の変化として、結婚・出産・エンディングといったライフステージの変化があるが、本授業では特に「結婚」にフォーカスし、人々の結婚観や価値観の多様化・個性化と、専門結婚式場の事業拡大や異業種からの参入などの実態を考察する。また、本学の理念であるキリスト教の愛の精神と結婚式の関係を理解した上で、ブライダル・ビジネスの業種や業態、ブライダルの歴史や慣習、挙式・披露宴、附帯するサービスについての基礎的な知識とマーケティングやサービスに関する授業を演習形式で行う。
到達目標	１.ブライダルに関する基礎知識を習得し、ブライダルの形体に応じた特徴を説明できる。【知識・理解】 ２.結婚式や披露宴の内容について調査し、各自オリジナルのブライダル・プランの企画を提案できる。【汎用的 技能】 ３.各自が提案するブライダル・プランに沿ったブライダル・アイテムを制作できる。【汎用的技能】 ４.ブライダル・プランやブライダル・アイテムについて自身の提案を発表して皆で議論し、最終授業では作品の プレゼンテーションができる。【態度・志向性】
授業計画	【ブライダルの基礎知識】 第１回　ブライダル・マーケットの現状と顧客ニーズ 第２回　ブライダルの歴史と現代のブライダル・トレンド 第３回　本学での結婚式について ※(キリスト教センター：チャプレン、粂さん協力) 第４回　日本の挙式会場の特徴と披露宴スタイル（ホテル・専門式場・ゲストハウス･レストラン） 【ブライダル企画】 第５回　ターゲット設定・コンセプト設定 第６回　ブライダル衣装、ウェディングケーキ、ブライダル・アイテム 第７回　ディスカッション 第８回　オリジナルのブライダル・プランの作成（提案・発表） 第９回　オリジナルのブライダル・プランの作成（まとめ・発表） 第10回　プレゼンテーション 第11回　結婚式場ウェディングの実情　※(学外研修：ザ・ヒルサイド神戸) 【ブライダル・コーディネート】 第12回　ブライダル・アイテムの制作（提案・発表） 第13回　ブライダル・アイテムの制作（まとめ・発表） 第14回　プレゼンテーション、レポート作成 第15回　ホテルウェディングの実情　※（学外研修：ホテル・ラ・スイート神戸） 　　婚礼衣装の実情　※(学外研修：ウェディングサロンイノウエ)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：授業の最後に次週の授業テーマについてアナウンスするので、そのテーマについて調べておく。また、平素より結婚式や披露宴についての最近のトレンドや、神戸ウェディングの特徴についても意識してまとめるようにしておく。（学習時間2時間） 事後学習：授業の内容は毎時各自でまとめ、ブライダル・プランの立案に役立てるようにして、授業の中で自身の意見を提案し、皆で議論していく。最終的には自身で制作したブライダル・プランやブライダル・アイテムのプレゼンテーションを行う。（学習時間2時間）
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業態度：30%　授業への取り組み、積極性、プレゼンテーションを総合的に評価する。 レポート･作品：70%　レポートの内容や作品の完成度で評価する。レポート・作品の評価後は、返却して各自にフィードバックする。
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席とする。 授業は実習を伴うため、各自必要なものを持参し忘れ物をしないこと。 配布プリントをファイリングするファイル(A4サイズ)と、ブライダル・プランの制作用のポケットファイル(A4サイズまたはB4サイズ)を準備する。 また、ブライダル・アイテムに関する材料費は自己負担となる。 ※学外研修を2回予定しているが、日時については補講期間中になる可能性がある。交通費については実費負担となる。詳細は授業内に伝達することとする。

教科書	配布資料をテキストとする。
参考書	適宜、プリントを配布する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	家族文化論						
担当教員	稲見　直子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73110
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	少子化社会における家族文化について概説し、子どもが育つ環境を整備し支援していくための社会的支援について考える。家族がそのライフコースにおけるターニングポイントにおいて通過儀礼として経験する結婚、出産、死などに関して生活学の視点から考察をする。結婚、生（命）の誕生と終焉の場面において、家族や地域に受け継がれてきた儀礼が特定サービス産業に担われるに従い、変化を余儀なくされている。当事者本人と家族が、生（命）の選択や誕生、終焉に対して自由な選択肢を持つとともにリスクを持つといった葛藤に直面していることに焦点を当て解決策を考える。
授業の概要	家族がそのライフステージにおいて経験する家族や地域に受け継がれてきた文化について考察する。当事者本人と家族が、結婚、生（命）の選択や誕生、子育て、青年期のアイデンティティ確立に対して自由な選択肢を持つと共にリスクを持つといった葛藤に直面していることに焦点を当て解決策を考える。また格差社会における子育てにも焦点を当てるとともに、グローバル化が進んだ社会における多文化共生社会についても概説し、多様な家族文化の中で起こる問題点を解決する社会的支援について説明する。
到達目標	(1) 親や家族の関わり方についての歴史を概観し、近代社会における子育ての文化を理解できる。【知識・理解】 (2) 子ども（乳幼児）の発達と生活についての基本的な知識を理解する。【知識・理解】また、保育観察を通して、子ども（乳幼児）と関わるためのコミュニケーションについて、実践的に学ぶ。【態度・志向性】 (3) 多文化共生社会に育つ子どもの社会化を学び、家族文化の多様性を認識できる。【知識・理解】
授業計画	第1回　晩婚化－結婚に関する家族文化の変化－（グループワーク） 第2回　生殖技術のもたらすもの 第3回　子どもの社会化と文化 第4回　母性神話と3歳児神話 第5回　育児とジェンダー 第6回　ひとり親家族と社会的支援 第7回　子どもの運動機能の発達・基本的生活習慣、保育観察事前指導 第8回　保育観察（次回までに保育観察記録作成） 第9回　地域社会における子育て支援 第10回　子どもの遊びと社会性の発達・地域子育てセンター事前指導 第11回　地域子育てセンター観察（次回までに保育観察記録作成）（学外見学・フィールドワーク） 第12回　日本のマイノリティー家族 第13回　家族の国際化と子ども（プレゼンテーション） 第14回　多文化共生社会における子どものアイデンティティ 第15回　子どもと社会・文化環境、期末テスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業の前に次回授業に関する内容について参考書や新聞記事などを示すので、そのテーマに沿って下調べをする。＜2時間＞ 授業後学習：結婚に関して、その歴史的変遷や現代の結婚が儀式として家族文化の中にどのように捉えられてきたかに関して、グループワークを行う。地域の子育て支援をフィールドワークし、その観察記録を作成し、地域社会における子育てについてレポートを作成する。＜2時間＞
授業方法	講義：結婚に関する家族文化についてはグループワークを行い、女性のライフコースの中でどのような価値観によって、結婚の時期、配偶者選択、結婚式という文化が形成されるか、グループ討議を行い発表する。また子育ての文化については、ジェンダーに基づく価値観がどのように浸透し、今日の育児の文化が形成されてきたかを理論的に検討する。検討結果をもとにフィールドワークを行い、地域における子育て支援の現状を把握し、格差社会における子育ての課題を考え、対策について松蔭manabaを使ってプレゼンテーションを行う。
評価基準と評価方法	小レポート、発表と期末試験（小レポート60%、期末試験40%） 小レポート：到達目標(1)に関して、親や家族の関わり方について結婚を取り上げ、晩婚化の中で近代社会における子育て文化の変化を理解しているか、プレゼンテーションにおいて到達度の確認をする。レポートに関しては、地域における子育て支援センターのフィールドワークの体験記録作成、自治体の施策の調査によって、到達目標(2)と(3)を確認する。レポートは評価基準を事前にルーブリック評価として示し、松蔭manaba上で評価結果を示し、その都度フィードバックする。 期末テスト：主に、到達目標(2)を確認するために、結婚に関する文化および子育て文化の歴史的変遷とその文化的背景についての理解度を評価する。試験結果は解説とともに返却する。
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。 学外に出て、データを集めたりフィールドワークをし、その結果を報告することがある。それに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。
教科書	その都度配布物を渡します。
参考書	『グローバリゼーションと子どもの社会化：帰国子女・ダブルスの国際移動と多文化共生』、竹田美知、学文社、2015、ISBN978-4762024986

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	家庭電気・機械						
担当教員	福田　博也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72150
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	身近な家電情報機器の役割や仕組みについて学ぶ
授業の概要	生活と技術との関係について、生産、家庭生活、教育の視点から考察する。家庭生活に関わる機器、情報通信技術と各種ソフトウェアに関する基礎的な知識を得る（知識・内容の理解）。家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェア、情報セキュリティ等について関心を持つ（関心・意欲）。情報通信技術と各種ソフトウェアに関する諸問題について、倫理的な見方や考え方を身につける（態度）。
到達目標	・身近にある家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェアの仕組みがわかるようになる。（知識・理解） ・適切な製品を選択できるようになる。（知識・理解） ・機器を安全かつ有効に使用できるようになる。（知識・理解）
授業計画	授業計画は以下のとおり 第 1回　食生活と機器 第 2回　衣生活と機器 第 3回　住生活と機器 第 4回　電気・機械の基礎知識 第 5回　家庭用のエネルギー 第 6回　技術と環境問題 第 7回　エネルギー変換、電池 第 8回　情報機器のしくみ・ディジタル AV 機器 第 9回　情報機器のしくみ・家庭用パーソナルコンピュータ 第10回　情報ネットワークの仕組み 第11回　情報の収集、処理、分析、発信 第12回　通信ネットワーク、インターネットの現状と近未来 第13回　個人情報とプライバシー、情報セキュリティ 第14回　家庭の省エネルギー 第15回　まとめと期末試験 ※受講生の理解度に応じて、授業テーマの順番を変更することがある
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次回の授業で扱うテーマや専門用語について下調べをする（学習時間：2 時間） 授業後学習：授業内容について整理し、各回ごとにレポートとしてまとめる（学習時間：2 時間）
授業方法	講義または、学生による発表
評価基準と評価方法	期末試験 60%、提出物 20%、平常点 20% 程度の割合で総合的に評価する 平常点は、授業中に行う演習問題、発表内容などをもとに評価する
履修上の注意	全授業回数の 2/3 以上に出席しなければ、期末試験を受験した場合でも「不可」となる ※毎回の積み重ねが求められる授業です。身の回りの「エレクトロニクス」など、実用例を交えながら講義しますので、最後まで受講を続けて下さい ※普段から、身の回りの「電気」「電子」「機械」「情報」に目を向けるようにして下さい
教科書	初回の授業で指示する
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	カフェマネジメント演習						
担当教員	藤田　佳子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U23460
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	将来カフェ経営や企画業務を目指す者にとって必要な食空間の演出基礎知識を、実践しながら将来の出店も可能であるように 修得できるように学ぶ。
授業の概要	カフェのオープンに必要な準備やオープンまでのプロセス、開店後のマネジメント管理やイベント開催での集客についても考える。カフェの意義をなが考えながら、自らのイメージ店舗開店のシュミレーションまで行う。 さらに、開店後のマネジメント管理、販売促進についての手法についても考えていく。 これからのカフェマネジメントにより近い形で実践する。
到達目標	（1）前期での書面上のシュミレーションをもとに、レイアウトやテーブルセッティングを習得し、実践する。【汎用的技能】（2）フィールドリサーチを行い、現代のニーズとテーマをコンセプトにカフェ経営における必要なメニュー作成、コーヒー紅茶の淹れ方の実践を行い、修得する。【汎用的技能】 （3）社会に向けて提案できるようなカフェ経営における販売促進や、イベントを企画し、発表する【汎用的技能】
授業計画	第1回　カフェコンセプト、店舗イメージ、カラーと素材の設定 第2回　テーブルコーディネートとセッティング 第3回　テーブルコーディネートとセッティング 第4回　コーヒーの淹れ方演習１ 第5回　コーヒーの淹れ方演習２ 第6,7回　カフェコンセプトとコーディネートのフィールドリサーチ（校外学習を1日土曜日に開催予定） 第8回　フードメニューと構成 第9回　紅茶の淹れ方　演習１ 第10回　紅茶の淹れ方　演習２ 第11回　実践ドリンクとフードメニューの作成と計画レポート 第12回　開店イベント企画　プレゼンテーション準備 第13回　開店イベント企画　プレゼンテーション準備 第14回　カフェイベント（グループ発表）開催 第15回　カフェイベント（グループ発表）開催
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	復習をすることで最終発表の際の到達度をあげていくこと グループ課題レポートの完成 プレゼンテーションや企画イベント準備は授業外に学習 4時間
授業方法	グループワーク ディスカッション プレゼンテーション フィールドワーク 実習
評価基準と評価方法	授業態度や実習への取り組み40% レポート30% プレゼンテーション30%
履修上の注意	30分以上の遅刻の場合は欠席とする 出席回数が2/3に満たないものは、原則単位認定を行わない
教科書	プリントを配布する
参考書	ホームパーティーのためのテーブルコーディネートとマナー 丸山洋子著　ISBN978-4-901359-76-4 C0077

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	カフェマネジメント論						
担当教員	藤田　佳子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73510
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	将来カフェ経営や企業内企画業務を目指す者にとって必要な食空間や食文化の基礎知識を学修する
授業の概要	カフェのオープンに必要な準備やオープンまでのプロセス、開店後のマネジメント管理やイベント開催での集客についても考える。カフェとは何か。カフェの歴史、現在のカフェ事情、将来的に開業を目指す場合の手順や準備すべき内容を理解する。自分が考えるカフェをイメージし、店舗開店のシュミレーションまで行う。開店後のマネジメント管理、販売促進についての手法についても考えていく。
到達目標	（1）カフェに関する歴史、一般基礎、開店準備までの知識を習得する【知識・理解】 （2）知識をもとに、校外リサーチをおこない、自らの店舗の開店シュミレーションを起こす。 （3）シュミレーションしたカフェを開店後、マネジメント管理、販売促進について企画し、現実化を社会にアピールするようにプレゼンテーション能力を高める。
授業計画	第1回　カフェの歴史 第2回　コーヒー・紅茶の歴史と基礎知識 第3回　食空間、食文化の基礎知識 第4／5回　多様化するカフェのフィールドワーク（情報収集のための校外学習を１日土曜日に開催予定） 第6回　テーブルコーディネート、コンセプトメイキング 第7回　カフェコンセプトの設定方法とカフェ事情日欧比較 第8回　店舗設計、平面計画についての基礎知識 第9回　物件事情と設計依頼、人材教育と管理について 第10回　開業手順の基礎知識、リサーチのための準備 第11回　カフェ開業のための経営基礎　１ 第12回　カフェ開業のための経営基礎　２ 第13回　店舗開店シュミレーションとプレゼンテーション 第14回　店舗開店シュミレーションとプレゼンテーション 第15回　店舗開店後販売促進企画
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業時間内で指定したレポートを提出（時間内に完成できなかった人は次の回までに完成させておくこと） 知識に関するレポート、校外リサーチのレポート、自らの店舗企画案、販売促進のためのプレゼンテーションを授業外に準備すること 4時間
授業方法	ディスカッション グループワーク プレゼンテーション フィールドワーク
評価基準と評価方法	授業態度20% 授業内レポート50% 最終プレゼンテーションとレポート30%
履修上の注意	授業内容を理解し、レポートを提出すること その理解の上で、リサーチを行うこと リサーチ後は知識をもとにシュミレーションを行い、プレゼンテーションを完成させていく 出席回数が開講の2/3に満たないものは原則単位認定を行わない フィールドワークではリサーチを行い、交通費、飲食代などは実費負担
教科書	プリント配布するが、可能なかぎり参考書持参
参考書	カフェ開業　パーフェクトマニュアル　竹谷稔彦著　商店建築者　04466-02 4910044660282 03241 テーブルコーディネート　改訂版　丸山洋子著　978-4-901359-69-6 C2077

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	官能評価演習						
担当教員	川口　真規子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U23480
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	ヒトの五感（味覚、嗅覚、視覚、聴覚、触覚）を用いて食品を評価する手法の種類と方法を修得する。 食品の鮮度やおいしさの指標となる項目を学び、食品の鑑別方法を修得する。
授業の概要	講義と演習・実験を行い、食品のおいしさや品質についての専門的な評価能力を養う。
到達目標	１）代表的な食品の鮮度判定ができる。【汎用的技能】 ２）食品のおいしさや品質に大きな影響をおよぼす各種反応について理解し、その原理を説明できる。 【知識・理解】 ３）食品企業などで行われる市場調査や嗜好調査に用いられる基本的な官能評価を実施することができる。 【汎用的技能】
授業計画	第１回　はじめに　食品の官能評価とは（講義） 第２回　官能評価の実施法（講義） 第３回　パネル選定のための味覚感度テスト　[PC必携] 第４回　２点比較法　味噌汁の塩分濃度の識別　　[PC必携] 第５回　２点比較法　ココアの嗜好試験　[PC必携] 第６回　３点識別試験法　チョコレートの識別　　[PC必携] 第７回　配偶法　紅茶の識別　　順位法　スポーツドリンク嗜好の一致性　　[PC必携] 第８回　うまみの相乗効果　官能評価 第９回　評点法　クッキーの嗜好調査　　[PC必携] 第１０回　食品の品質と鑑別方法（講義） 第１１回　りんごの酵素的褐変 第１２回　アミノカルボニル反応 第１３回　果実のおいしさ　糖度と酸度測定 第１４回　卵の鮮度判定 第１５回　野菜に含まれるクロロフィルの変色
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	原則として授業時間内にデータ整理、考察などの学習を行う。 事前学習：各回に行う官能評価の方法について教科書を読み、検定方法について理解しておく。 （学習時間90分） 事後学習：文献調査などを行い、データおよび検定結果をまとめ、レポートを作成する。 （学習時間90分）
授業方法	講義、演習、実験　《BYOD対象科目》 演習では官能評価の調査員側とパネルメンバーを交代で行う。 実験は結果についてグループごとにディスカッションを行う。
評価基準と評価方法	授業態度（３０％）：演習・実験に対する積極性、協調性などで評価する。到達目標３）に関する確認。 レポート（７０％）：演習・実験データのまとめ方、図表の作成の仕方、考察の的確さなどで評価する。到達目標１）２）３）に関する確認。
履修上の注意	食品を扱うので衛生面には留意すること。 演習・実験の時は白衣着用のこと。 食品アレルギーのある学生は事前にその旨連絡してください。
教科書	三訂食品の官能評価・鑑別演習　フードスペシャリスト協会編　建帛社　ISBN　978-4-7679-0506-8 その他　プリント配布
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	共生社会論						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72050
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	「共生」「多文化」「格差」をキーワードに社会的諸問題について考える
授業の概要	本講義は、共生社会のあり方を理解することを目的とする。共生社会とは、男女、世代、地域、民族など、さまざまな生活習慣や文化を持つ集団に属する人々が、互いの違いを認め対等な関係を築く社会である。２１世紀は、グローバル化が加速し、多様な資源が国境を越えて大規模に移動する時代である。このような時代に、人々が、共に尊重し合いながら、生活するためにはどのようなことが必要であるか考える。さらに、具体的な事例を通して、自らの価値観や行動を振り返ることで、共生社会を生きる生活者に必要な基礎的教養および態度を身につける。
到達目標	(1) 「共生」「多文化」「格差」をめぐる諸問題について、自らの視点から考えを述べることができる。【汎用的技能】 (2) これらの問題に対する専門用語について理解ができる。【知識・理解】 (3) 各種学習活動について、積極的な姿勢で取り組むことができる。【態度・志向性】
授業計画	第１回　ガイダンス（授業形態と個人発表日程決め） 第２回　あいさつと多文化 第３回　祭り・労働から考える多文化 第４回　環境問題と多文化 第５回　都市化・過疎化と共生 第６回　都市化・過疎化に対する政策 第７回　動物との共生①（社会生活における動物との関わり） 第８回　動物との共生②（伴侶動物を中心に） 第９回　子供を取り巻く格差①（相対的貧困率や社会的排除を中心に） 第10回　子供を取り巻く格差②（我が国の施策を中心に） 第11回　多様な選択と社会資源　※ゲストスピーカーによる講演 第12回　外国人との共生①（訪日・在留資格の観点から） 第13回　外国人との共生②（労働力の観点から） 第14回　万人との共生 第15回　終講課題と質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：話題提供レポートは、各自で責任をもって必ず発表すること。詳細は、第１回目の講義で案内する。＜2時間＞ 授業後：講義資料は、毎回松蔭manabaで公開するので、適宜チェックすること。自分が理解不足だと感じる点についてはmanabaの講義資料をもとに必ず復習しておくこと。＜2時間＞
授業方法	講義 ・松蔭manabaを積極的に活用する（資料公開、レポート提出など）。 ・本講義はアクティブラーニング（グループワーク、ペアワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。
評価基準と評価方法	・話題提供レポート：着眼点、体裁、テーマとの対応関係、内容の発展性、引用・参考文献の記入状況等＜30%＞ →到達目標(1)に対応 ・終講課題：専門用語を用いて自らの考えを述べられているか＜20%＞ →到達目標(1)～(3)に対応 ・授業のワークシート記入及び受講態度などの平常点：ノートに必要事項を整理できているか、他者と協働的に学ぶことができているか、取り組んだ内容を適切な方法でプレゼンできているか、など＜50%＞ →到達目標(2)および(3)に対応
履修上の注意	・話題提供の順番を変更する場合は、個別に日程調整を図り日程が決定し次第報告すること。 　個別の調整が難しい場合は必ず事前に相談すること。 ・講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	起業マネジメント論						
担当教員	青谷　実知代					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73580
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	起業家精神の広がりを歴史的・社会的背景と関連させながら、次世代リーダーに求められる資質とスキルの必要性について理解を深める。
授業の概要	社会・経済が変化をする中で、働き方も大きく変わり、いまでは日本人の約9割はサラリーマン（サラリーウーマン）社会となりましたが、コロナ禍における働き方の大きな転換点を迎えたことで現在、再び起業をしようと意欲を持つ人が増えてきました。その背景には、例えば2021年、電通が40歳以上を対象にした個人事業主化を進めたり、パナソニックが50〜55歳を対象にした早期退職を募ったりしたことが話題となりましたが、一人でも多く起業家が増えるチャンスであり、また起業までしなくても、起業家マインドを持った人が増えることが期待されています。ポジティブな循環が始まり、社会・経済・個人のポテンシャルが花開く道しるべとなるよう起業する為の必要な事柄について学修する。
到達目標	①社会・経済で変化を起こす先導的な役割を果たす人たちの特徴をつかむことができる。（態度・志向性） ②アントレプレナーシップを実践するためのプロセスを描くことができる。（汎用的技能） ③基本的な知識を体系的に習得することができる。（知識・理解）
授業計画	第１回　　アントレプレナーシップの基礎理論 第２回　　アントレプレナーシップの社会的意義（起業家になるべき５つの理由） 第３回　　アントレプレナーシップの倫理教育（起業にまつわる５つの誤解） 第４回　　独立アントレプレナー（起業への影響要因と起業プロセス：起業型キャリアの５つのタイプ） 第５回　　個人事業と会社設立【PC必携】 第６回　　個人事業を開業するための準備①税金の仕組み【PC必携】 第７回　　個人事業を開業するための準備②申告書の提出と納税（視察予定：フィールドワーク） 第８回　　個人事業を開業するための準備③ケーススタディ（視察予定：フィールドワーク） 第９回　　会社設立をするための準備（起業を成功させるステップ：副業、独立）（ゲストスピーカー招聘） 第10回　　成長期のアントレプレナーシップと外部資源（ディスカッション：スタートアップ起業）【PC必携】 第11回　　成長期のアントレプレナーシップと内部資源（ディスカッション・ディベート）【PC必携】 第12回　　長寿企業とアントレプレナーシップ（プレゼンテーション）【PC必携】 第13回　　アントレプレナーシップとエスニック・マイノリティ【PC必携】 第14回　　起業計画書作成【PC必携】 第15回　　アントレプレナーシップとまとめ（期末試験）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】アップルやFacebook、ユニクロなど各創業者・起業者のヒストリーを授業で紹介するので、資料を収集し、読んでまとめる（学習時間：2時間） 【授業後】新聞・雑誌必読しつつ、授業で指示された課題をレポート作成すること。松蔭manabaで提出（学習時間：２時間）
授業方法	講義形式（BYOD対象科目） ・課題解決型学修 ・ディスカッションやディベート、プレゼンテーション、フィールドワークも取り入れる。
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（２回）manabaで提出（20%）、期末試験（60%）よって総合的に判断する。
履修上の注意	①GoogleやLINE、また女性の起業家の取り組みなど、知識を増やすために新聞やニュースを常に見ておくこと。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③食ビジネス専修の学生は、「マーケティング論」と合わせて受講することが望ましい。 ③アクティブラーニング（プレゼンテーション、ディベート・ディスカッション等）を積極的に取り入れる。 ④フィールドワークを取り入れるため（起業視察を検討）、交通費等自己負担となる。
教科書	毎回資料を配布しながら、随時紹介をする。
参考書	随時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎栄養学						
担当教員	川口　真規子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U12120
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	栄養について科学的に理解し、乳児期から高齢期までの各ステージにおける栄養に応用できる。
授業の概要	食物から摂取される各栄養素は身体の構成成分、細胞および臓器間での代謝に利用され、生命維持、体温保持、成長発育、活動、生殖に不可欠な役割を担う。 本講義ではまず、「栄養とは何か」、その意義について理解する。次いで、主に各栄養素の種類と特徴およびその生理作用、そして生体における代謝について学ぶ。 さらに、主要なライフステージの応用栄養学へと発展させる。 具体的には、①栄養の概念、②５栄養素と消化・吸収・体内動態、③食品の機能性、④ライフステージと栄養、⑤生活習慣と健康などについて解説する。
到達目標	１）5大栄養素の消化・吸収、代謝の過程と、体内での役割が記述できる。【知識・理解】 ２）主要なライフステージでの栄養の特徴が答えられる。【知識・理解】 ３）食品の機能性について列挙できる。【知識・理解】
授業計画	第1回　健康と栄養：　健康概念と栄養・食生活 第2回　食事と栄養物質(1)：　炭水化物の栄養 第3回　食事と栄養物質(2)：　脂質の栄養 第4回　食事と栄養物質(3)：　タンパク質の栄養（たんぱく質の構造とアミノ酸） 第5回　食事と栄養物質(4)：　タンパク質の栄養　（たんぱく質の代謝） 第6回　食事と栄養物質(5)：　ビタミン・ミネラルの栄養 第7回　食事と栄養物質(6)：　エネルギー代謝　　小テスト 第8回　食事と健康 第9回　健康づくりのための政策・指針　[PC必携] 第10回　健康とダイエット　　[PC必携] 第11回　ライフステージと栄養(1)：　胎児・妊娠・授乳期　新生児期・乳児期　　[PC必携] 第12回　ライフステージと栄養(2)：　幼児期・学童期・思春期　　[PC必携] 第13回　ライフステージと栄養(3)：　成人期・高齢期　　[PC必携] 第14回　生活習慣病と栄養 第15回　免疫と栄養　期末テスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく。 グループディスカッションに必要な資料を集め、発表用パワーポイントを作成する。 （学習時間：2時間）。 授業後：配布プリントでの復習やグループディスカッション時の質問内容を整理し、 学習内容をノートにまとめる（学習時間：2時間）。
授業方法	講義 ライフステージ栄養学（第11回～第13回）授業時にはグループディスカッションと発表を行う。 《BYOD対象科目》
評価基準と評価方法	授業態度（20%）： グループディスカッションでの協調性・積極性および質問に対する回答の的確性で評価する。 到達目標２）に関する確認。 小テスト（30%）、期末テスト（50%）： 到達目標１）２）３）に関する確認。
履修上の注意	教科書の購入を早めにしておいてください。 積極的に学ぶ姿勢が必要です。
教科書	三訂　栄養と健康第2版 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社ISBN 978-4-7679-0661-4　　その他適宜プリント配布
参考書	特になし

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	稲見　直子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0106A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の１年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとする。
授業の概要	本演習は、生活学科の１年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通したデータの収集、レポートの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科で学ぶための意欲や基礎力を養っていく。
到達目標	(1) 図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 (2) 学科での学びの基礎となるレポート作成およびプレゼンテーション技法の基本的なスキルを身につける。【汎用的技能】 (3) フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回　オリエンテーション ※PC必携 第2回　大学での学び方、キャンパス探検 第3回　図書館オリエンテーション 第4回　文献資料の読み方 第5回　引用・参考文献の書き方／研究倫理について ※PC必携 第6回　レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体）※PC必携 第7回　レポートの書き方Ⅰ（レポートの論理構造）※PC必携 第8回　レポートの書き方Ⅱ（レポートの結論）※PC必携 第9回　レポートの書き方Ⅳ（レポートの修正）※PC必携 第10回　フィールドワークの計画（地元の街を紹介する）※PC必携 第11回　フィールドワーク実施（地元の街の情報収集） 第12回　プレゼンテーションの仕方　※PC必携 第13回　パワーポイントの作成　※PC必携 第14回　プレゼンテーション 第15回　夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業によって出される課題（例：資料収集、フィールドワーク準備、プレゼンテーション準備など）を次の講義まで行う。＜2時間＞ 授業後学習：個々の課題に応じた補充的学習（例：資料の要点をまとめる、PCの操作復習など）を推奨する。＜2時間＞
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・受講姿勢・態度(40%)：授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿勢や他者と協働して学ぼうとする態度が築けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)の確認。 ・レポート(30%)：論理的かつ分析的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(2)の確認。 ・プレゼンテーション（30%）：フィールドワークで収集したデータや報告態度・内容などを総合的に評価。到達目標(2)(3)の確認。 ※評価基準（評価ルーブリック）は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。
履修上の注意	※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・学外でのフィールドワークに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。
教科書	学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。
参考書	適宜指示する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0106A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の１年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとする。
授業の概要	本演習は、生活学科の１年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通したデータの収集、レポートの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科で学ぶための意欲や基礎力を養っていく。
到達目標	(1) 図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 (2) 学科での学びの基礎となるレポート作成およびプレゼンテーション技法の基本的なスキルを身につける。【汎用的技能】 (3) フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回　オリエンテーション ※PC必携 第2回　大学での学び方、キャンパス探検 第3回　図書館オリエンテーション 第4回　文献資料の読み方 第5回　引用・参考文献の書き方／研究倫理について ※PC必携 第6回　レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体）※PC必携 第7回　レポートの書き方Ⅰ（レポートの論理構造）※PC必携 第8回　レポートの書き方Ⅱ（レポートの結論）※PC必携 第9回　レポートの書き方Ⅳ（レポートの修正）※PC必携 第10回　フィールドワークの計画（地元の街を紹介する）※PC必携 第11回　フィールドワーク実施（地元の街の情報収集） 第12回　プレゼンテーションの仕方　※PC必携 第13回　パワーポイントの作成　※PC必携 第14回　プレゼンテーション 第15回　夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業によって出される課題（例：資料収集、フィールドワーク準備、プレゼンテーション準備など）を次の講義まで行う。＜2時間＞ 授業後学習：個々の課題に応じた補充的学習（例：資料の要点をまとめる、PCの操作復習など）を推奨する。＜2時間＞
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・受講姿勢・態度(40%)：授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿勢や他者と協働して学ぼうとする態度が築けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)の確認。 ・レポート(30%)：論理的かつ分析的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(2)の確認。 ・プレゼンテーション（30%）：フィールドワークで収集したデータや報告態度・内容などを総合的に評価。到達目標(2)(3)の確認。 ※評価基準（評価ルーブリック）は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。
履修上の注意	※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・学外でのフィールドワークに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。
教科書	学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。
参考書	適宜指示する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	稲見　直子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0106B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	2年次のコース選択に向けて今後の学びの発展について探究学習を行う。
授業の概要	都市生活学科では、2年次から各自の関心分野に基づいてコース別に学びを深めるため、本演習では自らの学びの関心をみつけるとともに、各コースでどのような学びができるのかを探究する。これによって、各コースの基礎知識を身に付けるだけでなく、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科で学ぶための意欲や基礎力を養っていく。
到達目標	(1) 自らの学びの関心を見つけ、その分野の理解を深める。【知識・理解】 (2) 自らの学びの関心分野について自身の考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技能】 (3) 他者と協働かつ主体的な姿勢で授業に参加することができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回　夏休みの課題報告 第2回　自らの学びの関心を考える／調査倫理について ※PC必携 第3回　グループワークⅠ（関心分野の資料収集）※PC必携 第4回　グループワークⅡ（関心分野の理解）※PC必携 第5回　グループワークⅢ（調べたことを整理）※PC必携 第6回　グループワークⅣ（調べたことをまとめる）※PC必携 第7回　中間報告と質疑応答 第8回　グループワークⅠ（中間報告のフィードバックとテーマ設定）※PC必携 第9回　グループワークⅡ（パワーポイントの機能とスライドの構想）※PC必携 第10回　グループワークⅢ（スライドの編集）※PC必携 第11回　グループワークⅣ（スライドの仕上げ）※PC必携 第12回　プレゼンテーションⅠ（1stグループ）※PC必携 第13回　プレゼンテーションⅡ（2ndグループ）※PC必携 第14回　プレゼンテーションⅢ（3rdグループ）※PC必携 第15回　次年度の学びへ向けて
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備など）を次の講義まで行う。＜2時間＞ 事後学習：個々の課題に応じた補充的学習（例：資料の要点をまとめる、PCの操作復習など）を推奨する。＜2時間＞
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・受講姿勢・態度(40%)：授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿勢や他者と協働して学ぼうとする態度が築けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・プレゼンテーション（60%）：プレゼンテーションに用いたデータや資料、プレゼンテーションの態度・内容などを総合的に評価。到達目標(2)(3)に対応。 ※評価基準（評価ルーブリック）は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。
履修上の注意	※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。
教科書	学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。
参考書	適宜指示する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0106B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	2年次のコース選択に向けて今後の学びの発展について探究学習を行う。
授業の概要	都市生活学科では、2年次から各自の関心分野に基づいてコース別に学びを深めるため、本演習では自らの学びの関心をみつけるとともに、各コースでどのような学びができるのかを探究する。これによって、各コースの基礎知識を身に付けるだけでなく、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科で学ぶための意欲や基礎力を養っていく。
到達目標	(1) 自らの学びの関心を見つけ、その分野の理解を深める。【知識・理解】 (2) 自らの学びの関心分野について自身の考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技能】 (3) 他者と協働かつ主体的な姿勢で授業に参加することができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回　夏休みの課題報告 第2回　自らの学びの関心を考える／調査倫理について ※PC必携 第3回　グループワークⅠ（関心分野の資料収集）※PC必携 第4回　グループワークⅡ（関心分野の理解）※PC必携 第5回　グループワークⅢ（調べたことを整理）※PC必携 第6回　グループワークⅣ（調べたことをまとめる）※PC必携 第7回　中間報告と質疑応答 第8回　グループワークⅠ（中間報告のフィードバックとテーマ設定）※PC必携 第9回　グループワークⅡ（パワーポイントの機能とスライドの構想）※PC必携 第10回　グループワークⅢ（スライドの編集）※PC必携 第11回　グループワークⅣ（スライドの仕上げ）※PC必携 第12回　プレゼンテーションⅠ（1stグループ）※PC必携 第13回　プレゼンテーションⅡ（2ndグループ）※PC必携 第14回　プレゼンテーションⅢ（3rdグループ）※PC必携 第15回　次年度の学びへ向けて
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備など）を次の講義まで行う。＜2時間＞ 事後学習：個々の課題に応じた補充的学習（例：資料の要点をまとめる、PCの操作復習など）を推奨する。＜2時間＞
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・受講姿勢・態度(40%)：授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿勢や他者と協働して学ぼうとする態度が築けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・プレゼンテーション（60%）：プレゼンテーションに用いたデータや資料、プレゼンテーションの態度・内容などを総合的に評価。到達目標(2)(3)に対応。 ※評価基準（評価ルーブリック）は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。
履修上の注意	※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。
教科書	学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。
参考書	適宜指示する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	金融商品学						
担当教員	荒木　千秋					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73100
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	金融商品の体系的知識を習得するとともに、生活者の立場からライフプランに合った金融商品の選び方を学ぶ。
授業の概要	金融に関する基本的な理解と金融商品全体の体系的な知識を学ぶ。特に金融商品の持つさまざまなリスクや金融トラブルを回避するための基礎知識と対処法、金融商品や金融機関にする法律などについて理解を深める。具体的には、生活者の立場から金融商品の選び方・組み合わせ方、金融商品を巡る環境の変化と自己責任、ライフプランに合った金融商品の選択について学ぶ。
到達目標	(1)「ライフプランニングの中に金融商品がどのように位置付けられ、その重要性がどのようなものであるかということを理解できる」【知識・理解】 (2)「金融商品の体系的な知識を習得し、その具体的説明ができる」【汎用的技能】 (3)「生活者の立場からライフプランに合った金融商品の選び方を身近なものとして認識することができる」【態度・志向性】
授業計画	第1回　ガイダンス：ライフプランニングの中の資産形成 第2回　金融・経済の基本①：GDP、経済成長率、景気動向指数、CIとDI 第3回　金融・経済の基本②：日銀短観、マネーストック、物価指数、金融市場と金利変動、金融政策、財政政策 第4回　セーフティネットと関連法規：預金保険制度、投資保護基金、消費者契約法、金融商品販売法、金融商品取引法、その他の法規〔PC必携〕 第5回　貯蓄型金融商品①：金利の基礎知識、銀行の金融商品 第6回　貯蓄型金融商品②：ゆうちょ銀行の金融商品、信託銀行の金融商品 第7回　債券：債券の基本、債券の利回り、債券のリスク 第8回　株式：株式の基本、株式取引、信用取引、株式ミニ投資と株式累積投資(るいとう)、株式指標〔PC必携〕 第9回　第5～8回のまとめと中間試験〔PC必携〕 第10回　投資信託：投資信託の基本、投資信託の分類、主な投資信託の種類、投資信託のディスクロージャー、トータルリターン通知制度、投資信託取引〔PC必携〕 第11回　外貨建て金融商品：外貨建て金融商品の基本、主な外貨建て金融商品 第12回　その他の商品：金融派生商品(デリバティブス) 第13回　ポートフォリオ理論：ポートフォリオ理論の基本、ポートフォリオ理論で用いる指標、ポートフォリオの期待収益率とリスク 第14回　税金と制度：預貯金と税金、債券と税金、株式と税金、投資信託と税金、資産形成制度〔PC必携〕 第15回　第10～14回のまとめと定期試験〔PC必携〕
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献資料を図書館およびweb検索で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業の復習を行うこと(学習時間：2時間)
授業方法	各回設定のテーマについて講義する。授業の単元ごとに、演習問題または、レポート課題を出す。PCを使いながら、その問題に個人ワークあるいはグループワークによって答えること。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第10～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第5～8回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：小テストと松蔭manabaコースコンテンツへの提出物によって内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、定期試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・授業開始後30分経過後を遅刻とし、遅刻は4回で1回の欠席扱いとする。 ・学校感染症、公共交通機関の運休・遅延といったやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限って考慮の対象とする。 ・〔PC必携〕の授業回は、パソコンを持参すること。
教科書	特に使用しない。
参考書	授業中に適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	経営学概論／経営学基礎演習						
担当教員	青谷　実知代					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U11140
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	社会全体そして個々人の生活にまで多大なる影響を及ぼす、企業あるいは会社というものの存在に関心を持ち、経営とは何かを習得する。
授業の概要	経営学の基礎知識を概観した上で、企業の中で「ヒト」をどのように育てるか、購入はどのように自分の能力やスキルを高めることについて考える、自身が企業に入社した場合にどのように成長して、より良い企業人生を送るのかを自らの視点で学んでほしい。
到達目標	①リーダーシップ論の基本的な知識を修得する。（知識・理解） ②企業における人材開発の基本部分を理解できる。（知識。理論） ③自己の能力やスキルの発揮について身近な課題に結びつけて考えることができる（知識・理解）
授業計画	第1回　日本の企業と経営 第2回　変貌する経営 第3回　企業と会社：経営理念と組織文化【PC必携】 第4回　企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり 第5回　企業とアウトプット（製品・サービス）市場との関わり 第6回　競争戦略のマネジメント：基本的な考え方【PC必携】 第7回　競争戦略のマネジメント：違いをつくる３つの基本戦略と仕組みの競争 第8回　多角化戦略のマネジメント 第9回　国際化のマネジメント【PC必携】 第10回　マクロ組織のマネジメント（ディスカッション）【PC必携】 第11回　ミクロ組織のマネジメント（ディスカッション）【PC必携】 第12回　キャリアデザイン（プレゼンテーション）【PC必携】 第13回　経営学の広がり：ファミリービジネスのマネジメント（プレゼンテーション）【PC必携】 第14回　経営学の広がり：病院組織のマネジメント【PC必携】 第15回　女性活躍推進など、リーダーシップの総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	企業の人的資源管理に関する新聞などの情報について感覚を磨くこと。 受講者各自のトピックスの発表も予定している（各自の学習時間：4時間の授業時間以外は学習） 終盤の授業では、小テストを実施する（事後学習：4時間の授業時間以外の学習）
授業方法	講義形式〈BYOD対象科目〉 ・プレゼンテーションやディスカッションを取り入れて授業を進めていく。
評価基準と評価方法	出席と毎回の授業での記入するシート（４０％）、試験（６０％）で総合的に評価する。
履修上の注意	・講義全体の２分の３の出席が確保できない場合は受講資格を失う。 ・２０分以上の遅刻は欠席と判定。 ・学外実習に伴う交通費や入館料は、自己負担である。 ・「マーケティング論」「起業マネジメント論」も合わせて履修するとより理解が深まる。
教科書	加護野忠男・吉村典久編著『１からの経営学』中央経済社、2021、ISBN978-4502375217
参考書	随時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	化粧心理学						
担当教員	鳥居　さくら					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73250
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	化粧行動の心理学的観点からの考察
授業の概要	化粧行動は、人間の生存に直接関わる行為ではないにも関わらず、古来より世界各地でおこなわれてきた。その意味を知覚心理学、認知心理学、社会心理学、生理心理学、健康心理学、人格心理学、高齢者心理学などのさまざまな心理学的見地から考察する。また実際の生活場面に適した自己表現としての化粧について考える。人間として心身ともに健康に生きていくための力と知識を化粧行動をとおして身につける。
到達目標	1. 化粧行動の効用を複数の心理学的観点から説明できる。[知識・理解] 2. 生活における化粧行動の心理的意味について自分の考えを述べることができる。[知識・理解][態度・志向性] 3. 状況や場面に応じた自己表現方法について考えることができる。[知識・理解][汎用的技能]
授業計画	1.オリエンテーション 2.化粧と自己表現　[PC必携] 3.社会と自己表現　[PC必携] 4.化粧と自己愛　[PC必携] 5.化粧と対人魅力　[PC必携] 6.肌の視覚的認知　[PC必携] 7.肌とストレス　[PC必携] 8.肌状態による印象の違い　[PC必携] 9.顔における年齢・性別の印象　[PC必携] 10.表情の視覚的特徴　[PC必携] 11.顔と化粧に関するグループワーク　[PC必携] 12.顔と化粧に関するグループワーク発表　[PC必携] 13.化粧と感情　[PC必携] 14.医療分野や高齢者における化粧の心理的効果　[PC必携] 15.まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：授業で指定された課題をレポートとして作成、または、松蔭manabaに投稿する（学習時間：2<時間>）
授業方法	主に講義形式でおこなう。顔写真や化粧品などを用いて評価し、グループでディスカッションし、レポートを作成する授業回もある。manabaを利用し小テストやアンケートなどをおこなう授業回もある。 <BYOD対象科目>
評価基準と評価方法	授業内での提出物および松蔭manabaへの投稿(40%)：化粧行動に関連する自分の考えを表現する力や自己表現としての化粧の方法を考える力を評価する。到達目標２および３に関する到達度の確認。 試験(60%)：化粧や化粧行動の心理学的意味に関する理解度を評価する。到達目標１および２に関する到達度の確認。
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。
教科書	なし。適宜、プリントを配布する。
参考書	「顔の百科事典」　丸善出版　ISBN: 978-4-621-08958-3 「化粧行動の社会心理学　化粧する人間のこころと行動 」　北大路書房　ISBN: 978-4-7628-2226-1

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	行動科学基礎演習I						
担当教員	鳥居　さくら					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U22010
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎的な実験法と考え方の習得
授業の概要	行動科学の基本となる心理学の基礎的な実験方法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、知覚、学習・記憶、情意・行動などの心理学の基礎的な実験を、実験者および被験者のいずれの立場にもなって実施し、データを集計し、図表を作成し、統計的解析、考察を加え、レポートを作成する。このような一連の実験研究過程の経験を通して、科学的論理思考と実証方法を身につける。３年時の演習、４年時の卒業研究に向けた知識と技法を習得する。
到達目標	1.心理学の基礎的な実験手法を説明できる。[知識・理解] 2.エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。[汎用的技能] 3.データに基づいて考察を記述することができる。[汎用的技能] 4.図表を含めたレポートを作成できる。[汎用的技能] 5.グループのメンバーと協力して実施することができる。[態度・志向性]
授業計画	1.授業の進め方、班分け　[PC必携] 2.レポートの書き方(1)－構成―　[PC必携] 3.レポートの書き方(2)－図表の作成―　[PC必携] 4.ミュラーリヤーの錯視(1)－解説―　[PC必携] 5.ミュラーリヤーの錯視(2)－実験の実施―　[PC必携] 6.ミュラーリヤーの錯視(3)－データの整理―　[PC必携] 7.鏡映描写(1)－解説と実験―　[PC必携] 8.鏡映描写(2)－データの整理―　[PC必携] 9.自由再生における系列位置効果(1)－解説と実験―　[PC必携] 10.自由再生における系列位置効果(2)－データの整理―　[PC必携] 11.要求水準(1)－解説と実験―　[PC必携] 12.要求水準(2)－データの整理―　[PC必携] 13.認知的葛藤(1)－解説と実験―　[PC必携] 14.認知的葛藤(2)－データの整理―　[PC必携] 15.講評　[PC必携]
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：参考書の該当実験のページに目をとおしておく。(学習時間：2時間) 授業後学習：レポートを作成し、松蔭manabaに提出する。（学習時間：2時間）
授業方法	実習形式でおこなう。 １つの実験をグループで実施する。グループで交互に実験者と被験者になり、取得したデータをグループでまとめる。考察は各自で考え、レポートとしてまとめたら、次のテーマの授業時間初めまでに、その回の実験レポートを松蔭manabaに提出する。 〈BYOD対象科目〉
評価基準と評価方法	レポート80%（締め切り厳守）：レポートの結果のまとめ方、図表の作成の仕方、考察の内容について評価する。 到達目標1,2,3,4に関する到達度の確認。 実験への取り組み20%：グループワークで実施する実験における協調性、積極性、粘り強さを評価する。 到達目標5に関する到達度の確認。 レポートのフィードバックは松蔭manabaをとおして行う。
履修上の注意	実験のため、毎回出席することが原則である。11回以上の出席がないと受講資格を失う。欠席する場合は、次回までに自分で補っておくようにする。15分以上の遅刻は欠席扱いにする。すべてのレポートを期限までに松蔭manabaに提出することが必須である。
教科書	なし。プリントを配布する。
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎　実習編」心理学実験指導研究会　編　培風館

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	行動科学基礎演習II						
担当教員	鳥居　さくら					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U22020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎的な実験、検査・調査法と考え方の習得
授業の概要	行動科学の基本となる心理学の基礎的な実験方法、検査や調査法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、心理検査、イメージの測定、社会的態度尺度の作成法などの心理学の基礎的な検査や調査を、実験者および被験者のいずれの立場にもなって実施し、データを集計し、図表を作成し、統計的解析、考察を加え、レポートを作成する。このような一連の実験研究過程の経験を通して、科学的論理思考と実証方法を身につける。３年時の演習、４年時の卒業研究に向けた知識と技法を習得する。
到達目標	1.心理学の基礎的な実験、検査・調査手法を説明できる。[知識・理解] 2.エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。[汎用的技能] 3.データに基づいて考察を記述することができる。[汎用的技能] 4.図表を含めたレポートを作成できる。[汎用的技能] 5.グループのメンバーと協力して実施することができる。[態度・志向性]
授業計画	1.講義の進め方、班分け　　[PC必携] 2.状態不安尺度(STAI)の受検と整理、解釈　　[PC必携] 3.YG性格検査(1)－解説－　　[PC必携] 4.YG性格検査(2)－受検と評点―　　[PC必携] 5.触2点閾(1)－解説と実験－　　[PC必携] 6.触2点閾(2)－整理と解釈－　　[PC必携] 7.SD法によるイメージの測定(1)―解説と実験―　　[PC必携] 8.SD法によるイメージの測定(2)―データの整理―　　[PC必携] 9.SD法によるイメージの測定(3)―解析―　　[PC必携] 10.社会的態度尺度の構成(1)－解説と評定－　　[PC必携] 11.社会的態度尺度の構成(2)－整理と解釈－　　[PC必携] 12.一対比較による好悪の尺度化(1)－解説と実験―　　[PC必携] 13.一対比較による好悪の尺度化(2)－データの整理―　　[PC必携] 14.一対比較による好悪の尺度化(3)－解析―　　[PC必携] 15.講評　　[PC必携]
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：参考書の該当実験のページに目をとおしておく。(学習時間：2<時間>) 授業後学習：実験・調査のレポートをまとめ松蔭manabaに提出する。（学習時間：2<時間>）
授業方法	実習形式でおこなう。 １つの実験、検査・調査をグループで実施する。グループで交互に実験者と被験者になり、取得したデータをグループでまとめる。考察は各自で考え、レポートとしてまとめたら、次のテーマの授業時間初めまでに、その回の実験レポートを松蔭manabaに提出する。 〈BYOD対象科目〉
評価基準と評価方法	レポート80%（締め切り厳守）：レポートの結果のまとめ方、図表の作成の仕方、考察の内容について評価する。 到達目標1,2,3,4に関する到達度の確認。 実験への取り組み20%：グループワークで実施する実験、検査・調査における協調性、積極性、粘り強さを評価する。到達目標5に関する到達度の確認。 レポートのフィードバックは松蔭manabaをとおして行う。
履修上の注意	実験のため、毎回出席することが原則である。11回以上の出席がないと受講資格を失う。都合により欠席する場合は、次回までに自分で補っておくようにすること。15分以上の遅刻は欠席扱いにする。すべてのレポートを提出期限までに提出することが必須である。
教科書	なし。プリントを配布する。
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎　実習編」心理学実験指導研究会　編　培風館

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	神戸の食と文化						
担当教員	江　弘毅					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73640
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	地元・神戸の食と文化を概観するとともに、その特徴や魅力を押さえる。
授業の概要	海と山に囲まれ自然と豊富な食材に恵まれた環境にある神戸は、開港以来、外国文化を取り入れ、洋食・パン・洋菓子、中国料理やインド料理、ベトナム料理など、日本独自の料理に限られることのない多様で国際色豊かな食文化を培ってきた。 近年、世界からも注目される日本の味わいの土台をつくり、外国の食文化と日本独自の食文化をうまく融合させて、日本の食をけん引してきた神戸の食。 現在も神戸は日本を代表する「グルメ都市」として、さまざまな食のトレンドを牽引し、観光客を魅了している。 その背景にある文化を歴史的に考察しながら、江戸時代から現代に至る神戸の食文化の変遷と熟成について理解を深めるとともに、あたらしい神戸の食の魅力創造にもスポットを当てる。
到達目標	⑴「地元人」というスタンスから神戸の食について知り、語り、書き、表現することができる。（知識・理解） ⑵和食、フランス料理、中国料理などの神戸の代表的料理の特徴を理解し、わかりやすく説明することができる。（知識・理解） ⑶魅力ある神戸グルメについて、独自の企画を立てたり情報発信することができる。（態度・志向性）
授業計画	第1回　ガイダンス　この授業で何をやるのか。どんな授業なのか　[PC必携] 第2回　神戸の食、の現在進行系〜最前線　[PC必携] 第3回　神戸〜兵庫県の地勢、自然と恵まれた食材　[PC必携] 第4回　神戸の食を「和食」から見る＝「上方(摂津の）料理」の伝統　[PC必携] 第5回　灘の生一本。日本酒づくり　[PC必携] 第6回　神戸開港と洋食。その始まりと展開　[PC必携] 第7回　神戸の洋食とその系譜　[PC必携] 第8回　「パン・スイーツの街・神戸」の歴史と展開　[PC必携] 第9回　世界を魅了する「神戸ビーフ」　[PC必携] 第10回　神戸のエスニック・コミュニティ（とくにイスラム圏、ベトナム)に見る食　[PC必携] 第11回　神戸の中国料理と中華街・南京町　[PC必携] 第12回　神戸のお好み焼きと地ソース　[PC必携] 第13回　神戸観光とグルメ。フードツーリズムの観点から　[PC必携] 第14回　神戸の食はメディアにどう取り上げられているか　[PC必携] 第15回　この授業のまとめと試論提出　[PC必携]
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前、授業後にmanabaおよび神戸の食に関する参考書を読んで、キーワードや専門用語を理解する（90分）。 神戸にある老舗の洋食店、パン屋、洋菓子店、中国・インド料理店など、そして長田区のお好み焼き店集中エリアを意識して訪ね、食べるなど実体験する（90分）。 雑誌など出版物の神戸の特集グルメ記事や新聞、雑誌、印刷物そしてインターネットで神戸食関連の資料を集め、ストックし、学習する（60分）。
授業方法	講義は毎回manabaにコース・コンテンツを挙げます。 毎回、レジュメや資料を配布し講義します。 授業中のその都度の質問と応答、そして毎回の講義についてのリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 PCもしくはタブレットは必携のこと。 〈BYOD対象科目〉
評価基準と評価方法	期末試験として1200字程度の試論を提出40%。 各回授業のあとに書いて提出するリアクションペーパー40%。 授業中のコール＆レスポンス20%。
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることができません。
教科書	毎回、レジュメや資料を配布します。
参考書	『聞き書　兵庫の食事(日本の食生活全集)』日本の食生活全集兵庫編集委員会編、農山漁村文化協会　ISBN-10 454091006 : X 『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター　ISBN: 9784343007339 『神戸と居留地』神戸外国人居留地研究会編、神戸新聞総合出版センター　ISBN-10: 4343003159 『神戸と洋食』江弘毅著、神戸新聞総合出版センター　ISBN: 9784343010575 『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター　ISBN:9784875211280

参考書	『神戸のパン・ケーキ・チョコレート』神戸新聞出版センター　ISBN-10: 487521325 『神戸とお好み焼き 比較都市論とまちづくりの視点から』』三宅正弘著、神戸新聞総合出版センター　IISBN-10: 4343002055 『日本外食全史』阿古真理著、亜紀書房　IISBN-9784750516837 『ケンミン食のなぜ』阿古真理著、亜紀書房　IISBN-9784750517834

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	神戸論						
担当教員	江　弘毅					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U12050
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちを知り、その特徴と魅力を概観する。
授業の概要	この授業では、松蔭が神戸・地元の大学であることを前提に、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての独自の魅力と社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。 最初に、神戸の歴史、開港が決定づけた街の性格、生活様式から文化までを具体的な実例によって学ぶ。 続いて、神戸のたぐいまれな街の魅力とそのさまざまなコンテンツを知り理解する。 最後に大水害、空襲による破壊、震災と復興を経験した都市として神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。
到達目標	（１）都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。（知識・理解） （２）神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。（知識・理解） （３）神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくることができる。（態度・志向性）
授業計画	第１回　オリエンテーション。この授業でなにをやるのか。どんな授業なのか　[PC必携] 第２回　神戸と二度の開港。古代から近世　[PC必携] 第３回　慶応3年（旧暦）1868年開港が決定づけた神戸　[PC必携] 第４回　開港と外国人の居住による文化　[PC必携] 第５回　近代建築で神戸のまちをとらえる　[PC必携] 第６回　神戸の洋食〜欧米料理　[PC必携] 第７回　神戸のパン、スイーツ　[PC必携] 第８回　神戸と中国人、中華街の南京町　[PC必携] 第９回　神戸の観光　[PC必携] 第10回　神戸の地勢、自然　[PC必携] 第11回　災害と神戸　[PC必携] 第12回　ファッション都市・神戸　[PC必携] 第13回　阪神間モダニズムについて　[PC必携] 第14回　メディアのなかの神戸　[PC必携] 第15回　神戸流生活術　[PC必携]
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	神戸の都市としての特徴や魅力をmanabaや参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽、グルメ…から抽出し、資料としてストックし、学習すること（90分）。 その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること（120分）。
授業方法	あらかじめ毎回manabaのコースコンテンツに講義の内容をアップします。 レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 〈BYOD対象科目〉 【実務経験のある教員等による授業】 都市情報誌の編集長であった職歴を生かして、神戸におけるグルメ、ファッション、観光産業などの事例を紹介しつつ、実務家としての人的ネットワークを生かしたフィールドワークを行う。
評価基準と評価方法	期末試験＝試論（1200字）50%。各回提出のリアクションペーパー(manabaのレポートに記入）30%、質問応答（コール＆レスポンス）、授業中の発表発言20%。
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。
教科書	なし。manabaと毎回の授業内容に応じて。レジュメや資料を配付します。
参考書	『神戸学』崎山昌廣監修、神戸新聞総合出版センター　ISBN:4-343-00353-1 『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター　ISBN:9784343007339 『神戸と洋食』江弘毅著、神戸新聞総合出版センター、ISBN: 9784343010575 『古地図で見る神戸』大国昌美著、神戸新聞総合出版センター　ISBN:9784343006035 『灘の歴史』田辺眞人監修、灘区80年史編集委員会編、神戸新聞総合出版センター　ISBN:9784343006455 『ミナト神戸の宗教とコミュニティー』関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞総合出版センター　ISBN:9784343007254 『神戸外国人居留地ージャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー 』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875210481

参考書	『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター　ISBN:9784875211280 『南京町と神戸華僑』呉宏明、髙橋晋一編著、松籟社　ISBN-10:4879843385

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	国際ビジネス						
担当教員	平井　拓己					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72540
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	国際ビジネスの実態と環境変化を学ぶ
授業の概要	ヒト・モノ・カネ・情報か国境を超えるときに何か起こるのか、国際ヒシネスの実態とその環境変化を学ふ。具体的には、世界的な企業や特色のある企業を取り上け、ケーススタティなとにより、成功 や失敗の要因を考察する。そのために、国際ヒシネスに必要な基本的なヒシネス英語と経営・金融知識の基礎を学ふ。また、日本と関係か深い、アメリカ、アシア、ヨーロッハ地域の経済やヒシネスの特徴について理解を深める。
到達目標	基本的な知識や事例の理解をもとに、国際ビジネスが生活のあらゆる部分に関わることを説明できる。（知識・理解）
授業計画	1.オリエンテーション:国際ビジネスについて 2.ビジネスの基礎 3.国際ビジネスの基礎(1) 株式会社の仕組み 4.国際ビジネスの基礎(2) 上場・株式公開 5.国際ビジネスにおけるコミュニケーション(1)世界の多国籍企業 6.ヨーロッパにおけるビジネス(1) 多国籍企業の実例 7.ヨーロッパにおけるビジネス(2) ダイバーシティ 8.アジアにおけるビジネス(1) 日本のグローバルビジネス：実例 9.アジアにおけるビジネス(2) 世界市場での競争 10.アメリカにおけるビジネス(1) ITビジネスの発展 11.アメリカにおけるビジネス(2) GAFAをめぐる課題 12.国際ビジネスにおけるコミュニケーション(2)異文化理解 13.国際ビジネスにおけるコミュニケーション(3)国際ビジネスに必要な語学 14.今後の国際ビジネス 15.質疑応答、期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：経済紙などを読み、毎回の授業時に提出する質問項目（キーワード）を考えまとめる。（学習時間：１時間） 授業後学習：授業中に示す「お題」（授業内容に関連する自主研究）についてまとめて、次回授業時に提出する。（学習時間：３時間）
授業方法	講義 授業内で紹介する映像や新聞記事をもとに、それらの内容についての質問項目について考え、小レポートを作成、提出する。作成にあたり、テーマによってグループワークを行う。
評価基準と評価方法	平常点（毎回提出物があります） 40% 中間レポート及び期末試験 60% （受講者数によっては発表をもって試験に替える場合がある）
履修上の注意	授業は定刻に開始するため受講者には時間厳守を求めます。遅刻は減点の対象となります。 講義中の携帯電話などの使用は厳禁とします。 教室内では帽子を脱いで下さい。 以上守っていただけない場合及び他の受講者に迷惑となる行為を行う受講生は、退出していただきます。
教科書	なし（資料を配付します）
参考書	講義中に指示します。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査演習B						
担当教員	稲見　直子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U1321B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	質的調査の手法を用いて社会調査の一連の過程を実践的に学ぶ。
授業の概要	この授業では「現代の若者のライフスタイル」をテーマに、質的調査の手法を用いて調査企画から実査、分析、報告書作成、プレゼンテーションまでを行い、社会調査の一連の過程を実践的に修得する。
到達目標	(1)質的調査の手順や技法について専門用語を用いて説明できる。【知識・理解】 (2)質的調査の企画から実査、分析、報告ができる。【汎用的技能】 (3)質的調査に主体的に取り組むことができる。【態度・志向】
授業計画	第1回　調査内容の検討(1) 第2回　調査内容の検討(2)／調査倫理 第3回　実査 第4回　データ整理 第5回　分析（1） 第6回　分析（2） 第7回　分析（3） 第8回　中間報告 第9回　報告書執筆(1) 第10回　報告書執筆(2) 第11回　報告書執筆(3) 第12回　仮報告書返却 第13回　報告書修正(1) 第14回　報告書修正(2) 第15回　最終報告書提出
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回に関連する事項について、社会調査の参考書に目をとおし要点を整理しておく。＜2時間＞ 授業後学習：授業で出された課題に取り組む。＜2時間＞
授業方法	社会調査演習Aで実施したアンケート結果をもとに、各自でインタビュー調査を企画・実施し、アンケート結果ともあわせて報告書を執筆する。
評価基準と評価方法	・授業参加度（10%）：授業に主体的に取り組んでいるかなどを総合的に評価（20%）到達目標(3)の確認。 ・課題提出（20%）：授業内で出された課題の内容や提出状況などを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・中間報告（20%）：報告態度。内容を総合的に評価（30%）。到達目標(2)(3)の確認。 ・報告書（50%）：分析的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価（50%）。到達目標(1)(2)の確認。
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 ・学外実習に伴う交通費などの実費負担がある。
教科書	授業内容に応じて、適宜レジメと資料を配布する。
参考書	岸政彦・石岡丈昇・丸山里美,2016,『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』有斐閣ストゥディア. .

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査演習A						
担当教員	稲見　直子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U1321A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	量的調査の手法を用いて社会調査の一連の過程を実践的に学ぶ。
授業の概要	この授業では「現代の若者のライフスタイル」をテーマに、量的調査の手法を用いて調査企画から実査、分析、報告書作成、プレゼンテーションまでを行い、社会調査の一連の過程を実践的に修得する。
到達目標	(1)量的調査の手順や技法について専門用語を用いて説明できる。【知識・理解】 (2)量的調査の企画から実査、分析、報告ができる。【汎用的技能】 (3)量的調査に主体的に取り組むことができる。【態度・志向】
授業計画	第1回　社会調査とは（これまで学んできたことを振り返る） 第2回　課題設定に向けた文献・周辺リサーチ(1) テーマを決める 第3回　課題設定に向けた文献・周辺リサーチ(2) 既存データの分析 第4回　課題設定の発表・全体討論 第5回　調査内容の検討(1) 質問項目の検討 第6回　調査内容の検討(2) 質問文の検討 第7回　調査内容の検討(3) 質問紙の作成／調査倫理 第8回　実査 第9回　データ整理（データクリーニング）（グループワーク） 第10回　データの分析(1) Excelを用いてraw dataの作成（グループワーク） 第11回　データの分析(2) SPSSを用いて単純集計、Excelを用いてグラフ作成 第12回　データの分析(3) データの読み解き 第13回　中間報告の準備(1) PowerPointを用いて報告原稿作成① 第14回　中間報告の準備(2) PowerPointを用いて報告原稿作成② 第15回　中間報告
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回に関連する事項について、社会調査の参考書に目をとおし要点を整理しておく。＜2時間＞ 授業後学習：授業で出された課題に取り組む。＜2時間＞
授業方法	各自で現代の若者ライフスタイルについて既存データを用いて現状を把握した後、アンケート調査を実施しその実情を分析する。
評価基準と評価方法	・授業参加度（20%）：授業に主体的・協働的に取り組んでいるかなどを総合的に評価。到達目標(3)の確認。 ・課題提出（30%）：授業内で出された課題の内容や提出状況などを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・中間報告（50%）：報告態度・内容を総合的に評価。到達目標(2)(3)の確認。
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。
教科書	適宜レジメと資料を配布する。
参考書	大谷信介・木下栄二他編, 2013,『新・社会調査へのアプローチ――理論と方法』ミネルヴァ書房.

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査法／社会調査基礎演習I						
担当教員	稲見　直子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U22030
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	量的調査の特質と意義を理解し、量的データの収集技法や分析方法を修得することを目的とする。
授業の概要	社会調査には大きく分けて量的調査と質的調査があるが、この授業では量的調査に関してその技法や調査の一連の過程を実践的に修得し、社会調査の理解を図る。
到達目標	(1)量的調査の特質と意義を理解し、専門用語を使って説明できる。【知識・理解】 (2)調査企画から実査、分析までができる。【汎用的技能】 (3)量的調査に主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回　量的調査とは 第2回　量的調査の手順／調査倫理 第3回　サンプリング 第4回　質問紙の作成方法 第5回　質問紙の配布・回収 第6回　質問紙の作成（グループワーク） 第7回　統計データの読み解き 第8回　実査 第9回　データ入力（グループワーク） 第10回　データ整理（グループワーク） 第11回　分析（1）SPSSを用いて単純集計・度数分布表の作成 第12回　分析（2）Excelを用いてグラフ作成 第13回　分析（3）SPSSを用いてクロス集計表作成 第14回　分析（4）レポート作成① 第15回　分析（5）レポート作成②
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：広告や新聞など様々なメディアに掲載されている量的調査に関心をもち、どのような手順で調査が実施されているのかを調べる。＜2時間＞ 授業後学習：授業で学んだ専門用語の復習のほか、データ入力やデータ整理、レポート作成において授業内にできなかったものは授業外に行う。＜2時間＞
授業方法	前半は講義形式、後半は演習形式で行う。演習では、調査企画や質問紙作成、データ入力・整理はグループで行い、分析とレポート執筆は各自で行う。
評価基準と評価方法	・授業参加度（10%）：授業内の課題の取組み・提出状況や授業への姿勢・態度を総合的に評価。到達目標(3)に対応。 ・小テスト（30%）：量的調査に関する専門用語の理解度を評価。到達目標(1)に対応。 ・小レポート（20%）：分析的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到達目標(2)に対応。 ・期末レポート（40%）：分析的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到達目標（2)に対応。
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。
教科書	適宜レジメと資料を配布する。
参考書	大谷信介・木下栄二他編, 2013,『新・社会調査へのアプローチ――理論と方法』ミネルヴァ書房. 篠原清夫・清水強志・榎本環・大屋根淳, 2010,『社会調査の基礎――社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂.

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査論						
担当教員	稲見　直子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U21060
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	社会調査の理論や技法を学び、実際の調査ができるようになるための基礎的事項を修得する。
授業の概要	社会調査の理論や技法を学び、実際の調査ができるようになるための基礎的事項を解説する。調査の設計から現地調査の実施方法、データの収集と分析、報告書の作成までの一連の流れを量的・質的調査の双方について解説するほか、社会調査における調査倫理について理解をはかる。また、これまでの社会調査史をたどりながら、実際の調査を題材として社会調査の意義や用途を解説する。
到達目標	(1)社会調査の基礎的な理論や技法について、専門用語を用いて説明することができる。【知識・理解】 (2)社会調査のデータを読み解くことができる。【知識・理解】 (3)主体的に社会調査を実施することができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回　社会調査の目的と意義 第2回　社会調査の方法論 第3回　量的調査と質的調査 第4回　社会調査の倫理 第5回　公的統計 第6回　二次データの利用(1) 第7回　二次データの利用(2) ※PC必携 第8回　調査の種類と実例Ⅰ　世論調査 第9回　調査の種類と実例Ⅱ　マーケティング調査 第10回　調査の種類と実例Ⅲ　観察法 第11回　調査の種類と実例Ⅳ　ドキュメント分析 第12回　調査の種類と実例Ⅳ　面接法 第13回　社会調査の歴史 第14回　フィールドワークをまとめる ※PC必携 第15回　期末テスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：広告や新聞記事など様々なメディアに載っている社会調査に興味を持ち、その妥当性を疑ってみる。＜2時間＞ 授業後学習：授業で学んだ専門用語を復習するほか、データの読み解きの練習をする。＜2時間＞
授業方法	基本的に講義形式をとるが、manabaでの小テスト実施や既存データの読み解き、フィールドワークの実施なども取り入れ、学生の主体的参加を促す。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・小テスト（30%）：社会調査に関する専門用語の理解度を評価。到達目標(1)に対応。 ・レポート（30%）：公的統計やフィールドワークのデータ収集がきちんと行われているか、データの読み解きが正確に行われているかなどを総合的に評価。到達目標(2)(3)に対応。 ・期末テスト（40%）：社会調査に関する専門用語や歴史の理解度を評価。到達目標(1)(2)に対応。
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・学外でフィールドワークを実施するので、交通費や入館料が発生することがある。 ・社会調査士を将来的に目指すことを目的としているので、この科目を受講した学生は引き続き「社会調査法（旧社会調査基礎調査Ⅰ）」「質的調査法（旧社会調査基礎調査Ⅱ）」を受講することが望ましい。
教科書	適宜レジメと資料を配布する。
参考書	大谷信介・木下栄二他編, 2013,『新・社会調査へのアプローチ――理論と方法』ミネルヴァ書房. 篠原清夫・清水強志・榎本環・大屋根淳, 2010,『社会調査の基礎――社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂.

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生涯発達論						
担当教員	加納　真美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U11040
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	発達段階をとおしたヒトの身体の仕組みと心理社会的成長を中心に考察する。
授業の概要	発達段階をとおした人間の身体の仕組みと心理社会的成長を中心に考察する。人間の発生時における遺伝によって子どもへ受け継がれる性質、出生後の脳や感覚器官の発達、認知機能の心理生理的発達と脳の変化、社会性の心 理的発達、成人し抱える心理的諸課題、自らが親になる際の母性や父性の出現と役割、このように発達段 階をとおして獲得していく生理的変化、身体の構造や心理社会的スキルを知る。常に成長する人間を生物として考える目を養う。
到達目標	1.　ヒトの遺伝、脳のはたらき、発達に関する基本的な用語の説明をすることができる。[知識・理解] 2.　発達段階における心理社会的スキルを行動面と機能面から解説することができる。[知識・理解] 3.　遺伝、発達における行動の事例を挙げ、それについて自分の考えを述べることができる。[知識・理解] [態度・志向性]
授業計画	1.　講義の紹介、恋愛の科学について 2.　新生児、乳児について 3.　胎児について、出生前診断について 4.　遺伝と環境について①　相関について、双生児研究 5.　遺伝と環境について②　チンパンジー研究 6.　記憶のしくみについて 7.　記憶の障害について 8.　高次脳機能障害について 9.　愛着について①　愛着形成のパターン、ストレンジシチュエーションテストについて 10.　愛着について②　児童期以降の愛着について、虐待の問題 11.　性と性役割について 12.　LGBTQと性スペクトラムについて 13.　発達障害について①　種類と症状について 14.　発達障害について②　対処方法、社会の取り組みについて 15.　まとめ、縦断研究について
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で指定された課題についてレポートの作成（学習時間：2時間）
授業方法	講義形式で授業を実施する。進度に応じて、ミニレポートと授業内での発表を行う
評価基準と評価方法	小レポート(30%)：授業中に視聴した資料のまとめや実験・演習のまとめと、それに対する自分の考えについて評価する。到達目標2,3に関する到達度の確認。 レポート(70%)：授業で扱った内容に関する理解度とそれを生活に応用する力について評価する。到達目標1,2,3に関する到達度の確認するために、２つ～３つのテーマに沿ったレポートを提出すること。
履修上の注意	3分の2以上の出席が必須である。授業中、私語、電子機器の操作を禁止する。
教科書	なし。プリントを適宜用いる。
参考書	「生涯発達心理学」　金子書房、ISBN：4-7608-9211-7 「アタッチメント」　ミネルヴァ書房、ISBN:4-623-04107-7

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費行動論						
担当教員	杉林　弘仁					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U12100
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	消費することなしに日々の生活は考えられません。ところが皆さんは，「なぜ，それを買ったのか」自分の消費行動について，あまり考えることはないと思います。この授業では「消費者心理」から捉えられる「消費者行動」と企業の「マーケティング行動」の2つの視点から，皆さんが普段考えることのない消費者行動について勉強します。「消費者行動を捉えるフレームの理解」がこの授業のテーマです。
授業の概要	皆さんの多くは，数年後には企業の側にたって製品やサービスを提供していく側になります。その前に，皆さんの毎日の生活は，企業が作り出す製品やサービスによって成り立っているということ，そして，企業からみれば皆さんは「市場にいる人々」ということを理解します。 人々の消費行動は，不思議に充ち満ちた世界です。消費者行動論は，この不思議の「消費」について考える「道具」です。この不思議の解明に乗りだそうというのがこの講義の内容です。 　授業の計画としては、３部構成です。 最初は，「個人としての消費者」から入り，消費者行動を理解するための理論や概念をつかみます。消費者行動論はマーケティングとの関わりは外せません。その次は，企業はどのようにして消費者の行動を読み取りマーケティングに活かそうとしているのか。企業のマーケティング視点から消費者行動論を捉えます。途中に実務家を交えた講義を設ける予定です。そして，最後は「社会的存在としての消費者」について考えます。
到達目標	＜知識･理解の観点から＞ 皆さんが，消費者心理に基づく消費行動を理解し，企業はどのようにして消費者の行動を読み取りマーケティングに活かそうとしているのか，企業のマーケティング行動について説明できることを目標とします。 ＜態度･志向性の観点から＞ 教室の中や本の上でなく，市場におりましょう。今から自分をマーケターとして，市場をみる習慣，市場をみる目を養い，日常からの発見への工夫ができることを目標にします。 ＜汎用的技能の観点から＞ 自ら積極的のコミュニケーションを図る態度を身につけることを目標にします。
授業計画	第1週　　イントロダクションとして，市場と企業の関わりについて考えます。みんなは消費者であること。最初に社会・経済・消費の構造を理解します。「消費者行動とは何なのか」まず，消費者行動論の全体像をつかみます。 第2週　　「消費者にとって現実はひとつじゃない」知覚のプロセスについて理解します。 第3週　　「消費者はどのように製品やサービスを学ぶのか」学習のプロセスを学習します。 第4週　　「人は何によって動かされるのか」消費者の情報処理と記憶のメカニズムを学習します。購買へと促す動機づけについて考えます。 第5週　　「なぜ好きと嫌いが生まれるのか」消費者の「態度」の形成について学習します。 第6週　　消費者は問題を解決する。「なぜ，それを買ったのか」消費者の購買意志決定のプロセスについて学習します。 第7週　　ここから企業の立場からの学習です。「消費者をどのように切り分けるのか」市場細分化について理解します。 第8週　　「消費者をどのように説得させるのか」企業のマーケティング･コミュニケーションについて学習します。 第9週 店頭からのマーケティングとして，「売れる店舗レイアウト」と「売れる販売」，そして「マーチャンダイジングとは何か」を学習します。 第10週　企業の第一線で活躍する実務家をお招きし，その事業について解説いいただき，企業と消費者行動の結びつきを考えます。 第11週 「買い物は自己表現なのか」「消費が自己のアイデンティティを示すのか」消費とアイデンティティについて考えます。 第12週 「買い物は誰が決めるのか」家族や組織としての購買意志決定について考えます。 第13週 我々は「社会的動物」としての個人です。個人に影響を与える「集団」について考えます。 第14週 「なぜブランド品を選ぶのか、製品はライフスタイルの基礎か」社会階級とライフスタイル，「ステイタス」について考えます。 第15週 「文化とは何か」、文化と消費者行動について考えます。消費者行動論の総復習として確認テスト，その解説と消費者行動論のポイントを振り返ります。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：課題を出します。 授業後：テキストを読み返してください。テキストや授業で得た知見から，実際の消費者行動を企業のマーケティング活動に照らして「考えてみる時間」をとってください。 それには，フィールドにでて観察することです。現場で得た知見やアイデアを，ノートを作って記録することを求めます（2時間）
授業方法	・授業はパワーポイントを使って「講義形式」で進めますが，状況によって授業予定項目がかわる場合があります。実務家講義が予定に合わない場合は授業に変更します。 ・受講者数にもよりますが，双方コミュニケーションを図るため随時発言を求め，ディスカッションの時間も設けます。
評価基準と評価方法	・授業への取組みや積極性 20%：授業後のアンケートなど授業への貢献度や「態度」をみます。 ・期中のレポートもしくはテスト40%：　状況みて途中でレポートもしくはテストを行います。 ・期末の確認テスト 40%

履修上の注意	出席点というものは存在しませんが，出席が50%以下の受講生は期末テストを受けることはできません。
教科書	松井剛･西川英彦他(2020)『１からの消費者行動論 第2版』（碩学舎/中央経済社） 2,400円
参考書	皆さんの状況をみて随意，紹介していきますが，とりあえず， 青木幸弘･新倉貴士･佐々木壮太郎他(2012)『消費者行動論　マーケティングとブランド構築への応用』他著(有斐閣) 2,200円 松井剛･大竹光寿･北村真琴訳(2015)『ソロモン消費者行動論』8,800円

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費生活コンサルティング論						
担当教員	井上　博子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73260
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	消費者が「消費者市民社会」の構築に積極的に参画するために、どうあるべきか？ 行政や企業に寄せられる様々な消費生活相談事例から考察する。
授業の概要	現実に直面するさまざまな消費者問題に目を向け、法ルールの基本原理や現代経済社会の仕組み、持続可能な社会形成についての基礎的な解説を行う。学生自らが「消費者市民」であることを自覚し、消費行動を通じての消費者問題の解決や、消費者トラブルの回避に向けての消費者教育について検討する。
到達目標	１．各生活分野における消費者トラブルの現状や問題点を把握し、説明できる。（知識・理解） ２．消費生活コンサルティングに必要な法律知識を理解し、適用できる。（知識・理解） ３．相談事例について、消費生活コンサルティングのレポートを作成できる。（汎用的技能） ４．消費者市民社会の構築に向けての消費者教育の具体例を提案できる。（汎用的技能）
授業計画	第１回　現代社会と消費者問題（ガイダンス） 第２回　「消費者市民」と消費者教育（消費者基本法、消費者庁） 第３回　契約の基礎知識（消費者契約法、クーリングオフ制度） 第４回　消費者トラブルと消費者行政（消費生活センターの相談事例） 第５回　若者の消費者トラブルとコンサルティング 第６回　食生活と消費者 第７回　食と環境問題（フードロス、食糧問題など） 第８回　衣生活と消費者（ファッションロスなど） 第９回　住生活と消費者 第10回　安全を守るしくみ（くらしの事故情報、リコール制度、製造物責任法） 第11回　持続可能な社会とは（SDGｓ） 第12回　地球温暖化とエネルギー 第13回　循環型社会とは（廃棄物問題） 第14回　エシカル消費（フェアトレード、環境マーク） 第15回　授業内容のまとめ・総復習と講評
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	消費者問題は、政治・経済・社会システムと密接に関連しているので、時事問題や社会現象に関心をもつこと。新聞を読み、消費者庁や国民生活センターをはじめとする官公庁のHPをチェックし、公表された白書や報告書に親しんでおくこと。 授業前学習：教科書の該当箇所を読み、事前に指定するキーワードについて下調べをする。また、担当する発表の準備（パワーポイントや配付資料の作成）をする。（学習時間２時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理し、配布プリントやレポートをまとめる。詳細は授業内で指示（学習時間２時間）
授業方法	講義を基本とするが、理解を深めるために視聴覚教材（DVDなど）や新聞記事の解説、最新の消費生活相談の事例研究などを予定している。また、学生によるプレゼンテーションやディスカッションを積極的に取り入れる。知識の確認や応用に小テストを実施する。
評価基準と評価方法	期末テスト（レポート）30%、 授業内での小テストや各回提出のリアクションペーパー40%、発表30%（講義内容や発表に関してのコメント・事例研究やディスカッションへの積極性など）の内容・発表の的確さなどを評価する。 学生による発表の講評および、リアクションペーパーのコメント・質問などについて、翌週の授業で紹介・解説する。
履修上の注意	1.「消費生活論」を履修済みであることが望ましい。 2.授業回数の３分の１以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。
教科書	『実践的消費者読本　第6版』　民事法研究会　ISBN 978-4-86556-418-1
参考書	「くらしの豆知識」国民生活センター編集・発行 消費者力検定テキスト「やさしく学べる消費生活」日本消費者協会 「環境社会（eco）検定テキスト（最新版）」東京商工会議所著・編　日本能率協会マネジメントセンター 参考になるHP:消費者庁、国民生活センター、経済産業省、環境省

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費者法						
担当教員	池内　博一					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73090
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	この授業では、消費者法の意義や各種消費者立法の規定内容を解説するとともに、消費者トラブル事例とそれに対処するための方法を明らかにすることをテーマとする。
授業の概要	この授業は、消費者法の意義や歴史、各消費者関連立法の規定内容などを理解するとともに、くらしにおいて生じる消費者問題について、その法的解決方法を自ら思考することができる力を身につけることを目的とする。具体的には、まず、消費者法総論として、消費者法の意義や体系、歴史などを学ぶ。その後、各論として、消費者基本法をはじめ、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの各種消費者関連立法の背景や目的、規定内容等について個別的に解説・検討する。また、各回の授業テーマに関連する重要な消費者トラブル事例を取り上げ、受講者が消費者問題とその法的解決方法について自ら考える機会を提示する。
到達目標	①消費者法の意義を理解するとともに、個別の消費者関連立法の目的や規定内容を説明できるようになる。 ②消費者トラブルについて、法的に思考し、その解決方法を検討・提示できるようになる。 ③消費者法の理解を通して、社会に役立つ法的素養を身につける。
授業計画	第１回 講義ガイダンス 第２回 消費者法とは何か（消費者法の意義、歴史、体系） 第３回 民法と消費者法①（私法の基本原則、信義則、公序良俗） 第４回 民法と消費者法②（詐欺、強迫、契約、不法行為） 第５回 消費者基本法 第６回 消費者教育推進法 第７回 消費者契約法①（情報提供義務、不当な勧誘行為） 第８回 消費者契約法②（不当な契約条項、消費者団体訴訟制度） 第９回 特定商取引法①（総論、クーリングオフ） 第10回 特定商取引法②（規制対象取引） 第11回 消費者信用取引と法 第12回 電子商取引と法 第13回 広告・表示と法 第14回 消費者の安全と法 第15回 消費者被害の救済と法 ※なお、進捗状況や受講者の理解度に応じて、順番や内容などを若干変更することがある。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：事前配信する授業資料を確認して、キーワードや法令などを調べておく（学習時間２時間） 授業後学習：授業資料を精読して授業内容を振り返る。課題に取り組み、期限内に提出する（学習時間２時間）
授業方法	対面での講義形式で実施する。 消費者トラブルに関する新聞事例、ニュース、裁判例などの具体的事例を取り入れて授業を行う。
評価基準と評価方法	授業参加状況、授業内課題、最終テストにより総合的に評価する。 １．授業参加・授業内課題（コメントシート・リアクションペーパー・小テストなど）…５０点 ２．最終テスト（試験またはレポート）…５０点
履修上の注意	①毎回出席状況を確認するので、無断欠席をしないこと ②私語や途中退室、その他の授業環境を乱す行為をしないこと
教科書	教科書は指定しない。 授業資料を配信・配布する。
参考書	中田邦博・鹿野菜穂子「基本講義　消費者法［第５版］」日本評論社、2022年（ISBN:978-4-535-52620-4） その他の参考書については、授業内で適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費生活論						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U12110
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	消費生活の現状を消費者と生産者双方の立場から捉え、消費者が権利の主体として意識を持ち、自ら情報を選択し行動することによって持続可能な社会の形成を目指したライフスタイルの確立をする。
授業の概要	現代の私たちの消費生活は、他人が生産した「モノ」に依存している。また、近年極めて豊かで便利な「サービス」も受けられるようになった。その反面、欠陥商品、悪質商法などによるトラブルの多発、インターネットを介した電子商取引に関係した消費者被害も続出している。この講義では、現在の消費生活の実態を把握した後、発生したトラブルに対し消費者、行政、企業がどのように対処したかを明らかにし、安全で真に豊かな消費生活を確立するための礎としたい。
到達目標	①経済社会の変化と消費生活の関係を理解することができる。【知識・理解】 ②消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方などに関する知識と技術を理解することができる。【知識・理解】 ③消費者の権利と責任を実践していく仕組みを理解することができる。【知識・理解】 ④持続可能な社会の形成を考えることができる。【態度・志向性】 ⑤生活に関する基本的知識を総合して地域生活の質の向上という広い視野に立ち、生活のあり方を提案することができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回　経済の発展と消費生活（家庭生活） 第2回　消費生活の視点　－社会の変化と消費生活－ 第3回　生活における経済の計画と管理 第4回　財・サービスの選択と意思決定　－広告と企業活動－ 第5回　多様化する流通・販売方法と消費者 第6回　消費者問題 第7回　消費者の権利と関係法規 第8回　契約と消費生活 第9回　決済手段の多様化と消費者信用 第10回　商品情報と消費者相談 第11回　消費者の自立支援と行政 第12回　消費者教育 第13回　消費生活と環境 第14回　持続可能な社会の形成と消費行動 第15回　環境問題と消費者の関係（まとめ）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、図書館等で関連する参考書によって下調べをすること＜2時間＞ 授業後学習：授業内で指示したテーマや課題について各自のノートにまとめておく。自分の発表回について、教員や他の学生からもらったコメントを基に修正を行う＜2時間＞
授業方法	講義：ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション（ICTを利用）、一部反転授業を取り入れている。各回共通の形式ではなく、その内容に応じた形式を実施している。
評価基準と評価方法	授業内での提出物・各種課題：リアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・事例提案）の内容記述の的確性を評価する（40%） →目標①～④に対応 プレゼンテーション：各担当箇所のプレゼンテーションの内容、発表態度について評価する（20%）、 →目標⑤に対応 終講課題：知識理解できているか（40%）などによる総合評価 →目標①～⑤に対応
履修上の注意	教職に関わる科目であるため、主体的に参加する態度だけでなく、人に説明する力をつける練習も行います。消費生活について知識を習得するだけでなく、多様化する消費者に対する理解を深め、更にその内容を第三者（生徒）に分かりやすく伝えられるよう授業を通して学習・習得してください。
教科書	授業内で紹介する
参考書	新しい消費者教育―これからの消費生活を考える（2016）神山久美・中村年春（編著）日本消費者教育学会関東支部（監修）慶應義塾大学出版会

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食行動論						
担当教員	鳥居　さくら					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72220
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	食行動の心理学
授業の概要	人が生きていくうえで欠かせない行動が食行動である。この授業では、乳児期、幼児期、児童期、青年期の各年代における食行動の心理的な特徴や問題点を解説し、食問題をテーマとした課題について議論する。母乳の心理的意味、食の嗜好や嫌悪の発達、集団における食行動の変容、食環境の心身に対する影響、食にまつわる行動異常などについて論じる。生涯にわたる自分自身や家族の健康を食の観点から考え、実践できる方法を身につける。
到達目標	１．各年代における食行動の心理学的な特徴や問題点を列挙し、説明することができる。[知識・理解] ２．個人や社会における食問題についてまとめ、自分の考えを述べることができる。[知識・理解][態度・志向性]
授業計画	1.授業の概要　【対面】[PC必携] 2.離乳期までの食行動(1)－母乳とミルク―　【対面】[PC必携] 3.離乳期までの食行動(2)－母乳のでる仕組み―　【対面】[PC必携] 4.離乳期までの食行動(3)－母乳の心理的側面―　【遠隔】[PC必携] 5.幼児期の食行動(1)－味覚の発達―　【遠隔】[PC必携] 6.幼児期の食行動(2)－食物嗜好と拒否の発達―　【遠隔】[PC必携] 7.食問題をテーマにしたKJ法の活用(1)－テーマ設定－　【対面】[PC必携] 8.食問題をテーマにしたKJ法の活用(2)－アイデア出し－　【対面】[PC必携] 9.食問題をテーマにしたKJ法の活用(3)－発表－　【対面】[PC必携] 10.児童期の食行動(1)－特徴と問題点―　【遠隔】[PC必携] 11.児童期の食行動(2)－食卓の絵からの考察―　【遠隔】[PC必携] 12.青年期の食行動(1)－摂食障害―　【遠隔】[PC必携] 13.青年期の食行動(2)－味とニオイの相互作用―　【遠隔】[PC必携] 14.青年期の食行動(3)－食行動と環境要因―　【遠隔】[PC必携] 15.まとめ　【対面】 ＊授業回により、【遠隔】が【対面】に変更になる場合があります。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：授業で指定された課題を松蔭manabaに投稿する（学習時間：2<時間>）
授業方法	講義形式で授業を実施する。 授業に関係するテーマについてグループでディスカッションし、まとめ、発表を実施する授業回もある。 manabaを利用し小テストやアンケートなどをおこなう授業回もある。 ＜遠隔指定授業＞　＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	小レポート(40%)：グループディスカッションのレポートや提出物を評価する。到達目標2に関する到達度の確認。 試験(60%)：授業でとりあげた、各年代における食行動の心理学的な特徴や問題点を確認し、自分の考えを述べることができるかについて評価する。到達目標1,2に関する到達度の確認。
履修上の注意	3分の2以上の出席がないと、受講資格を失う。
教科書	なし。適宜、プリントを配布する。
参考書	「人間行動学講座２　たべる―食行動の心理学―」　中島義明、今田純雄編　朝倉書店　1996　4800円 「母乳」　山本高治郎著 岩波新書　1983　490円 「未熟児」　山内逸郎著　岩波新書　1992　580円 「子どもと家族とまわりの世界（上）赤ちゃんはなぜなくの」　D・W・ウィニコット著　星和書店1985　1400円 「知っていますか　子どもたちの食卓　―食生活からからだと心が見える―」　足立己幸　NHK「子どもたちの食卓」プロジェクト　日本放送出版協会　2000　1500円

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食生活論						
担当教員	川口　真規子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U11020
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	健康な生活を送るための食生活について、様々な観点から解説する。
授業の概要	『食』を食生活と健康づくりの観点から解説する。本講義は、２年次生以降、食の学びを深めるために基盤となる科目として位置付ける。まず、食品の持つ「食生活と栄養（５大栄養素とその他の成分）」について、化学的・生化学的視点から概説する。 次に、「食品の機能」、「食生活と調理」、「食生活と食文化」、「食生活と環境」などについて解説する。健康とは何か、そして、健康な生活を送るために食生活はどうあるべきかを考えられるようになることを目的とする。
到達目標	１）5大栄養素についての基本的な内容を説明できる。【知識・理解】 ２）食生活、調理、食文化についての基本的な内容を説明できる。【知識・理解】 ３）食生活と健康についての基本的な問題に答えられる。【知識・理解】
授業計画	第1回　はじめに　～人の一生と食事～　私たちの食生活と健康 第2回　食生活と栄養（炭水化物） 第3回　食生活と栄養（タンパク質①） 第4回　食生活と栄養（タンパク質②） 第5回　食生活と栄養（脂質） 第6回　食生活と栄養（ビタミンとミネラル①） 第7回　食生活と栄養（ビタミンとミネラル②）【PC必携】 第8回　おいしさと健康のための調理　食品の機能　【PC必携】 第9回　食生活と食文化【PC必携】 第10回　ライフサイクルと食生活（妊娠期・授乳期） 第11回　ライフサイクルと食生活（乳児期・幼児期） 第12回　ライフサイクルと食生活（学童期・思春期・成人期） 第13回　ライフサイクルと食生活（高齢期）健康づくりと食生活　【PC必携】 第14回　食育の意義　食生活と環境　【PC必携】 第15回　まとめと期末テスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく。 調査学習の課題についてグループでディスカッションを行いプレゼンの準備をする。 （学習時間：2時間） 授業後：配布プリント使い学習内容をノートにまとめる。（学習時間：2時間）
授業方法	《BYOD対象科目》 講義 ただし、「食生活と食文化」の授業時にはグループに分かれて調査学習のプレゼンテーションを行う。
評価基準と評価方法	授業における発表（10%）：プレゼンテーション時における積極性・協調性・発表技術で評価する。 到達目標２）の到達度の確認。 課題（40%）：授業内外での課題提出物の内容で評価する。到達目標１）に関する到達度の確認。 期末テスト（50%）：学習内容全般に対する理解度で評価する。到達目標１）２）３）に関する到達度の確認。
履修上の注意	内容が多岐に渡りますので授業後の自主学習が必須です。積極的に学ぶ姿勢が必要です。
教科書	大学で学ぶ食生活と健康のきほん　吉澤みな子・武智多与理・百木和　著　化学同人 ISBN　978-4-7598-1828-4 適宜プリントを配布
参考書	特になし

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食と観光産業のマーケティング論／食と観光のマーケティング論						
担当教員	青谷　実知代					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73590
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	地域の観光素材を「観光商品・サービス」に取り込み、市場に対して積極的・戦略的にマーケティング活動を行っていくことのノウハウや方向性を示し、食と観光における地域活性化の構造と機能について学ぶ。
授業の概要	「観光」は、街づくりを中心として、自然・生活文化・歴史風土や保全・環境活動まで含む定義がなされている。したがって、観光学や観光マーケティングを学ぶ上でも「モノづくり、コトづくり、場おこし」、さらに「人づくり」までを考えることがますます重要になっている。特に、地域固有の価値づくりを発信していくためには地域食を理解し、新しいものへと革新することが求められる。郷土料理や伝統料理を含めた食を中心として地域に集客を図るターゲットを想定し、顧客満足度をあげ、維持して活動することが基本である。そこで、農林水産業者、商工業者、観光事業者などの参画を通じた地域活性化は、その地域の取り組みの成果として、その地域を訪れる観光者が増加することによってはじめて実現されるものであり、地域の様々な取り組みをいかに観光者の行動につなげるかが重要である。
到達目標	①成長産業の1つである観光産業の振興、雇用の創出、所得の増加について知識が得られる。（知識・理解） ②生活システムにおける食と観光のマーケティングの役割を描くことができる。（汎用的技能） ③日本のみならずインバウンドの取り組みも理解することができる。（態度・志向性） ④観光の難しさ・面白さを理解することができる。（知識・理解）
授業計画	第１回　観光事業のマネジメント特性ー東京ディズニーリゾートの凄さを知る 第２回　観光事業のイノベーションー楽天トラベルによるオンライン旅行販売 第３回　観光事業のグローバル経営ーH．I.Sの海外進出における国際経営行動 第４回　観光のマーケティング・マネジメント 第５回　観光とWEBビジネス 第６回　観光関連産業の基幹事業；旅行業 第７回　宿泊業ー星野リゾートの収益性と生産性を高めるマネジメント 第８回　航空輸送業ーANAのレベニュー・マネジメントと経営戦略 第９回　鉄道事業 第10回　万博に向けた観光との関連性 第11回　グローバル時代の地域観光インフラ（１）空港の経営 第12回　グローバル時代の地域観光インフラ（２）IR（統合型リゾート） 第13回　地域の観光まちづくり事業（食と観光） 第14回　地方創生と観光 第15回　地方創生の課題とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】旅行雑誌や旅行パンフレット、旅行広告などを資料を収集し、課題をまとめる（学習時間：2時間） 【授業後】新聞・雑誌必読。授業中に指示された課題をレポート作成する。松蔭manabaで提出（学習時間：2時間）
授業方法	講義 ・課題解決型学修 ・ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションを取り入れる。
評価基準と評価方法	・中間テスト（15%） ・授業内発表（プレゼンテーション）とレポート課題）（15%） ・期末試験（70%）よって総合的に判断する。
履修上の注意	①観光産業の取り組みなど、知識を増やすために新聞やニュースを常に見ておくこと。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③旅行会社のパンフレットなどに触れておくこと ④アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。 ⑤フィールドワークに伴う交通費や入館料などは、実費とする。
教科書	髙橋一夫・柏木千春編著『1からの観光事業論』、中央経済グループパブリッシング、2017年、ISBN978-4-502-17281-6
参考書	陶山計介・室博・小菅謙一・羽藤雅彦・青谷実知代編著『地域創生と観光』千倉書房、2022年。ISBN978-4-8051-1273-1

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品衛生学						
担当教員	亀井　健吾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73450
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	「食」に関わる者として必要な食品衛生行政・関連法規、食中毒、食品添加物などの食品衛生・衛生管理の基礎的知識を身に付ける。また、食餌性病害の原因を知り、その特徴と予防方法について学ぶ。
授業の概要	食品衛生学では、「食の安心・安全」の重要性を認識し、安全性の確保および衛生管理の方法について理解することを目的として講義を進める。 本講義では、食中毒や食品添加物を中心として、食品衛生に関連する最新情報について解説する。
到達目標	・食品汚染を引き起こす微生物や有害物質について述べることができる【知識・理解】 ・食品添加物の有用性と安全性を説明することができる【知識・理解】 ・食の安全に関する諸問題に適切に対応するための知識と判断力を身につける【知識・理解、汎用的技能】
授業計画	第1回　食品の安全 第2回　食品衛生と法規 第3回　食品の変質とその防止(1) -微生物による変質 第4回　食品の変質とその防止(2) -化学的変質 第5回　食中毒(1) -食中毒の分類 第6回　食中毒(2) -細菌性食中毒① 第7回　食中毒(3) -細菌性食中毒② 第8回　食中毒(4) -ウィルス性食中毒、寄生虫 第9回　食中毒(5) -自然毒、化学性食中毒 第10回 食中毒(6) -かび毒、寄生虫、衛生動物 第11回 有害物質と食品の安全性 -放射性物質、有害元素、農薬 第12回 食品添加物と安全性(1) -食品添加物の分類,安全性評価 第13回 食品添加物と安全性(2) -食品添加物の有用性と安全性 第14回 食品衛生対策 第15回 食品の器具と容器包装 第16回 期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習:授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んでくること。（学習時間1.5時間） 授業後学習:毎回の授業後に内容を整理し、ワークブックを用いて復習するようにすること。（学習時間2.5時間）
授業方法	講義で実施します。教科書を必ず持参するようにしてください。 授業内で挙手またはアプリを利用した質問受付の時間を設け、ディスカッション・回答を行い解決します。 課題としてワークブックを配布しますので、後日提出してください。
評価基準と評価方法	期末試験：70% 小テスト・課題(ワークブック)：30%
履修上の注意	20分未満の不在（遅刻・早退等）は、1/3回の欠席とみなす。また20分以上不在の場合は、欠席扱いとする（交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する）。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 成績不良者に対する期末試験の再試験は実施しない。 ただし４年生以上の者で、3年生後期までに配当された卒業必修単位が本授業を除きすべて修得済みの者に対しては、一度に限り再試験を実施する。
教科書	健康・栄養科学シリーズ 食べ物と健康『食品の安全』改訂第2版（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所　監修、有薗幸司　編） ISBN : 978-4-524-24532-1
参考書	『新 食品衛生学要説 』医歯薬出版 細貝祐太朗、松本昌雄、廣末トシ子　編

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品加工学						
担当教員	川口　真規子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72420
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	食品の保存の原理や保存方法、加工の工程、食品添加物などについて学ぶ。
授業の概要	消費者の嗜好の多様化、健康・安全志向、生活の合理化などから、加工食品の占める割合や価値は高まり、さらに質と量の充実が図られていくと予想される。食品の加工・貯蔵に関する理論や、食品の加工技術、及び加工食品を選択する際に欠かせない食品表示の見方などについて、①植物性食品、②動物性食品、③その他の食品について解説する。
到達目標	１）加工食品の利点や欠点を理解して、実生活に応用できる力を身に付ける。【知識・理解】
授業計画	第１回：食品加工の目的、原理、概要 第２回：食品の加工法 第３回：食品の保存法 第４回：農産食品の加工（穀類の加工）　小テスト① 第５回：農産食品の加工（イモ類・豆類の加工） 第６回：農産食品の加工（野菜・果実類の加工） 第７回：畜産食品の加工（肉類の加工） 第８回：畜産食品の加工（乳・卵の加工） 第９回：水産食品の加工　小テスト② 第１０回：食用油脂および調味食品 第１１回：嗜好食品およびインスタント食品 第１２回：食品の包装 第１３回：加工食品の規格と表示制度　《PC必携》 第１４回：加工食品と食品衛生　食品業界の現状　《PC必携》 第１５回：まとめ、期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく グループワークのための資料作成を行う（学習時間：2時間）。 授業後：配布プリント等を使い学習内容をノートにまとめる（学習時間：2時間）。
授業方法	講義 ただし、第13回「加工食品の規格と表示制度」に関してはグループワークの結果発表をふまえて、 解説・講義を行う反転授業形式とする。 《BYOD科目》
評価基準と評価方法	授業における発表（10%）：発表時における積極性、グループでの協調性、発表技術で評価する。 到達目標１）に関する到達度の確認。 小テスト（40%）、期末テスト（50%）：学習内容全般に対する理解度で評価する。 到達目標１）に関する到達度の確認。
履修上の注意	積極的に学ぶ姿勢が必要です。
教科書	新食品・栄養科学シリーズ　食品加工学（第２版）食べ物と健康３　化学同人　ISBN 978-4-7598-1117-9
参考書	特になし

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品加工学実験						
担当教員	川口　真規子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U22430
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜1～2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	各種加工食品を製造することにより、食品加工の原理を深く理解する。 食品の製造に必要な科学的知識を実験を通じて理解し、食品の加工に応用する。
授業の概要	加工食品は私たちの食生活に不可欠なものである。本実験は加工食品の製造工程を具体的に把握するとともに、その加工原理や貯蔵方法などを科学的に理解することを目的としている。
到達目標	1）加工食品を実際に製造することにより、その加工原理および製造方法を述べることができる。 【知識・理解】 ２）加工に必要な機器類の原理を理解したうえで適切に使用して食品加工を行う。【汎用的技能】 ３）実験により得られた結果について論理的な考察を加えることができる。【知識・理解】 ４）科学レポートの作成ルールに基づいた書式・図表を用いてレポートを作成することができる。 【汎用的技能】
授業計画	第１回　諸説明　【PC必携】 第２回　豆類の加工　みそ仕込み 第３回　乳類の加工　ヨーグルト 《実験１》ヨーグルトのｐH測定 種実類の加工　ピーナツクリーム 第４回　いも類の加工　こんにゃく 第５回　菓子類の加工　キャラメル・バタースカッチ 《実験２》砂糖の加熱温度の違いによる変化 第６回　豆類の加工　豆腐 第７回　穀類の加工　うどん 《実験３》グルテンの分離 第８回　乳類の加工　アイスクリーム まとめ１　レポート提出　【PC必携】 第９回　乳類の加工　フレッシュチーズ 第１０回　野菜類の加工　トマトケチャップ　【PC必携】 《実験４》加熱濃縮による可溶性固形成分の変化測定 野菜類の加工　ピクルス 第１１回　肉類の加工　ソーセージ 第１２回　菓子類の加工　シュトーレン 《実験５》製パン発酵条件の比較 乳類の加工　バター 第１３回　果実類の加工・びん詰めの製造　りんごジャムびん詰め 《実験６》ベーキングパウダーによる膨化試験 第１４回　乳類の加工　乳酸飲料 みそ官能評価 第１５回　まとめ２　レポート提出【PC必携】
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：実習・課題レポートの準備（学習時間１時間） 授業後：実習・課題レポートの作成・完成（学習時間1時間）
授業方法	実習および実験 《BYOD対象科目》
評価基準と評価方法	授業への取り組み（３０％）：実習・実験に対する積極性や協調性、衛生対策の順守などで評価する。 到達目標１）２）に関する確認。 レポート（７０％）：実習・実験内容の理解度、データのまとめ方と図表の作成の仕方などで評価する。 到達目標１）３）４）に関する確認。
履修上の注意	食品アレルギーのある学生は事前に連絡してください。対応します。
教科書	オリジナルのテキストを配布

参考書	特になし

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品学						
担当教員	升井　洋至					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73440
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	食品について、その科学的性質を総合的に理解する。
授業の概要	食品は我々の日常生活を健康に維持する上で、栄養に富み、積極的に摂取する食物の素材材料でなくてはならない。そのためには、栄養のみでなく、嗜好的に「おいしく」食べる因子の持つ役割も重要である。味、匂い、色彩などとともにテクスチャーも、これらの重要な要因である。これら因子を視覚、嗅覚、視覚、触覚さらに聴覚など人は五感の総合判断により、「食べる」のである。本講義では、食品の成分と特性について解説する。さらに、食品の味、色、香り、テクスチャー等とおいしさとの関連性について解説する。
到達目標	食品成分の科学的性質を理解し、そして日常の食生活でこれらの食品の科学的特性について、説明できる。（知識・理解） 本講義より、食品から調理加工品をつくり、利用することを理解して、食に関連する課題の解決について提案できる。（汎用的技能）
授業計画	第１回　授業の概要と説明 食品の分類と食品成分表①　（１）食品とは　（２）食品の機能　（３）食品の分類 第２回　食品の分類と食品成分表②　（４）食品成分表 食品成分の構造と基礎①（１）水分 第３回　食品成分の構造と機能②（２）炭水化物 第４回　食品成分の構造と基礎③（３）たんぱく質 第５回　小テスト① 食品成分の構造と基礎④（４）脂質１ 第６回　食品成分の構造と基礎⑤（４）脂質２　（５）ビタミン１（水溶性ビタミン） 第７回　食品成分と構造の基礎⑥（５）ビタミン２（脂溶性ビタミン）（６）無機質 第８回　食品酵素の分類と性質①（１）酵素の分類・性質　（２）食品酵素と品質 第９回　食品酵素の分類と性質（３）食品加工と酵素 第10回　小テスト② 色・香り・味の分類と性質①（１）色 第11回　色・香り・味の分類と性質②（２）香り 第12回　色・香り・味の分類と性質③（３）味 第13回　食品成分の変化①（１）炭水化物の変化　（２）たんぱく質の変化 第14回　食品成分の変化②（３）脂質の変化　（４）成分間相互作用 食品機能①（１）食品機能の概念　（２）機能性食品 第15回　食品機能②　（３）食品機能 まとめ 第16回　期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：講義テーマについて、教科書による予習（学習時間2時間） 授業後学習；講義内容について、要点整理、確認テストによる理解度の確認（学習時間2時間）
授業方法	対面講義
評価基準と評価方法	レポート課題10%、小テスト30%、期末試験60% レポート課題：課題について、調査し、自己の考えを述べているかを評価する。 小テスト：講義を通じて、説明した内容（特に教科書記載の文言）が理解できているかを評価する。 期末試験：講義を通じて得た知識等より、食品について総合的に説明ができるかを評価する。
履修上の注意	日常生活で食品について、興味、関心をもって、講義の予習、復習を行うこと。 出席回数が開講回数の3分の２に満たない場合、単位認定は行わない。 遅刻、早退30分以上は欠席とする。
教科書	食物学Ⅰ，建帛社　ISBN 978-4-7679-0703-1
参考書	新 食品・栄養科学シリーズ「食品学総論(第3版) 食べ物と健康①」森田準司・成田宏史編、化学同人、ISBN 978-4-7598-1640-2 八訂 食品成分表 2024、香川明夫／監修、女子栄養大学出版部、ISBN 978-4-7895-1022-6 新版 日本食品大事典　電子版付、杉田浩一・平宏和・田島眞・安井明美　編、ISBN978-4-263-70716-6

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品機能学						
担当教員	川口　真規子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73470
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	生物にとって食品とは本来「成長および生命の維持」という機能を有するものである。しかし、現在の私たちは基本的な機能のみならず様々な機能を求めて食品を摂取している。本授業では、日常的に摂取する食品の機能（一次機能：栄養性、二次機能：嗜好性、三次機能：生体調節機能）について説明し、特に三次機能については主な機能とその作用メカニズムについて、実際の食品を例に挙げながら解説する。
授業の概要	食品のもつ3つの機能（一次機能：栄養性、二次機能：嗜好性、三次機能：生体調節機能）について解説する。特に、三次機能については保健機能食品として認可されている食品素材を中心に、主な機能性とその作用メカニズムについても概説する。
到達目標	１）食品の機能性について理解し、解説することができる。【知識・理解】 ２）特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品についての最新の知識を理解し、これらに関わる法律について説明できるようになる。【知識・理解】
授業計画	第１回　食品の持つ機能とは　【対面】 第２回　食品の生体調節機能　活性酸素と生体　【対面】 第３回　食品の生体調節機能　抗酸化機能　①活性酸素と疾病　【遠隔】 第４回　食品の生体調節機能　抗酸化機能　②抗酸化機能を持つ食品　【遠隔】 第５回　食品の生体調節機能　糖質吸収阻害・腸内環境改善機能　①難消化性成分の特徴　【遠隔】 第６回　食品の生体調節機能　糖質吸収阻害・腸内環境改善機能　②腸内細菌がヒトに及ぼす影響　【遠隔】 第７回　食品の生体調節機能　ミネラル吸収促進・代謝改善機能　【遠隔】 第８回　食品の生体調節機能　脂質関連代謝機能　①多価不飽和脂肪酸の分類・特徴　【遠隔】 第９回　食品の生体調節機能　脂質関連代謝機能　②機能性脂質　【遠隔】 第１０回　小テスト　【遠隔】 第１１回　食品の生体調節機能　酵素阻害機能　【遠隔】 第１２回　食品の生体調節機能　免疫・神経系におよぼす機能　【遠隔】 第１３回　特定保健用食品　【遠隔】 第１４回　栄養機能食品、機能性表示食品　【遠隔】 第１５回　まとめ　期末テスト　【対面】
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：プレゼンテーションのための資料作成を行う（学習時間：2時間）。 授業後：配布プリント等を使い学習内容をノートにまとめる（学習時間：2時間）。
授業方法	松蔭manaba、zoomを使用した講義。 ただし、一部の講義はプレゼンテーションの内容をふまえて、解説・講義を行う形式とする。 ＜遠隔指定授業＞　【BYOD対象科目】
評価基準と評価方法	小テスト・期末テスト（計60%）：到達目標１）２）の達成度確認。 レポート（30%）：到達目標１）の達成度確認。 受講態度（10%）：プレゼンテーションでの積極性、協調性などで評価する。
履修上の注意	積極的に学ぶ姿勢が必要です。
教科書	なし 授業時に資料を配布
参考書	改定　食品機能学[第2版]　建帛社

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品の流通論						
担当教員	伊藤　佳代					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72530
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	食品食料の生産・流通・消費までの流れと具体的かつ総合的に把握することを目的とする。（フードスペシャリスト試験科目）
授業の概要	情報、技術、社会環境など様々な要因によりフードマーケティングは、日々変化している。食品をめぐる状況の把握、食品流通に携わる組織、食品流通の役割、特徴、仕組みを理解し、その流通と消費を考察していく。また、マーケティングの基礎理論を学ぶことでフードマーケティングの動向や今日の食品問題と流通システムについて考えていく。
到達目標	１．生産現場を理解し、市場の特徴を説明することができる。（知識・理解） ２．流通プロセスの変化を理解し、現代の流通課題について批判的に捉えることができる。（汎用的技能） ３．食に関する現代の課題について、主体的な行動をとることができる。（態度・志向性）
授業計画	第1回　食市場の変化―消費者の変化と食生活 第2回　食品流通の役割と基本構造 第3回　食品流通と食品市場①-食品小売業、百貨店、スーパー 第4回　食品流通と食品市場②-コンビニエンスストア、EC、外食産業 第5回　PBとNBとは何か 第6回　外食・中食産業のマーチャンダイジング① 第7回　外食・中食産業のマーチャンダイジング② 第8回　主要食品の流通①：流通と市場 第9回　主要食品の流通②：青果物・魚介類・畜産物（プレゼンテーション） 第10回　主要食品の流通③：大豆・漬物・調味料（プレゼンテーション） 第11回　主要食品の流通④：油脂・中食・菓子（プレゼンテーション） 第12回　フードマーケティング①-ハウス食品の事例 第13回　フードマーケティング②-大阪王将・イートアンドの事例 第14回　食料消費の課題 第15回　講義のふりかえり・期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】スーパー、コンビニ、百貨店などでどのように食品を取扱い、管理しているのかを観察する。テキストを事前に一読する。（学習時間：2時間） 【授業後】ニュースや新聞から食品に関する記事にふれる。授業中に指示された課題についてレポート等を作成する。（学習時間：2時間）
授業方法	講義 ・課題解決型学修を取り入れる。 ・プレゼンテーションを取り入れる。
評価基準と評価方法	・授業内での提出物とレポート　15% ・プレゼンテーション　15% ・期末試験　70%
履修上の注意	・講義全体の2/3の出席が確認できない場合は、受講資格を失う。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・グループワーク、ディスカッション等を積極的に取り入れる。
教科書	・日本フードスペシャリスト協会編『四訂　食品の消費と流通』建帛社、2021年。ISBN978-4-7679-0687-4 ・文野直樹、陶山計介著/伊藤佳代（執筆協力）『大阪王将の「超える」経営』幻冬舎メディアコンサルティング、2024年3月刊行。　ISBN978-4-344-94738-2
参考書	・陶山計介・鈴木雄也・後藤こず恵編『よくわかる現代マーケティング』ミネルヴァ書房、2017年。ISBN978-4-623-07975-9

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食文化論						
担当教員	江　弘毅					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73610
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	現在進行系の「都市の食文化」と「消費社会においてのグルメ」について、さまざまなテーマから概観する。
授業の概要	衣食住など、人間の生活行動に関する技術や意識の文化を生活文化という。 そのなかでも、食物摂取行動に関する文化を食文化といい、この授業では、食文化の意義と内容、文化人類学から見た食、日本〜神戸の食の伝統と最前線、食文化の国際化と交流に焦点を当てる。 またそれぞれの食事・食生活文化を形成させた要因を社会的背景や地理的環境と関連づけて学ぶとともに、時代の変遷に伴って多様化した伝統文化としての食文化を理解し、食文化が地域再生のキーとなることを解説する。
到達目標	⑴食生活および食の楽しみを文化としてとらえることができる。（態度・指向性） ⑵和食、フランス料理、中国料理などの代表的料理の特徴を理解し、わかりやすく説明することができる。（知識・理解） ⑶魅力ある都市の食文化＝グルメについて、情報収集し発信することができる。（知識・理解）
授業計画	第1回　ガイダンス　「食べること」について考えてみよう　[PC必携] 第2回　食文化によって「人間は猿から進化した」[PC必携] 第3回　食文化と食事文化　文化人類学的ベースから日本の食文化を見る [PC必携] 第4回　料理とは何か。コスメティック。フランスの料理民俗学から [PC必携] 第5回　料理と利他。一汁一菜。土井善晴氏による和食の新しい観点 [PC必携] 第6回　おいしいとは何か？ [PC必携] 第7回　ジャック・ピュイゼによる「味覚について」 [PC必携] 第8回　和食に覆い被さる西洋料理 [PC必携] 第9回　和食とフランス料理 [PC必携] 第10回　日本の食と情報化 [PC必携] 第11回　和食と外食 [PC必携] 第12回　「「和食」って何？」「平成・令和食ブーム総ざらい」／阿古真理氏のテキストから [PC必携] 第13回　外食と食ビジネスを支える人 [PC必携] 第14回　ポスト・コロナ、ウィズ・コロナ時代の食 [PC必携] 第15回　授業内容のまとめ。期末課題（試論）提出 [PC必携]
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前、授業後に参考書を読んで、キーワードや専門用語を理解する（90分）。 まちに出て飲食店や市場、スーパーマーケットなどに積極的に行き、さまざまな「食の現場」を知る（120分）。 自分で料理を作ってみて、家族や仲間と一緒に食べて評論してもらう（120分）。
授業方法	毎回授業前にmanabaのコースコンテンツに講義の内容をアップします。 レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 PCもしくはタブレットは必携のこと。 〈BYOD対象科目〉
評価基準と評価方法	期末試験＝試論（1200字）50%。各回提出のリアクションペーパー（manabaのレポートに書くこと）30%、質問応答（コール＆レスポンス）、授業中の発表発言20%。
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。
教科書	毎回、授業前にmanabaのコースコンテンツをアップし、レジュメや資料を配布します。
参考書	『講座　食の文化　第一巻〜第七巻』　石毛直道監修　（財）味の素食の文化センター 『いま「食べること」を問う』サントリー次世代研究所編、農山漁村文化協会　ISBN-10: 4540062670 『子どもの味覚を育てる　親子で学ぶ「ピュイゼ理論」』ジャック・ピュイゼ著、CCCメディアハウス　ISBN-10 : 4484171081 『フランス料理の歴史』ジャン=ピエール・プーランほか著、角川ソフィア文庫　ISBN-10: 4044002320 『「うまいもん屋」からの大阪論』江　弘毅著、ＮＨＫ出版新書　ISBN-10: 414088357X 『哲学するレストラトゥール』橘　真著、ブリコルール　ISBN-10　:　4990880129 『料理と利他』土井善晴・中島岳志著、ミシマ社　ISBN-10　:　4990880129 『一汁一菜でよいと至るまで』土井善晴著、新潮新書　ISBN-10　:　4990880129 『くらしのための料理学』土井善晴著、NHK出版　ISBN-10　:　4990880129

参考書	『『和食』って何？」阿古真理著、ちくまプリマー新書　ISBN-10　：　4990880129 『何が食べたいの「日本人」？　平成・令和食ブーム総ざらい』阿古真理著、ISBN-10　：　4990880129

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	色彩学						
担当教員	花田　美和子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72140
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	色彩の基礎知識を習得する。
授業の概要	人は情報の大部分を視覚から得ている。その中でも色のもつ影響力は大きい。本講義では色の性質について学び、色の表し方や色彩調和の理論、色の測定方法についての基礎知識を身に着ける。さらに、演習課題を通して、色の効果的な使い方についても学ぶ。
到達目標	代表的な表色系とカラーオーダーシステムについて説明することができる【知識・理解】 色彩調和に基づいて、色を使った表現をすることができる【汎用的技能】 色と光の関係について科学的に説明することができる【知識・理解】 生活と色に関する諸問題について考察することができる。【知識・理解】
授業計画	第１回：生活と色、色の心理的効果 第２回：色の表示（色の三属性、色名） 第３回：色の表示（マンセルシステム） 第４回：色の表示（PCCS） 第５回：色の表示（オストワルト表色系、NCS） 第６回：三刺激値による色の表示 第７回：まとめと中間試験 第８回：配色技法 第９回：カラーコーディネートの実践①　[PC必携] 第１０回：カラーコーディネートの実践②［PC必携］ 第１１回：光と色 第１２回：色の生理 第１３回：色の測定 第１４回：混色と色再現 第１５回：まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を読んで予習する（1.5時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をプリント（理解しようシリーズ）で確認し、演習課題に取り組む（2.5時間）
授業方法	講義、一部演習を含む。 BYOD対象科目
評価基準と評価方法	平常点:40%、試験:60% 平常点は各回の提出課題の内容、演習課題等を評価する 試験は中間と期末の2回実施する。
履修上の注意	１．教科書、配色カード、のり、はさみ、その他指示されたものを持参すること。 ２．配色カードは試験にも使用するので、各自必ず準備すること。 ３．ほとんどすべての授業回でmanabaを使用するため、PCの携行を推奨する。
教科書	「生活の色彩学 ―快適な暮らしを求めて―」橋本令子 ・石原久代 編著（朝倉書店）ISBN:978-4-25-460024-7 「新配色カード199a」日本色研事業株式会社
参考書	「カラーコーディネーションの基礎」東京商工会議所（中央経済社）ISBN:978-4502445804

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	質的調査法／社会調査基礎演習II						
担当教員	稲見　直子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U22040
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	質的調査の特質と意義を理解し、質的データの収集技法や分析方法を修得することを目的とする。
授業の概要	社会調査には大きく分けて量的調査と質的調査があるが、この授業では質的調査に関してその技法や調査の一連の過程を実践的に修得し、社会調査の理解を図る。
到達目標	(1)質的調査の特質と意義を理解し、専門用語を使って説明できる。【知識・理解】 (2)調査企画から実査、分析、報告ができる。【汎用的技能】 (3)質的調査に主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回　　質的調査とは／調査倫理 第2回　　観察法とは／観察法による研究例の紹介と解説／課題説明 第3回　　観察法（2）データ収集（学外調査予定） 第4回　　観察法（3）データ分析①　※PC必携 第5回　　観察法（4）データ分析②　※PC必携 第6回　　ドキュメント分析／ドキュメント分析による研究例の紹介と解説／課題説明　※PC必携 第7回　　ドキュメント分析（2）データ収集　※PC必携 第8回　　ドキュメント分析（3）データ分析①　※PC必携 第9回　　ドキュメント分析（4）データ分析②　※PC必携 第10回　インタビュー調査／インタビュー調査による研究例の紹介と解説／課題説明 第11回　インタビュー調査（2）データ整理　※PC必携 第12回　インタビュー調査（3）データ分析①　※PC必携 第13回　インタビュー調査（4）データ分析②　※PC必携 第14回　分析結果の報告(1)観察法、ドキュメント分析、インタビュー調査をまとめた分析結果をパワーポイントにまとめてプレゼンテーション 第15回　分析結果の報告(2)観察法、ドキュメント分析、インタビュー調査をまとめた分析結果をパワーポイントにまとめてプレゼンテーション
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：インタビューやエスノグラフィなど質的調査を基にした文献を読む。＜2時間＞ 授業後学習：新聞記事の検索やトランスクリプトの作成のほか、各手法による分析が授業内にできなかったものは、授業外に課題として取り組む。＜2時間＞
授業方法	各自でテーマを設定して調査企画から実査、データ整理、分析、報告までを演習形式で行い、質的調査の一連の流れを実践的に修得する。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・授業参加度（30%）：授業内の課題の取組み・提出状況や授業への姿勢・態度を総合的に評価。到達目標(1)(2)(3)に対応。 ・プレゼンテーション（70%）：質的調査で収集したデータや報告態度・内容など総合的に評価。到達目標(2)に対応。
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 ・学外でフィールドワークを実施するので交通費や入館料が発生することがある。
教科書	適宜レジメと資料を配布する。
参考書	岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016,『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』有斐閣ストゥディア.

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	質的調査法／社会調査基礎演習II						
担当教員	松原　千恵					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U22040
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	様々な質的データの収集や分析方法を習得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。
授業の概要	さまざまな質的データの収集や分析方法を修得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。フィールドワーク、エスノグラフィー、聞き取り調査、参与観察法、考現学的観察、ドキュメント分析、内容分析、言説分析、エスノメソドロジー、会話分析、インタビュー、ライフヒストリー分析他、質的調査の代表的な方法論を修得する。問題設定や仮説に基づき適切な技法を選択し、言語的データや非言語的データの質に応じて、データの収集および分析の方法を実習する。
到達目標	(1) 社会調査の種類・方法を理解し、調査企画・設計・分析・報告の仕方を習得する。【知識・理解】 (2) 質的および質的調査に基づく社会調査の方法を習得する。【汎用的技能】
授業計画	各回の課題提出は手書きによる現物でのレポート提出もしくはmanabaでのレポート課題提出（PC使用）のどちらでもよい。 また、データ入力や課題作成など、回によっては授業時間中にPCを使用することになるため、各自授業開始前にPCを準備しておくのが望ましい。 第1回　質的研究および質的調査の意義と特質～様々な調査方法を学ぼう～：量的調査と質的調査の特性、量的研究と質的研究の意義と特質を理解する。既存の研究や調査を題材として、質的研究の方法を学ぶ。 第2回　質的研究および質的調査の意義と方法～様々な調査方法を学ぼう～：様々な質的研究および質的調査の方法を先行研究から学ぶ。 第3回　内容分析(1)～文字・活字データを分析しよう～：新聞・雑誌記事などのメディアにおける質的データを量的データに変換し分析する方法を学ぶ。データベースを利用してキーワード検索を行い、データを収集し、内容を検討する。 第4回　内容分析(2)～文字・活字データを分析しよう～：分析単位の設定とコーディングを行い、データを整理する。 第5回　内容分析(3)～文字・活字データを分析しよう～：整理されたデータの信頼性と妥当性を確認しよう。 第6回　内容分析(4)～文字・活字データを分析しよう～：データを図表化、分析の結果を文章化し、報告書としてまとめる。 第7回　聞き取り調査による分析(1)～音声データを分析しよう～：聞き取りを通じて得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析手法として、エスノグラフィー、ライフコース分析、ライフヒストリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析などがある。問題設定を行い、聞き取りの対象、内容、場所について検討する。 第8回　聞き取り調査による分析(2)～音声データを分析しよう～：聞き取り調査を実施する。 第9回　聞き取り調査による分析(3)～音声データを分析しよう～：トランスクリプトの作成やデータの再構成など、得られたデータの整理を行う。 第10回 聞き取り調査による分析(4)～音声データを分析しよう～：データを分析し、報告書にまとめる。 第11回 観察による分析(1)～視覚的データを分析しよう～：観察を通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析手法として、参与観察法、考現学的観察法、ドキュメント分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）などがある。 第12回 観察による分析(2)～視覚的データを分析しよう～：観察調査を実施する。（学外研修実施予定） 第13回 観察による分析(3)～視覚的データを分析しよう～：観察されたデータの検討を行う。 第14回 観察による分析(4)～視覚的データを分析しよう～：観察されたデータを分析し、報告書にまとめる。 第15回 分析結果のプレゼンテーション：報告書としてまとめた分析結果をレジュメやパワーポイントによって発表する。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：該当する回の授業に必要なデータ入力や課題内容の自主的な再検討、グループワークの場合はグループ内ディスカッションの補完を2時間程度 授業後：授業時間内で完了できなかった作業の補足、次回へ向けた作業内容の整理、演習のなかで学んだことの整理・記録に2時間程度 【補足】 この授業は演習として社会調査の技法を実際に体験して学んでいくため、各自が作業を通して技法を学び取ることを重視している。そのため、毎回学習内容と作業内容は異なり、かかる時間についても個人差が大きいことが予想される。どの作業についても、毎回の授業中に出される課題にしっかり取り組み、苦手に感じたり理解が難しいことについて、授業時間以外の時間を用いて言語化・記録していくことが重要である（授業前後合計4時間程度）。また、初めて調査を体験する学生が多いため、授業内で出された課題について授業時間内に終えられない場合がある。終えられなかった場合は、次回の授業に作業がずれ込むことになる。そこで、授業時間以外に自分の状況を把握し、これらの課題について自主的に作業を進め完了させておく必要がある。病気やケガなどの事情で作業が遅れる場合は早めに連絡し、課題提出を先延ばしにしないことが、望ましい。欠席した場合は授業時間内の作業も加わるため、それに相当する学習時間の確保が必要になる。 実際の時間量や内容については個々の進捗状況によるが、たとえば、 ・内容分析の単元ではパソコン（エクセル）での入力作業もしくは手書きでの白表への記入の作業のほか、グループでの分析のためのディスカッションの作業がある。エクセル操作が苦手な学生の場合作業に時間がかかり結果的に授業時間外に残りの作業を完了させるケースがある。作業時間は個々の状況による。必要な場合は、グル

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ープ内の話し合いに2時間程度、エクセル入力の作業に2時間程度かかると予想される。 ・聞き取り調査の単元では実際に調査を実施する課題があり、授業時間中に作成した調査テーマや質問文について、授業時間の前後で自主的に下調べや再検討の作業を行うことが求められる（2時間程度）。また、聞き取りの音源はその次の回までに書き起こし作業を行うが、これについてもパソコンでの入力もしくは手書きでの書き起こし作業を行うことになる（2時間程度）。また、パワーポイントを用いた発表会への準備も、授業時間外に自主的に行う必要がある（2～4時間程度）。授業に欠席した学生などについては授業時間外に各自で対象者を探して協力依頼をし、調査を実施（録音録画等で記録）し、書き起こしを行い、発表会の準備を行うこともあると予想される（4時間程度）。 ・観察法の単元では、写真撮影などの調査を各自授業時間外に実施（合計2時間程度）し、その結果についての報告ポスター作成も授業時間外に行うことがある（2時間程度）。このときには、パソコンでワードやパワーポイントを使用することもある。この単元についても、授業時間以内に作業が終了できなければ、時間外に１～２時間程度の学習時間を確保し、調査の実施と報告作成作業を行うこともあると予想される。 ・グループワークでは授業時間外での各自の進捗状況について同じチームのメンバーと連絡をとりあい、課題を共有する必要がある。欠席時の連絡はとくに丁寧に行い、人任せにしないことが重要である。連絡を取る方法と時間については各グループ、学生に任せる。 これら多岐にわたる作業は、各自得意な作業やそのスピードは異なることと、苦手かつ時間がかかる学生については適宜代案を相談し進めているので、その都度教員に相談してほしい。わかったこと、わからなかったことなど、不明な点は次回授業までに個別指導等で教員に内容確認する必要があるが、連絡方法や時間については複数の方法を初回に示す。
授業方法	演習：個人またはグループごとにテーマを設定し、調査の企画、実施、データ整理、データの分析等の実習を行い、結果のプレゼンテーションを行う。各自で松蔭manabaを利用してレポートを提出する。
評価基準と評価方法	「内容分析」「聞き取り調査」「観察」という各技法の実施報告書作成とプレゼンテーションの内容（各単元の報告書について30%ずつ割り当てる）に加え、グループワークやディスカッションなどを含め、授業への参加姿勢、毎回授業後に提出するミニレポート課題の内容（10%）によって、総合的に評価する。
履修上の注意	・授業へ参加することが重要なので出席を重視する。開講授業回数の３分の２以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻２回で欠席１回とする。欠席や遅刻早退についてはなるべく事前に連絡をすること。 ・課題の提出や、作業の進捗状況の確認や準備しておく作業等についてはmanabaのコースニュースでアナウンスするので、定期的に確認すること。 ・授業に欠席した場合は各自、コースコンテンツや課題等を確認すること。 ・資料やデータ収集のため、学外実習を行うことがある。その場合、交通費や入場料の実費負担がある。
教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査　技法編』ミネルヴァ書房. 谷富夫・山本努編著, 2010, 『よくわかる質的社会調査　プロセス編』ミネルヴァ書房. 轟亮・杉野勇編, 2010, 『入門・社会調査法　２ステップで基礎から学ぶ』法律文化社. 盛山和夫 , 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	住行動論						
担当教員	司馬　麻未					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72230
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	人間の「生活」と「住行動」の関わりについて考える
授業の概要	本講義は、人間にとって最も身近な生活環境である「住まい」を中心的に扱う。住まいと人間との関わりから、人間行動とそれに伴う心理状態の変化などの具体例を紹介する。また、都市で発生する諸問題（騒音、日照権、ゴミ問題等）、高齢者や障がい者との共生のための住まいのあり方などを取り上げ、家族、地域、世代等に着眼し、人間関係や諸環境間の関連について、批判的に考察する基礎的能力を養う。さらに、本講義で学んだ内容を、自らの生活環境を改善する実践へと発展させるような展開を図る。
到達目標	(1) 身近な住環境を批判的に考察し、改善案について間取り図を作成することができる【汎用的技能】 (2) 身近な住環境に潜む問題に気づき住行動からの改善を図ることができる【態度・志向性】 (3) 現在の自分、これからの自分を見据えた住まい方のプランについて述べることができる【知識・理解、汎用的技能】
授業計画	第１回　講義形態の確認、住まいに関する関心度アンケート 第２回　身近な住まいへの着眼 第３回　身近な住まいに関するグループワーク（発表含む） 第４回　家族のライフステージと住まい（一人暮らしに必要な情報） 第５回　家族のライフステージと住まい（一人暮らしの人生設計と住まい） 第６回　家族のライフステージと住まい（子育て家族の住まい・学童期） 第７回　家族のライフステージと住まい（子育て家族の住まい・青年期） 第８回　家族のライフステージと住まい（高齢期の住まい・高齢（単身）世帯） 第９回　家族のライフステージと住まい（多世代同居と住まい） 第10回　共生社会と住まい（ペットと住まい） 第11回　共生社会と住まい（バリアフリー、ユニバーサルデザイン） 第12回　共生社会と住まい（持続可能な社会と住まい）※ゲストスピーカー 第13回　共生社会と住まい（多文化共生と住まい） 第14回　共生社会と住まい（多様な家族形態と住まい） 第15回　住行動に関する終講課題及び講義総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各授業について、理解が不足している点を復習すること＜2時間＞。 次時の授業に向けて、自分の身近な生活環境を振り返り、関連する事項を整理するなど、主体的な学習に臨むための準備を行うこと＜2時間＞。
授業方法	講義はパワーポイントにそって進め、毎時間ノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。 さらに、身近な住環境や住まい方等について各自の意見を整理する活動や、それをもってペアワークやグループディスカッションなどを行うことがある。
評価基準と評価方法	・授業の参加態度・ワークシート記入状況(60%) →到達目標(1)～(3)に対応 ・終講課題(40%) →到達目標(2)および(3)に対応
履修上の注意	・出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
教科書	授業内容に応じて資料を配布する。
参考書	・中根芳一（編）『私たちの住居学(第2版):サスティナブル社会の住まいと暮らし』オーム社(2019年), ISBN-10:42742 23485、ISBN-13:978-4274223488 ・中島義明, 大野隆造（編）『すまう ： 住行動の心理学（新装版第１刷）』朝倉書店（2020年）, ISBN：978-4-254-52028-6 ・定行まり子, 沖田富美子（編）『生活と住居（第４版）』光生館（2021）, ISBN：978-4-332-32008-1

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	住生活論						
担当教員	稲見　直子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U11030
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	住まいに関する基礎的知識を修得するほか、現代の住まいが抱える課題の発見とその解決策を提案する。
授業の概要	私たちの生活に欠かせない住まいに関して、その基本的な知識の修得だけでなく、現代の住まいが抱える課題を理解し、よりよい住生活を営むための解決策を考える。
到達目標	(1) 住まいに関する基礎的知識を修得することができる。【知識・理解】 (2) 快適な住空間や安全な住空間を創造することができる。【知識・理解】 (3) 住まいをめぐる課題を自ら発見し解決策を提案することができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回　住まいと人権 第2回　日本の住まい 第3回　海外の住まい 第4回　ライフステージと住まい 第5回　住まいと間取り 第6回　間取り図の作成 第7回　住まいと健康・安全 第8回　住まいと災害 第9回　住まいと福祉 第10回　日本の住宅政策 第11回　住生活と費用 第12回　空き家問題 第13回　住まいとまちづくり 第14回　さまざまな集合住宅 第15回　振り返りと期末テスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱うテーマに関する新聞記事を探して読み下調べをする。＜2時間＞ 授業後学習：各回の授業で扱ったキーワードを整理しまとめる。＜2時間＞
授業方法	基本的に講義形式をとるが、授業内ではワークシートの記入やグループディスカッションなども取り入れ、学生の主体的な参加を促す。
評価基準と評価方法	・授業参加度（30%）：授業に主体的に取り組んでいるか、ワークシートにおいて分析的に書けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・小レポート（20%）：間取りに関するレポートを作成。到達目標(2)の確認。 ・期末テスト（50%）：住まいに関する基礎的知識を確認する。到達目標(1)の確認。
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 ・授業中のスマホ操作・私語・居眠り禁止。注意しても改善されない場合は減点対象とする。
教科書	授業内容に応じて、適宜レジメと資料を配布する。
参考書	後藤久監修, 2013,『最新住居学入門』実教出版.

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	情報社会論						
担当教員	長谷川　誠					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72040
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	生活、仕事などの身近な問題をテーマに情報社会を社会学的に捉えていく
授業の概要	情報化社会とされる今日、我々は、日常生活における様々な問題を解決するために、情報を正確に捉える力や分析する力が求められている。 また「情報」と「職業」の接点を考察することは、自身のキャリア形成を考える際や、就職活動に取り組むときに必要な視点となるといえる。この授業では、急速に発展する情報社会を社会学的に捉え、仕事、生活をしていくうえで必要な情報の収集、発信の方法や情報モラルについて考えていく。
到達目標	(1)情報社会の諸問題を社会学的に捉え、説明できる。【知識・理解】 (2)情報社会に潜むリスクについて理解し、適切な情報の収集、発信方法を習得、使用する。【汎用的技能】 (3)情報社会に対する興味をより具体的なものとして意識し、議論することができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回　オリエンテーション【対面】 第2回　情報社会の成立【対面】 第3回　情報社会の進展【遠隔】 第4回　インターネットの普及【遠隔】 第5回　情報化とプライバシー【遠隔】 第6回　情報モラルとは【遠隔】 第7回　情報社会と職業－情報化がもたらす仕事の変化－【遠隔】 第8回　若者文化と情報－若者にとって「つながる」とは何か－【遠隔】 第9回　若者とインターネット【遠隔】 第10回　ネットいじめ問題【遠隔】 第11回　SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の有効性【遠隔】 第12回　SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の危険性【遠隔】 第13回　就職とインターネット【遠隔】 第14回　生涯学習社会とインターネット【遠隔】 第15回　まとめ【対面】
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・情報社会に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：2時間）。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：2時間）。
授業方法	本授業は「遠隔指定授業」（数回の対面講義有り）のため、ZOOM、manabaを活用しながら、解説、ディスカッションを行う ＜遠隔指定授業＞
評価基準と評価方法	・課題試験70%：授業で扱った情報社会に対する理解度、インターネット、SNSに対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価するとともに、到達目標(1)から(3)に関する到達度の確認。 ・レポート30%：内容についてのコメント、質問の記述の的確性を評価するとともに到達目標(1)から(3)　に関する到達度の確認。 ・課題のフィードバックのコメントは、翌週授業において紹介、解説する。
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。 ・欠席した場合は、必ず相談すること。
教科書	適宜、レジュメ、資料等を配布する
参考書	授業中に指示する

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	人材マネジメント論／ヒューマンリソースマネジメント論						
担当教員	岩田　英以子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72570
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	企業と人材を活かして成果をあげる立場にある人（人事担当者、経営者、管理職、人材業界の方など）のあり方を研究し、人材マネジメントの基本を学ぶ。
授業の概要	企業の中で、どのように人材を活かしていくのか、採用・育成・評価/報酬・配置・継承などの人材マネジメントの基礎的な領域を学ぶ。そして、日本企業と欧米企業における人事制度等の特徴について、比較しながら理解を深める。 将来企業での人事担当者等を目指す学生のキャリア形成に役立つものとする。
到達目標	・企業の中で“人”のマネジメントのあり方を理解し説明できる。【知識・理解】 ・企業戦略、ビジネス環境に対応する人材マネジメントの仕組みについて習得し、使用できる。【汎用的技能】 ・人事担当者として必要な知識・スキル、自身のキャリアを意識する。【態度・志向性】
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　企業にとって人材とは 第３回　　労働市場と人材 第４回　　採用：どのように人材を採用するのか 第５回　　育成：人の能力をどう最大化（教育）するのか 第６回　　評価制度：どのように人材を評価するのか 第７回　　従業員区分・格付制度：どのように人材を区分し、管理するのか 第８回　　配置・異動：配属先・異動先をどのように決定するか 第９回　　賃金制度：どのような賃金制度があるのか 第１０回　定着：人材流出をどのように防ぐのか 第１１回　継承：経営幹部候補者・管理職をどう選抜・育成するか 第１２回　人事制度の国際比較：メンバーシップ型とジョブ型 第１３回　労働時間・休日休暇・ワークライフバランスの考え方 第１４回　ダイバーシティ・マネジメント 第１５回　まとめ・質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：企業の人に関する時事問題に関心を持ち、新聞やWebニュース等で情報を収集し、整理しておく。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業の内容をふまえ、次の授業で行うアクティビティやディスカッションに備えて、意見をまとめておく。（学習時間：2時間）
授業方法	グループワーク、アクティビティ、ロールプレイングを取り入れた、演習形式に講義形式が混ざる。
評価基準と評価方法	平常点：授業への参加・レポート等の提出を含む（30%）、アクティビティへの参加や事前準備（30%）、発表等の評価（40%）の総合評価です。
履修上の注意	積極的な参加と事前準備をお願いします。
教科書	授業中に提示する。
参考書	『図解人材マネジメント入門 ： 人事の基礎をゼロからおさえておきたい人のための「理論と実践」100のツボ』、坪谷邦生、ディスカヴァー・トゥエンティワン、ISBN:9784799326121

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	製菓・製パン実習						
担当教員	松木　宏美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U22160
学期	後期隔週A	曜日・時限	月曜2～5	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	製菓・製パンについて基礎的な知識と技能を系統的に身につける。
授業の概要	この授業では前期の「製菓・製パン理論」を踏まえ、衛生面に留意しながら基本的な菓子やパンの実習を行う。特別招聘講師や実習アドバイザーとして、神戸マイスターやパン職人を迎え、実践的な指導も受ける。これらの実習を行う中で、各種原材料の役割や取り扱い方、作業工程、作業や操作の効果など、基礎的な知識と技能を系統的に身につけるとともに、市場への視野を広げる。最終的には、各自が独自の菓子やパンを考案・計画し、実際に作り、発表する。
到達目標	(1) 作るものの特性や作業手順を把握し、衛生面に留意した基本的な作業を説明できる。【知識・理解】 (2) 各種原材料の特性や製造工程などの基礎的な知識を活用し、衛生面に留意した製菓・製パン作業ができる。【汎用的技能】 (3) 基本的な作業を確実にマスターし、タイプに応じた対応ができる。【汎用的技能】 (4) 習得した技術を用いて、独自の菓子やパンを提案（計画、作成）することができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回　オリエンテーション、実習前の注意事項、餡、無発酵パン 第2回　手ごねパン　ロールパン 第3回　手ごねパン　編みパン 第4回　「特別招聘講師」洋菓子　スポンジ生地 第5回　「特別招聘講師」洋菓子　バター生地 第6回　「特別招聘講師」洋菓子　タルト生地 第7回　「特別招聘講師」洋菓子　シュー生地 第8回　「実習アドバイザー」シンプルなパン　食パン 第9回　「実習アドバイザー」リッチなパン　折り込み生地のパン 第10回　「実習アドバイザー」シンプルなパン　フランスパン 第11回　「実習アドバイザー」リッチなパン　菓子パン 第12回　和菓子　蒸し菓子 第13回　和菓子　上生菓子 第14回　オリジナル菓子・パン作成 第15回　オリジナル菓子・パンの発表、実習のまとめ ※菓子・パンの種類については、その回の代表的なものを挙げている。 ※実習内容の詳細は、第1回オリエンテーションにて伝える。 ※場合によっては、順序や内容を変更することがある。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学修：実習内容について資料や教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。＜1時間＞ オリジナル菓子・パン作成の準備では、書類を作成する。 授業後学修：実習手順や作業のポイント他、結果について考察し、レポートを作成して提出する。＜1時間＞ ※資料やレポートのやりとりは松蔭manabaを活用する。
授業方法	実習：作業の説明・示範の後、グループごとまたは個別に製菓・製パン作業を行う。 試食の準備や実習の後片付けもグループで協力をして行う。 発表：第15回では、各自が考案・作成したオリジナルパンについて発表し、ディスカッションを行う。
評価基準と評価方法	授業態度50%、提出物20%、課題20%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（菓子･パンの仕上り）を総合的に評価する。 （実習の取り組みでは、特に衛生面・注意事項への対応を重視する） 到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。到達目標（1）に関する到達度の確認。 課　題：【オリジナル菓子・パン作成】課題について適切な計画をたて、計画に基づき作成できているか。 到達目標（3）（4）に関する到達度の確認。 小テスト：指定した基本的な操作を正確に行っているかを評価する。 到達目標（2）（3）に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：質問や課題については、授業時および松蔭manabaにて対応する。
履修上の注意	「製菓・製パン理論」または「和洋菓子・製パン理論」の単位修得者が履修できる。 隔週で2回分連続の実習となるため、日程に注意をすること。 実習内容を把握し、実習に適した身支度をした上で、実習に臨むこと。 実習室・試食室へは、許可された物のみ、持ち込みを可能とする。 実習後・試食後の後片付けと実習室・試食室の清掃終了までが、実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は、必ず連絡をすること。 提出物は、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。（「調理実習」で用いるものを使用する） 実習費8,000円を徴収する。（製パン実習回の昼食に充当する試食分を含む）

教科書	『基礎からわかる製パン技術』エコール辻 大阪 辻製パンマスターカレッジ、吉野精一著、柴田書店、ISBN 978-4-388-06107-5 『洋菓子教本』日本菓子教育センター洋菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2017） 『プロのためのわかりやすい和菓子』辻製菓専門学校、仲實著、柴田書店、ISBN 978-4-388-06000-9 ※前期の「製菓・製パン理論」と同じ教科書を使用する。
参考書	『パンの事典』井上好文監修、旭屋出版、ISBN 978-4-7511-0696-9 『プロのためのわかりやすいフランス菓子』辻製菓専門学校、川北末一著、柴田書店、ISBN 978-4-388-05944-7 『決定版　和菓子教本』日本菓子教育センター編、誠文堂新光社、ISBN 978-4-416-81293-8 『和菓子教本』堀正幸著、日本菓子教育センター和菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2014） ※上記は、前期の「製菓・製パン理論」の参考書と同じ。 ※必要に応じて松蔭manabaで紹介をする。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	製菓・製パン理論／和洋菓子・製パン理論						
担当教員	松木　宏美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72650
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	製菓・製パンの実践に活かせる知識や理論を科学的に修得する。
授業の概要	菓子やパンを作るためには、材料の選定・準備、作業の実施と各工程の見極めが重要となる。そこには物理的、化学的な理由だけではなく、地理的、歴史的な背景がある。この授業では、菓子やパンについての基礎知識（歴史、分類、材料、作業工程、器具・道具）や理論（材料の役割、作業工程の意義、膨化のしくみ）、衛生的な取扱いなどを学び、製菓・製パンについて科学的、体系的な理解を深める。さらに後期の製菓・製パン実習とリンクさせながら、実践に活かせる知識としての修得を目指す。
到達目標	(1)和洋菓子・パン製造の基礎知識や理論、衛生的な取扱いを理解し、説明できる。【知識・理解】 (2)製法や素材選びなど製造現場での基本的な知識を体系的に関連づけることができる。【汎用的技能】 (3)製菓・製パンのコツとカンに類する部分を科学的知識として説明できる。【態度・志向性】
授業計画	第1回　オリエンテーション、和洋菓子・パンの概要 第2回　歴史と種類 第3回　材料の基礎知識 ① 粉（小麦、米、他） 第4回　材料の基礎知識 ② 糖類 第5回　材料の基礎知識 ③ 乳製品、油脂 第6回　材料の基礎知識 ④ 卵、他 第7回　作業工程 ① [PC必携] 第8回　作業工程 ② [PC必携] 第9回　膨化のしくみ 第10回　基本の生地 ① 第11回　基本の生地 ② 第12回　製菓・製パン道具と器具の役割 [PC必携] 第13回　菓子・パンの周辺　お茶・食器 [PC必携] 第14回　オリジナル菓子・パンに向けて　衛生的な取り扱い [PC必携] 第15回　授業内容のまとめ・総復習と期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学修：松蔭manabaコンテンツに提示する資料、教科書の当該箇所を予習しておく。 ＜2時間＞ 授業後学修：授業の要点と重要箇所の確認・整理をし、松蔭manabaの小テストまたはレポートを提出する。 ＜2時間＞
授業方法	主として講義形態で授業を行う。グループディスカッションを行うこともある。 講義では教科書や資料を基に、菓子やパンの基礎的な知識、実習で取り上げる菓子やパンの材料や作り方について、理論と関連づけた具体的な説明を行う。パワーポイントや映像を用いたり、布や小麦粉粘土などで成形の練習を行うこともある。また、各自のPCを用いて、関連事項の検索や材料の分量計算など、製菓・製パンに必要な作業準備計画を行う。毎回終了前にはまとめの時間を設けて質問に応じ、小テストまたはレポート課題を課す。 ＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	期末試験50%：授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 課　題　20%：課題に対して積極的に調べ、レポートを作成していることを評価する。 到達目標(2)に関する到達度の確認。 授業態度30%：小テストやレポートにより、理解度、興味・関心の明確性・具体性について評価する。 授業中の作業やディスカッションでは、積極性、興味・関心の明確性・具体性を評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：授業時および松蔭manabaにて対応する。
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守のこと。 質問には、授業時および松蔭manabaで応じる。
教科書	『基礎からわかる製パン技術』エコール辻　大阪　辻製パンマスターカレッジ、吉野精一著、柴田書店、ISBN 978-4-388-06107-5 『洋菓子教本』日本菓子教育センター洋菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2017） 『プロのためのわかりやすい和菓子』辻製菓専門学校、仲實著、柴田書店、ISBN 978-4-388-06000-9 ※「製菓・製パン実習」でも上記を教科書として使用する。
参考書	『パンの事典』井上好文監修、旭屋出版、ISBN 978-4-7511-0696-9 『プロのためのわかりやすいフランス菓子』辻製菓専門学校、川北末一著、柴田書店、ISBN 978-4-388-05944-7 『決定版　和菓子教本』日本菓子教育センター編、誠文堂新光社、ISBN 978-4-416-81293-8 『和菓子教本』堀正幸著、日本菓子教育センター和菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2014）

参考書	※必要に応じて松蔭manabaで紹介をする。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活学概論						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U01010
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	人間の生活について総合的に学ぶ
授業の概要	本講義は、人間の生活について、その変化のメカニズムや生活を捉える方法について知り、本学科で学ぶ上での基礎的な知見を得ることを目的とする。前半は、「生活学」や「家政学」の学問体系について概観し、現代の都市的生活様式がどのように形成されてきたかを知る。後半は、生活の中で重要な家計、生活時間、家事労働等について学び、現代生活の具体的特徴を知る。さらに、死別に伴う悲嘆について考えることから、一人の人間が誕生し、生涯を終えるまでの過程を学び、生活を総合的に捉える視点を養う。
到達目標	(1) 生活学・家政学の成り立ちや現状について理解している【知識・理解】 (2) 個人のライフコースにおける諸課題が説明できる【知識・理解 / 態度・志向性】 (3) 現代の多様な生活課題に対して、自分なりの解決策が提案できる【汎用的技能】
授業計画	第１回　生活学を学ぶ意義とこれまでの学びの振り返り 第２回　生活学・家政学の成立と変遷 第３回　戦後の生活変化と家族形態の変遷 第４回　生活と家族をめぐる社会的課題（人口動態、各種統計から） 第５回　生活と家族をめぐる身近な課題（生活・家族をめぐる具体的事例から） 第６回　ジェンダーとセクシャリティ 第７回　恋愛とパートナー選択 第８回　生活と生活自立 第９回　ライフイベントとライフプランニング 第10回　生活時間と女性の就業 第11回　消費生活と家計 第12回　情報社会と消費生活 第13回　加齢と高齢期の生活 第14回　死別と悲嘆 第15回　生活学の将来展望と試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて、関連資料や時事問題について調べるなど、下調べをすること。＜２時間＞ 授業後学習：授業内で指示したテーマや扱われた事柄について復習し、インターネットや図書館で関連する書籍・情報を検索するなど、発展的学習を行うこと。＜２時間＞
授業方法	講義：パワーポイントに沿って進めるので、毎時間配付するワークシートに要点を整理すること。講義の最後は「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。さらに、大人数の講義ではあるが、各自が主体性をもって学べるよう、例えばクリッカーなどのICT教材や動画教材などを積極的に活 用する。
評価基準と評価方法	終講試験(60%) →到達目標(1)および(2)に対応 ワークシート記入状況、受講態度・姿勢(40%) →到達目標(1)～(3)に対応 毎時間配付するワークシートの穴埋めはすべて埋めること。また、「本日の課題」は講義で扱われた専門用語や教示内容を引用し、自らの考えを述べるように努めること。
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は原則として受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。
教科書	
参考書	・家政学の時間編集委員会. 『楽しもう家政学-あなたの生活に寄り添う身近な学問-』. 2017. 開隆堂. (ISBN: 9 78-4304021497) 他、適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活経済学						
担当教員	前田　直哉					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U12080
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	生活と経済のかかわりを理解させ、生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性を理解する。
授業の概要	最近メディア報道で経済的諸問題、具体的には国債発行に見る累積赤字、不良債権問題と金融危機、失業率上昇や就職率低下などの雇用問題、円相場の変動と輸出入の関係、産業の空洞化などが多く取り上げられる。本講義では、失業率上昇や就職率低下などの雇用問題や産業の空洞化など、学生の卒業後の生活とかかわる問題と関連させながら、生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について認識させる。
到達目標	(1)「経済循環における家計の位置づけを家計の可処分所得の分析などの具体的な事例を通して理解し、その説明ができる」【知識・理解】 (2)「生涯にわたる短期・長期の生活設計を行う上での個人の資産管理の基本的な考え方を理解し、それを身近なものとして認識することができる」【汎用的技能】 (3)「キャッシュレス社会とその課題について理解し、展望することができる」【態度・志向性】
授業計画	第1回　ガイダンス～日本の家計の金融行動と日本経済の資金循環〔PC必携〕【対面授業】 第2回　今日の家計の特徴〔PC必携〕【対面授業】 第3回　貨幣の時間価値①：貨幣の定義、貨幣の時間価値、機会費用【遠隔授業】 第4回　貨幣の時間価値②：異なる時点間の価値の比較、単利と複利、終価係数、現価係数【遠隔授業】 第5回　金利①：金利と利回り、短期金利と長期金利、短期金融市場と長期金融市場、固定金利と変動金利、預貯金と金利、名目金利と実質金利、貸し手と借り手【対面授業】 第6回　金利②：債券価格と金利の逆行関係、債券価格と株式価格の相関関係【遠隔授業】 第7回　長期の生活設計におけるリスク管理【遠隔授業】 第8回　生涯賃金と支出【遠隔授業】 第9回　社会保障制度～中間試験〔PC必携〕【対面授業】 第10回　個人･家計の負債利用①：負債利用までのプロセス、負債のコスト、負債利用の注意点、多重債務、債務整理【遠隔授業】 第11回　個人･家計の負債利用②：支払い手段の多様化と様々なカード、クレジットカードの利用と管理、リボルビング払いの返済スケジュール【遠隔授業】 第12回　個人･家計の負債利用③：日本のクレジット統計【遠隔授業】 第13回　ライフプラン実習〔PC必携〕【対面授業】 第14回　金融商品①：金融商品の種類とリスク、株式の基本、株式相場指標、株式投資指標【対面授業】 第15回　金融商品②：債券の種類と特徴、債券の利回り計算、債券のリスクと格付け～定期試験【対面授業】
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献資料を図書館およびweb検索で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内で指定した課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：2時間)
授業方法	＜遠隔指定授業＞ ＜BYOD対象科目＞ ＜PBL:各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。PCを使いながら、その練習問題に個人ワークあるいは グループワークによって答えること。＞
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第10～15回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～9回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：講義内容に基づいた練習問題と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物によって内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・学校感染症、公共交通機関の運休・遅延といったやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限って考慮の対象とする。 ・遠隔授業のときには、課題に取り組むことができるように、必ずPCを通じてZoomミーティングに参加すること。課題に取り組むことができない機器でZoomミーティングに参加した場合には、欠席扱いとする。 ・Zoomミーティング参加時には「ミュート」にし、「録画の停止」にしないこと。いかなる理由であれ、「録画の停止」にしている場合には、欠席扱いとする。 ・Zoomミーティング参加時に担当教員からの質問に3回連続して無回答であった場合には、欠席扱いとする。
教科書	特に使用しない。

参考書	授業中に適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活行動論						
担当教員	鳥居　さくら					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U01040
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	日常生活における人の行動の心理学的考察
授業の概要	日常生活のさまざまな場面における人間の行動とその心理メカニズムについて理解することを目的とする。知覚心理学、認知心理学、社会心理学、人間工学といった心理学と心理学関連領域の基礎的な概念を学ぶとともに、衣、食、住、ストレスや対人関係などの日常の生活行動を取り上げ、具体的な事例をとおしてそれらの心理的な意味やメカニズムを考える。この講義をとおして人間の感覚と行動の関係について考える力を養うことが期待できる。
到達目標	１．実生活に関わる心理学の考え方、研究を説明できる。[知識・理解] ２．図表からわかることを文章で表現できる。[汎用的技能] ３．行動と科学の結びつきを自分の体験に照らし合わせて表現できる。[知識・理解][態度・志向性]
授業計画	1.オリエンテーション　【対面】[PC必携] 2.感覚の心理学的意味　【対面】[PC必携] 3.行動と感情　【対面】[PC必携] 4.集団　【対面】[PC必携] 5.人格　【遠隔】[PC必携] 6.知覚－視覚－　【遠隔】[PC必携] 7.対人魅力　【遠隔】[PC必携] 8.発達　【遠隔】[PC必携] 9.記憶　【遠隔】[PC必携] 10.認知　【遠隔】[PC必携] 11.感情　【遠隔】[PC必携] 12.知覚－触覚－　【遠隔】[PC必携] 13.対人関係　【遠隔】[PC必携] 14.心理学の生活への応用　【対面】[PC必携] 15.まとめ　【対面】 ＊授業回により、【遠隔】が【対面】に変更になる場合があります。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：授業で指定された課題を松蔭manabaに投稿する（学習時間：2<時間>）
授業方法	主に講義形式でおこなう。あるテーマについてグループでディスカッションしたものを発表し、それについての解説を行う回もある。 manabaを利用し小テストやアンケートなどをおこなう授業回もある。 <遠隔指定授業>　<BYOD対象科目>
評価基準と評価方法	小レポート(40%)：授業のなかで随時おこなう。到達目標３に関する到達度の確認。 試験(60%)：授業で解説した内容について説明できるか、図表から読み取ったことを表現し、自分の考えを展開できるかについて評価する。到達目標１と２に関する到達度の確認。
履修上の注意	3分の2以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。
教科書	なし。適宜、プリントを配布する。
参考書	「視覚世界の謎に迫る―脳と視覚の実験心理学」　ブルーバックス　ISBN：978-4062575010 「美人は得をするか　「顔」学入門」　集英社新書　ISBN: 978-4087205589 「皮膚感覚と人間のこころ」　新潮社　ISBN：978-4-10-603722-1 「自分の価値を最大にするハーバードの心理学講義」　大和書房　ISBN: 978-4479795315

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活社会論						
担当教員	稲見　直子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U11230
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	日常の＜当たり前＞を問い直す。
授業の概要	この授業では日常生活を題材に、データや映像を用いて社会事象を読み解く力を身に付ける。
到達目標	(1) 社会学の基礎的な理論や概念を修得できる。【知識・理解】 (2) データや映像に基づいて社会を読み解くことができる。【汎用的技能】 (3) 社会学的なものの見方や考え方に基づいて自分の考えを論理的に述べることができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回　近代化と社会(1) 第2回　近代化と社会(2) 第3回　学校に校則があるのはなぜ？ 第4回　規律と権力 第5回　恋愛のゴールは結婚？ 第6回　異性愛だけが普通？ 第7回　大学に進学するのはなぜ？ 第8回　就職システムの意図せざる結果 第9回　「働かざる者食うべからず」？ 第10回　雇用の不安定化と家族 第11回　食卓の風景はいつでもどこでも同じ？ 第12回　農業の工業化と市民運動 第13回　ファストファッションはなぜ安い？ 第14回　グローバル化と消費社会 第15回　振り返りと期末テスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：身の回りにあるルールや常識を書き出してそれらへの違和感について考える。＜2時間＞ 授業後学習：授業で習った専門用語等を整理し、日常生活における様々な事象にあてはめて考え理解する。＜2時間＞
授業方法	基本的に講義形式をとるが、授業内ではワークシートの記入やグループディスカッションなども積極的に取り入れ、学生の主体的な参加を促す。
評価基準と評価方法	・授業参加度（40%）：授業に主体的に取り組んでいるか、ワークシートにおいて分析的に書けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・小レポート（20%）：分析的かつ論理的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(2)(3)の確認。 ・期末テスト（40%）：授業で扱った専門用語の理解やデータの読み解きができているかを確認する。到達目標(1)(2)(3)に基づいて評価する。
履修上の注意	出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 授業中のスマホ操作・私語・居眠り禁止。注意しても改善されない場合は減点対象とする。
教科書	授業内容に応じて、適宜レジメと資料を配布する。
参考書	景山佳代子・白石真生編,2020,『自分でするDIY社会学』法律文化社.

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U22050
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	家庭生活に関わる情報の意義や役割、モラルを理解させ情報処理に関する知識と技術を習得させるとともに、家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェアーを主体的に活用する能力と態度を育てる。
授業の概要	この授業では、コンピュータソフトとしてWord 、Excel 、PowerPointなどを用いたプレゼンテーション資料作成などの基本的な情報処理技術の修得を目指す。また、家庭生活における文書作成や家計に関わるグラフ、表作成の基礎を学び、これらの技術を活用し、自身の関心分野について、データを収集、加工することに取り組む。そして、これらを通して、社会問題に対する意識を高めるとともに、疑問を解決するための糸口を見つけ出す力や、生活設計をする力を養うことを目的とする。
到達目標	①家庭生活に関わる、情報通信技術の基礎知識と各種ソフトウェアーの知識と技能を習得する。【知識・理解】【汎用的技能】 ②Word,Excel,PowerPointを活用しながら、企画書作成、データの分析、加工、これらを基にプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる。生活を取り巻く環境を実験や社会調査の手法で、情報ツールを用いて学際的に分析し、地域社会が直面している課題の解決方法を社会へ提案できる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回　家庭生活における情報化の進展（講義）ブロードバンド通信、モバイル通信、ＩＰアドレス、タブレット端末、スマートフォン、電子書籍リーダー、マルチメディアの現状と将来 第 2回　情報モラルとセキュリティー（講義） 第 3回　情報通信ネットワーク（課題の設定と情報収集）（講義）電子メール、ＳＮＳ、Web情報検索、Webにおける情報発信、データベース、教具としてのソフトウェアー 第 4回　文章作成演習－生活産業に関わるビジネス文章作成（演習） 第 5回　文章作成演習－ヒューマンビジネスに関わる生活産業の企画書作成（演習） 第 6回　表計算ソフトの操作①－基礎操作（講義と演習） 第 7回　表計算ソフトの操作②－データ入力（演習） 第 8回　表計算ソフトの操作③－グラフ作成（演習） 第 9回　表計算ソフトの操作④－データ分析（演習） 第10回　表計算ソフトの操作⑤－データ分析（演習） 第11回　プレゼンテーションの基礎（講義と演習） 第12回　プレゼンテーション課題の作成（演習） 第13回　プレゼンテーション課題の実演① 第14回　プレゼンテーション課題の実演② 第15回　家庭生活における情報及び情報活用の意義と倫理的な見方や考え方
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次回の内容について予習し、担当教員の指定した課題とそのキーワードについて調べる。＜2時間＞ 授業後学習：授業内で学習した内容について、繰り返し復習する。次の回までに復習をして課題を作成して松蔭manabaコンテンツに投稿する。＜2時間＞
授業方法	実習：PCを活用した実習形式である。操作に不安を抱える場合には個別対応を図る。「分からないことはその場で解決」を心がけ、授業外学修を活用し各自のPC習熟度を高めることも目指す。一部、グループワークやディスカッションを行う場合がある。
評価基準と評価方法	講義中の課題提出：各授業で学んだ内容を理解しているか、専門用語は適切に用いられているか、PC操作は正確に行われているかなど＜70%＞ →目標①・②に対応 プレゼンテーションの課題と実演：授業で示した評価基準に基づいた内容の整理が行われているか、聴衆に分かりやすく示そうとしているかなど＜30%＞ →目標②に対応
履修上の注意	学生の経験等によっては、既習事項や習得技術が異なるため、第１回目にスキル調査を実施する。その結果によっては、授業計画を若干変更することがある。
教科書	教科書は使用しない。レジュメなどを配布する。
参考書	授業内で適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活設計論						
担当教員	甲斐　美帆					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72010
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	多様なライフスタイルの中でライフデザインの重要性を理解するとともに、その実践手法であるライフプランニングを行う力を身に付ける。
授業の概要	多様なライフスタイルの中で自立した個人の確立の必要性を認識し、ライフデザインを行う力を身に付ける。生活課題を探求し、他者との共生や社会の一員として自らの在り方を把握することを目指す。現代社会の抱える問題として夫婦関係に伴うジェンダーの問題、少子化社会における子育ての問題、企業と消費者の情報格差から生じる問題、若者の貧困とキャリアデザインといった生活問題を解決する力を養う。
到達目標	(1)「多様なライフスタイルの中でライフデザインの重要性を理解するとともに、ライフデザインを数値化した手法であるライフプランニングを身に付けることができる」【知識・理解】 (2)「資金計画、社会保険制度、年金制度を理解し、その具体的説明ができる」【汎用的技能】 (3)「マネープランニングによって近未来および未来の生活をシミュレーションすることができる」【態度・志向性】
授業計画	第1回　ガイダンス～パーソナルファイナンスの意義と基本的特徴〔PC必携〕 第2回　ライフプランニングの手法：ライフプランニングの手法、ライフプランニングを行う際に利用するツール、ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート〔PC必携〕 第3回　ライフプランニングの実践：ライフイベント表と個人バランスシートの作成〔PC必携〕 第4回　資金計画と6つの係数：終価係数、現価係数、年金終価係数、減債基金係数、資本回収係数、年金現価係数 第5回 教育資金計画：こども保険(学資保険)、教育ローン、奨学金制度〔PC必携〕 第6回　住宅資金計画：住宅ローンの金利、住宅ローンの返済方法、住宅ローンの種類、住宅ローンの繰上げ返済〔PC必携〕 第7回　社会保険①：社会保険の種類、公的医療保険の基本、健康保険(健保)、国民健康保険(国保)、後期高齢医療制度、公的介護保険 第8回　社会保険②：労働者災害補償保険(労災保険)、雇用保険 第9回　リタイアメントプランニングの基本：リタイアメントプランニングと老後生活資金、年金以外の老後収入 第10回　第4～9回のまとめと中間試験〔PC必携〕 第11回　公的年金の全体像：公的年金制度の全体像、国民年金・厚生年金の全体像、 第12回　公的年金の給付①：老齢基礎年金、老齢厚生年金、公的年金の給付手続き 第13回　公的年金の給付②：障害給付、遺族給付、併給調整、公的年金にかかる税金、 第14回　企業年金等：企業年金、自営業者等のための年金制度 第15回　第11～14回のまとめと定期試験〔PC必携〕
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献資料を図書館およびweb検索で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内で指定した課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：2時間)
授業方法	PBL：各回設定のテーマについて講義し、理解を深めるために、PCを使っての事例研究、ディスカッションや発表も取り入れる。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第11～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第4～9回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：講義内容に基づいた練習問題と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物によって内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・学校感染症、公共交通機関の運休・遅延といったやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限って考慮の対象とする。
教科書	特に使用しない。
参考書	授業中に適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活統計学						
担当教員	待田　昌二					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U21070
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的とする。
授業の概要	統計的データを集計・分析するために必要な、基礎的な統計学的知識を修得することを目的としている。授業は変数と尺度、データの分布の概説からはじめ、基本統計量の算出方法、統計的検定の基本的な考え方、さまざまな検定と推定に関する理論と技法、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均の検定、独立性の検定、クロス表分析、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながら分かりやすい解説を心がける。
到達目標	(1)　実験や調査で得られたデータについて平均・分散・標準偏差などの基本的な統計量の計算ができる。【汎用的技能】 (2)　母集団と標本、標本抽出分布と生起確率などの統計的検定の考え方を理解し、データ分析に利用できる。【汎用的技能】
授業計画	全ての授業回で［PC必携］ 第1回　実験・調査とデータ 第2回　変数と尺度 第3回　度数分布とヒストグラム 第4回　代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第5回　散布度：範囲・四分領域・分散・標準偏差 第6回　正規分布と相対的位置の測度 第7回　直線相関と直線回帰 第8回　母集団と標本 第9回　統計的検定：基本的な考え方 第10回　統計的検定：用語の理解 第11回　平均値の区間推定 第12回　二つの平均値の差の検定 第13回　カイ2乗検定 第14回　ノンパラメトリック検定 第15回　まとめと達成度確認試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：　松蔭manabaで授業前に示す課題を行う（学習時間＜１時間＞） 授業後学習：　松蔭manabaで授業後に示す課題を行うとともに授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間＜３時間＞）
授業方法	主に講義形式だが、コンピュータ操作による演習・実習を取り入れて実施する。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	授業に関する課題 60%：毎回の授業で課す課題（事前課題、授業中の課題、事後課題）の評価。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 達成度確認試験 40%：授業で解説した重要事項についての知識、基本統計量の算出及び統計的検討などのPCでの実施について評価。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。
履修上の注意	スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。
教科書	なし。適宜、プリントを配布する。
参考書	「心理・教育のための統計法 第３版」サイエンス社　ISBN：978-4-7819-1235-6

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活と法						
担当教員	呉本　和香奈					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U12070
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	法は遠くにあるものではない。私たちの日常生活を規律する法を見て、法の考え方を学ぶ。
授業の概要	生活には多様な側面がある。この授業では【都市生活と法】【家族生活と法】【災害と法】という三つの領域に着目して、法は遠くにあるものではなく、私たちの日常生活と密接な関連があることを説明する。日本法との比較のために、韓国法の内容も一部紹介する。
到達目標	【都市生活と法】【家族生活と法】【災害と法】のそれぞれの領域で法がどのように機能するかを知るために基本的な知識を学ぶ。e-gov法令検索(https://elaws.e-gov.go.jp/)を通じてその法的根拠を探すことができる。 都市生活、家族生活、災害を法がどのように規律するのかを理解することで、自分の生活、ひいては地域生活の質の向上できる方策を考えてみる。
授業計画	第１回　イントロダクション、講義の進め方、アンケートの実施 【都市生活と法】 第２回　住まいと法1　住宅購入と法 第３回　住まいと法2　住宅賃借と法 第４回　都市計画と法1　都市施設と都市計画事業 第５回　都市計画と法2　区域区分制度・市街地再開発 第６回　アルバイトと法 【家族生活と法】 第７回　婚姻と法 第８回　離婚と法 第９回　子育てと法１ 第１０回　子育てと法２ 【災害と法】 第１１回　阪神・淡路大震災と被災者支援１ 第１２回　阪神・淡路大震災と被災者支援２ 第１３回　大川小学校津波被災事件と国家賠償法 第１４回　韓国の法律上の「災難」概念の形成と2014年セウォル号惨事 第１５回　COVID-19は災害か？
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・予習　毎回の授業で扱う生活領域について、自分の日常生活とどのような関係があるかを考えてみる。法律用語や法的表現は日常生活の言語と若干の違いがあるため、レジュメを読んで慣れることを目指す（2時間）。 ・復習　レジュメを見直しながら授業の内容を復習する（2時間）。小テストに解答する。
授業方法	いくつかの方法を組み合わせる。 ・講義形式 ・ディスカッション形式　講義内容と関連して3人が一組になってディスカッションをする。授業時間ではチームとしての討論の結果(賛否、その根拠)のみを manaba を通じて提出し、ディスカッション・ペーパーは個人別に提出する。
評価基準と評価方法	・小テスト（8回ｘ5%） ・ディスカッション・ペーパー（5回ｘ8%） ・レポート提出　（1回ｘ20%）
履修上の注意	小テストとディスカッション・ペーパーの締切日は厳守すること。
教科書	なし、レジュメを配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活の科学基礎I						
担当教員	古濱　裕樹					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U01020
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	大学での今後の学び、および生活や仕事で役立てるための、受験勉強とは異なる化学や生物学を知る。
授業の概要	生活の科学基礎Ⅰは、生活科学を学ぶための入門として生物学、化学の基礎的知識を身につけることを目的とする。複雑、多様化した現代社会におけるモノと人との関わりを中心とした生活の現状を理解し、問題を見出し、解決するための基礎的な知識、技術、態度を養う。人が健康で質の高い生活をするにはどのような自然科学の知識が必要か生活を取り巻く自然環境にも目をむけ、生活の衛生、モノの機能などの科学的な研究ができる力を養う。
到達目標	（1）衣食住の事象やヒトの振る舞いを科学的な視点で理解することができる。【知識・理解】 （2）科学的視点によって、モノの改良・改善や効率的な利用方法の提言、あるいはより良い社会システムの提案を行うことができる。【態度・志向性】 （3）化学と生物学が生活に役立てられることを理解する。【汎用的技能】
授業計画	第1回　化学や生物学をなぜ学ぶのか （以下、各項目の前半が化学分野、後半が生物分野の内容である。） 第2回　物質をミクロの視点で捉える（原子，分子）、消化器系Ⅰ 第3回　元素とイオン（塩）、消化器系Ⅱ 第4回　酸・塩基、泌尿器系Ⅰ 第5回　酸化・還元、泌尿器系Ⅱ 第6回　無機化合物　Ⅰ（典型金属元素）、呼吸器系 第7回　無機化合物　Ⅱ（遷移金属元素）、循環器系 第8回　無機化合物　Ⅲ（非金属）、外皮系 第9回　化学結合と化学反応、運動器系 第10回　物質量「モル」（モルを使う意味と計算）、感覚器系 第11回　有機化合物 Ⅰ（脂質，アミノ酸，糖）、神経系・感覚器系 第12回　有機化合物 Ⅱ（合成低分子化合物）、内分泌系 第13回　有機化合物 Ⅲ（天然物科学）、免疫系 第14回　有機化合物 Ⅳ（合成高分子化合物）、体と心の形成 第15回　総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学修：授業内で講義した内容について、教科書および適切な文献を閲覧し、正しい情報や考えたことを、自らの言葉で文章にまとめ、提出する。＜4時間（化学分野、生物分野でそれぞれ2時間）＞
授業方法	講義 松蔭manabaコースコンテンツの課題は、受講生同士が閲覧しあえる形式にすることで、受講生同士の相互作用によって、刺激を受け合い、学びを深め、視野を広げることに繋げる。
評価基準と評価方法	毎回の提出課題 100%（内訳：毎回課す松蔭manabaコンテンツの課題、化学分野50%、生物分野50%。到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。） 課題に対するフィードバックの方法 すべての課題は10点満点で採点し、次回授業時に得点を松蔭manabaを通して通知する。その際、誤答の指摘や質問の回答についても個人宛の文章によって行う。
履修上の注意	松蔭manabaコースコンテンツの課題は授業でのコメントをもとに授業時間外に学修して作成するが、その際の参考文献として信頼性の高い情報元であればインターネットのサイトも使用してよい。ただし、文章で回答する課題ではサイトの表現をそのまま使うのではなく、自身の頭で解釈して、必ずオリジナルの文章にすること。また、参考にしたサイト等の文献は、必ず注釈に書いておくこと。これらが守られていない場合、課題の評価点は低いものになる。生成系AI（ChatGPTなど）の回答をあからさまに活用したことが疑われる場合は減点する。
教科書	フォトサイエンス化学図録、数研出版編集部、2022、ISBN:978-4-410-27317-9 眠れなくなるほど面白い 図解 解剖学の話、坂井建雄、日本文芸社、2021、ISBN:978-4537218848
参考書	

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活の科学基礎II						
担当教員	青谷・稲見・奥井・川口・鳥居花田					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U01030
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	社会生活の中で生活者はどのように行動し、どのような役割を果たしているのか。より豊かな社会生活を営んでいくために必要となる基礎知識と現実問題について学ぶ。
授業の概要	生活・社会科学の視点から現代社会の実態や諸課題を明らかにするとともに、いかにしてこれらを生活の豊かさや、生活の質の向上に結びつけるかについて考える。さらに、理論と実践の両側面からの学びを通じて、生活上の諸問題の解決策を探究する力を養う。
到達目標	(1)人間生活を生活・社会科学の枠組みで捉え、基礎的な知識を理解することができる【知識・理解】 (2)社会の中でより豊かに生活を営むための手立てについて考えることができる【汎用的技能】 (3)人間生活における諸課題について、生活・社会科学の枠組みで捉え、それらの解決を主体的に探究しようとしている【態度・志向性】
授業計画	第１回　ガイダンス：生活・社会科学とは　【奥井】〔PC必携〕 第２回　生活・社会科学の理論①：生活環境入門【花田】 第３回　生活・社会科学の実践①：生活環境入門【花田】〔PC必携〕 第４回　生活・社会科学の理論②：食生活入門【川口】 第５回　生活・社会科学の実践②：食生活入門【川口】〔PC必携〕 第６回　生活・社会科学の理論③：地域・観光入門【青谷】〔PC必携〕 第７回　生活・社会科学の実践③：地域・観光入門【青谷】〔PC必携〕 第８回　生活・社会科学の理論④-1：生活心理入門【鳥居】〔PC必携〕 第９回　生活・社会科学の実践④-1：生活心理入門【鳥居】〔PC必携〕 第10回　生活・社会科学の理論④-2：社会生活入門【稲見】 第11回　生活・社会科学の実践④-2：社会生活入門【稲見】〔PC必携〕 第12回　生活・社会科学の理論⑤：生活経営入門【奥井】 第13回　生活・社会科学の実践⑤：生活経営入門【奥井】〔PC必携〕 第14回　人間生活を総合的に捉える視点【奥井】〔PC必携〕 第15回　講義の総括と終講課題【奥井】〔PC必携〕
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献を図書館およびwebで見つけて、読み込むこと＜学習時間：2時間＞ 授業後学習：授業内で指定した課題についてレポートを作成し、各担当者が指定する方法（主に松蔭manaba）で提出すること＜学習時間：2時間＞
授業方法	講義：都市生活学科の諸領域について、各専門分野の教員が入門的な学びを理論と実践の両側面から提供する。学習活動は一斉授業をベースに、部分的にペア・グループワーク、ディスカッション、ゲーム、ロールプレイなどを取り入れる。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・各担当者が課すミニレポート(90%)：第２～13回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。 ・平常点および終講課題(10%)：第１、14、15回の取り組み状況によって到達目標(1)の達成度を確認する。
履修上の注意	・出席が授業全体の2/3以上であること ・原則として、学校感染症や公共交通機関の遅延・運休といったやむをえない事情により遅刻・欠席した時、各種証明の提出があった場合に限り考慮の対象とする ・本科目は複数の教員が担当するオムニバス形式の授業であることから、授業について不明な点や質問があった場合には担当者に直接伝えること ・休補講時の対応については各担当教員の指示に従うこと
教科書	必要に応じて資料を配付する
参考書	必要に応じて紹介する

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活福祉論						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U12170
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	生活福祉と社会生活における様々な事象との関わりから、生活福祉の意義や役割について学ぶ。
授業の概要	価値観が多様化する現代社会においては、一人ひとりが尊厳をもって自分らしいライフスタイルを維持し人間らしい質の高い生活を実現していくことが目指されている。このような中で、生活上の困難や問題が生じたときには、解決していくための援助や支援が社会のシステムとして必要になる。そこで、本講義では、さまざまなライフスタイルを持った個人と家族にとって、ライフコースのそれぞれの時点での支援を考え、生活福祉の観点から課題解決に必要とされる知識および方法・技能を総合的に学ぶ。
到達目標	(1) 現代の生活福祉における諸問題を理解し、その概要を説明することができる【知識・理解】 (2) それらの諸問題に対して、専門用語を用いながら自らの考えや解決策を述べることができる【汎用的技能、態度・志向性】
授業計画	第１回　ガイダンス（講義形態の確認と生活福祉を「学ぶ」意義） 第２回　生活福祉の定義をもとめて 第３回　健康な生活習慣と生活福祉 第４回　生活福祉を支えるコミュニケーション 第５回　コミュニケーションの限界 第６回　公共と生活福祉 第７回　集団心理と生活福祉 第８回　ストレスと生活福祉　※ゲストスピーカーによる講義 第９回　社会保障と生活福祉 第10回　援助行動と生活福祉 第11回　人間の尊厳を考える 第12回　メディアと生活福祉 第13回　いのちと生活福祉 第14回　自らの生活福祉を展望する 第15回　終講課題と質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：各テーマについて関連する書籍・新聞記事などを基に自分の考えを整理しておく。＜2時間＞ 授業後：専門用語については、レポートで理解度を問うので必ず復習を行うこと。各テーマについて発展的な学習を行うことが望ましい。＜2時間＞
授業方法	講義：松蔭manabaを積極的に活用する（資料公開、レポート提出など）。 本講義はアクティブラーニング（グループワーク、ペアワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。
評価基準と評価方法	・終講課題(40%) →到達目標(1)および(2)に対応 ・授業ワークシートの記入状況や受講態度などの平常点(60%) →到達目標(2)に対応
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
参考書	必要に応じて講義内で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活リスクマネジメント論						
担当教員	甲斐　美帆					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73080
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	現代社会におけるリスクに生活者として対応するために、リスクマネジメントの体系的知識とその能力を育成する。
授業の概要	生活リスクマネジメントについて、現代社会におけるリスクを分類し、その知識の提供とマネジメント能力の育成を行うことを目的とする。日常生活におけるリスク、自然災害に対する防災・減災(女性の視点からの)、消費者被害に対する製品安全(事故や被害実態に対する製品安全への生活者の対処)など、生活者が能動的にリスク対応するために、リスクファイナンスの観点から主に保険制度について認識し、問題解決の手法を学ぶ。
到達目標	(1)「現在社会にはどのようなリスクが存在し、それぞれのリスクにどのように対応するかということを理解できる」【知識・理解】 (2)「リスクマネジメントの体系的な知識を習得し、その具体的説明ができる」【汎用的技能】 (3)「生活者の立場から近未来および未来にどのようなリスクマネジメンが必要になるかということを認識できる」【態度・志向性】
授業計画	第1回　ガイダンス～生活とリスク〔PC必携〕 第2回　現代社会におけるリスクマネジメント：リスクの分類、リスク対策の手法 第3回　保険の基本：保険制度、契約者等の保護、保険法と保険業法 第4回　生命保険の基本と商品①；生命保険の仕組み、保険料の仕組み、配当金の仕組み、必要保険額の計算、死亡保障タイプの保険、生死混合タイプの保険 第5回　生命保険の基本と商品②：生存保障タイプの保険、変額保険、主な特約、かんぽ生命、共済の保険商品、その他の保険 第6回　生命保険契約：生命保険契約、保険料の払込み、保険契約の見直し等 第7回　生命保険契約と個人年金保険(演習)〔PC必携〕 第8回　個人の生命保険と税金：生命保険料を支払ったときの税金、生命保険料控除額、年金保険料控除が受けられる保険契約、保険金等を受け取ったときの税金、年金保険契約に関する権利評価 第9回　法人におけるリスクマネジメント：リスクの分析、法人契約の生命保険と税金〔PC必携〕 第10回　第1～9回のまとめと中間試験〔PC必携〕 第11回　近未来におけるリスクマネジメント：リスクの分析、問題解決の手法〔PC必携〕 第12回　損害保険の基本と商品：損害保険の仕組み、火災保険、地震保険、自動車保険、傷害保険、賠償責任保険、その他の損害保険 第13回　損害保険と税金：個人の損害保険と税金、法人契約の損害保険と税金 第14回　第三分野の保険：第三分野の保険、医療保険、がん保険、生前給付型保険〔PC必携〕 第15回　第12～14回のまとめと期末試験〔PC必携〕
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献資料を図書館およびweb検索で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内で指定した課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：2時間)
授業方法	PBL:各回設定のテーマについて講義し、理解を深めるため、PCを使っての事例研究やディスカッション、発表も取り入れる。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第12～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～9回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：講義内容に基づいた練習問題と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物によって内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・学校感染症、公共交通機関の運休・遅延といったやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限って考慮の対象とする。
教科書	特に使用しない。
参考書	授業中に適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	組織論						
担当教員	青谷　実知代・平岡　直也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72550
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	世の中には非常に多種多様な組織が存在する。私企業の組織に対して「公的組織」という研究領域もある。ただ、組織のモデルとして主張される組織のタイプはいくつか集約されている。組織における人間観では、代表的な組織理論として「伝統的組織論」「近代的組織論」の３つを中心に取り上げ、組織論と言われる分野においてはどのような理論が構築されているのか理解する。
授業の概要	経営学の組織論の学説史を踏まえながら、現代の経営組織の基礎概念・理論を実践面・実践的な事柄と結びつけながら理解する。
到達目標	・経営組織論の基礎概念・理論を実際の企業組織と関係づけながら知識として身につける【知識・理解】 ・身近な組織における諸現象について、学習した知識を応用して理解・解釈することができるようになること【知識・理解】
授業計画	オムニバス科目（青谷実知代：8回担当、平岡直也：7回担当） 第1回　経営学における経営組織論の位置付け 第2回　伝統的管理論（経済人モデル） 第3回　科学的管理法 第4回　人間関係論（社会人モデル）【PC必携】 第5回　近代組織論（自己実現モデル）【PC必携】 第6回　世の中いはどのような組織があるのか（株式会社、NPO,公法人、財団など）：オムニバス（平岡先生） 第7回　会社の経営とは（企業経営入門）：オムニバス（平岡先生）【PC必携】 第8回　会社はどのように世の中の役になっているのか：オムニバス（平岡先生）【PC必携】 第9回　人の働く組織はどのように作るのか（組織設計）：オムニバス（平岡先生）【PC必携】 第10回　会社はどのような方針で動いているのか（経営理念と戦略）：オムニバス（平岡先生）【PC必携】 第11回　会社は誰が動かしているのか（コーポレート・ガバナンス）：オムニバス（平岡先生）【PC必携】 第12回　会社は仕事をどんな仕組みで動いているのか（組織形態）：オムニバス（平岡先生）【PC必携】 第13回　社員は仕事をどのように分担しているのか（組織構造と職務設計）【PC必携】 第14回　会社は他の会社とどのように協力しているのか（組織間関係）【PC必携】 第15回　経営組織論の総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	企業の組織に関わる新聞などの情報について、感覚を磨くこと。 受講者各自の一般の紙媒体の情報をもとにしたトピックスの発表を予定している（各自の学習時間：毎週4時間の授業外学習）。終盤の授業では、小テストを実施するので（おさらいの学習時間：毎週4時間の授業外学習）
授業方法	講義形式〈BYOD対象科目〉 ・講義を基本とするが受講生との対話形式も取り入れる。（授業で見解を求めることもあるため、積極的な発言を期待したい） ・グループワークをすることもある。
評価基準と評価方法	出席と毎回の授業での記入するシート（40%） 小テスト（60%） より総合的に評価する。
履修上の注意	講義全体の２分の３の出席が確保できない場合は受講資格を失う。 ２０分以上の遅刻は欠席と判定。 受講マナー（私語など）も評価に加味する。
教科書	授業ごとに資料を配布する
参考書	随時紹介する

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	青谷　実知代					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U04090
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	マーケティングや流通、消費者行動など経営に関する専門的知識から、興味のある課題、今の時代に求められる課題ほか様々な課題を見つけ、発想を豊かにして深く追求し、自ら論文を作成すること。
授業の概要	企業のマーケティング・マネジメントやブランド戦略、流通のしくみ、消費者のブランドイメージ、消費行動といった分野でテーマを見つけ（問題意識をもつこと）、自ら主体的に問題設定を行い、解決する糸口が見つけられるよう、1つ1つ丁寧に取り組むことを目的とする。 色々な事柄のなかから自分の興味・関心のあることから卒業研究のテーマを絞り、その後卒業論文としての構成をどのように立てるのか具体的に考えていく（テーマを絞り込む）。既にそのテーマでされている先行研究の検索、問題意識の明確化、テーマ設定の決定、調査方法論の決定、調査実施、データのまとめ、プレゼンテーションという流れを通して、卒業論文の完成を目指す。 この過程では、好奇心旺盛に取り組みながら見聞を広め、主体性・協調性も共に大切になることも学ぶ。
到達目標	①日頃から関心のあるテーマを自分で見つけ、関心を高めることができる（知識・理解） ②問題点を見つけ出し調査（定量的・定性的）を進めながら、分析に基づいた考え方をまとめることができる。（汎用的技能） ③課題を批判的に捉え、論文を作成することができる。（態度・志向性）
授業計画	第１回. 卒業研究とは何か。研究課題の探し方 第２回. 関心ある分野の領域課題 第３回. 研究倫理観とテーマ設定（原則） 第４回. 研究計画の立て方（論文構成と章構成）【PC必携】 第５回. 資料探しと文献検索の方法①　【PC必携】 第６回. 資料探しと文献検索の方法②　【PC必携】 第７回. 論文の書き方　【PC必携】 第８回. 研究計画の発表①　【PC必携】 第９回. 研究計画の発表②　【PC必携】 第10回. 研究計画の発表③　【PC必携】 第11回. 研究計画の発表④　【PC必携】 第12回. テーマ決定後の進め方　【PC必携】 第13回. 情報収集と先行研究のまとめ　【PC必携】 第14回. 中間発表①　【PC必携】 第15回. 中間発表②　【PC必携】 第16回. 調査方法論の中間発表①（アンケート調査）【PC必携】 第17回. 調査方法論の中間発表②（インタビュー調査）【PC必携】 第18回. 調査方法論の中間発表③（フィールド調査）【PC必携】 第19回. 調査方法論の中間発表④（歴史資料調査）【PC必携】 第20回. 文献収集・先行研究批判　【PC必携】 第21回. 文献収集とノート作り【PC必携】 第22回. 論文執筆（章立ての確認）【PC必携】 第23回. 引用文献、参考文献、図表などの資料添付の方法【PC必携】 第24回. 研究論文の発表①　【PC必携】 第25回. 研究論文の発表②　【PC必携】 第26回. 研究論文の発表③　【PC必携】 第27回. 研究結果と考察①　【PC必携】 第28回. 研究結果と考察②　【PC必携】 第29回. 卒論発表の仕方　【PC必携】 第30回. 最終チェックとプレゼンテーションの準備　【PC必携】
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】興味・関心のあるテーマ、また課題について追及しておくこと（2時間） 【授業後】ゼミでの議論を通し、改めて課題について考えを深めておくこと（2時間）
授業方法	演習科目（BYOD対象科目） ・課題解決型学修 ・ディベート ・プレゼンテーション ・フィールドワーク等を取り入れる。
評価基準と評価方法	・プレゼンテーションや発表準備（20%） ・論文作成過程における中間評価（分析方法等も含む）（20%） ・卒業論文の内容（60%） など総合的に評価する。
履修上の注意	①何事にも好奇心旺盛に取り組む ②資料やデータ収集のために学外実習を行うこともある。入場料や交通費等は実費負担である。 ③無断欠席は厳しく対処する（積極的な参加姿勢が大事である）。 欠席する場合は、事前・事後に必ず報告する。

教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考書	各自のテーマに併せて、参考文献を紹介する

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	稲見　直子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U04090
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	これまで学んだきた専門知識を踏まえ、卒業論文を執筆する。
授業の概要	この授業では各自が問題関心を持ったテーマに基づいて卒業研究を計画・実施し、卒業論文としてまとめる。
到達目標	(1) 卒業研究に必要な文献・資料を収集しまとめることができる。【知識・理解】 (2) 問題関心に基づいて「問い」を立て、オリジナルな知見を導き出すことができる。【汎用的技能】 (3) これまでの専門知識を踏まえ、分析的かつ論理的に卒業論文を執筆することができる。【汎用的技能】 (4) 自分の研究に主体的に取り組むだけでなく、他者の研究にも関心をもち助言することができる【態度・志向性】
授業計画	第1回　卒業研究とは何か／研究倫理について 第2回　研究テーマの報告 第3回　先行研究を調べる 第4回　先行研究をまとめる(1) 第5回　先行研究をまとめる(2) 第6回　先行研究をまとめる(3) 第7回　「問い」を立てる 第8回　研究計画の作成 第9回　研究計画の報告 第10回　調査の準備(1)調査企画 第11回　調査の準備(2)調査内容確認 第12回　調査の準備(3)調査内容確認 第13回　実査 第14回　データ整理(1) 第15回　データ整理(2) 第16回　調査データ分析の報告 第17回　考察(1) 第18回　考察(2) 第19回　考察(3) 第20回　考察(4) 第21回　個別相談 第22回　草稿提出 第23回　草稿修正(1) 第24回　草稿修正(2) 第25回　草稿修正(3) 第26回　草稿修正(4) 第27回　個別相談 第28回　卒論要旨の執筆 第29回　研究成果報告の準備 第30回　研究成果報告
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：研究テーマに関連した文献資料を収集しまとめる。＜2時間＞ 授業後学習：授業内でできなかった研究計画の作成、調査企画・準備、データ整理、分析・考察については授業外に行う。＜2時間＞
授業方法	基本的には各自で卒業研究に取り組むが、適宜個別に相談・指導を行う。
評価基準と評価方法	・授業参加度（10%）：授業に主体的に取り組んでいるかなどを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・各種報告（20%）：中間報告や研究成果報告について、内容や態度に応じて総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・卒業論文（70%）：内容に応じて総合的に評価。到達目標(1)(2)の確認。
履修上の注意	・研究には主体的に取り組むこと。 ・学外調査に伴う交通費などの実費負担がある。
教科書	適宜、プリントを配布する。

参考書	小熊英二,2022,『基礎からわかる論文の書き方』講談社現代新書.

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	川口　真規子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U04090
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	食品学および食を通じた地域の活性化に関する研究テーマを各自で設定し、研究に必要な実験・調理・調査を行い、その成果を卒業論文としてまとめる。
授業の概要	各自で設定したテーマについて個別指導する。 研究の内容によって調査、試作（調理）、実験を行う。
到達目標	1）都市生活演習で得た知識と技術をもとに、卒業研究遂行に必要な実験スキルや調査スキルが活用できる。【汎用的技能】 ２）各自で卒業研究テーマを定め【態度・志向性】、必要な種々の調査、試作、実験ができる【汎用的技能】。 ３）研究テーマを遂行するためのプレゼンテーション技術や論理的な思考ができる。【知識・理解】 ４）成果を卒業論文としてまとめ、発表することができる。【汎用的技能】
授業計画	第１回　ガイダンス・卒業研究における研究倫理 第２回　卒業研究テーマの候補選定 第３回　文献調査１ 第４回　文献調査２ 第５回　研究テーマ最終決定 第６回　研究に必要な手法を探る 第７回　研究計画立案 第８回　各自の研究について　個別指導 第９回　各自の研究について　個別指導 第１０回　各自の研究について　個別指導 第１１回　各自の研究について　個別指導 第１２回　各自の研究について　個別指導 第１３回　各自の研究について　個別指導 第１４回　各自の研究について　中間報告会１ 第１５回　各自の研究について　中間報告会２ 第１６回　後期研究打ち合わせ 第１７回　各自の研究について　個別指導 第１８回　各自の研究について　個別指導 第１９回　各自の研究について　個別指導 第２０回　各自の研究について　個別指導 第２１回　各自の研究について　個別指導 第２２回　各自の研究について　個別指導 第２３回　各自の研究について　個別指導 第２４回　卒論制作指導 第２４回　卒論制作指導 第２５回　卒論報告会　準備 第２６回　卒論報告会　準備 第２７回　卒論報告会　準備 第２８回　卒論報告会　準備 第２９回　卒論報告発表会 第３０回　卒論報告発表会
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：実験・調査などの進捗状況および課題についての報告用資料を準備・作成する （学習時間：1時間） 授業後：個別指導後のまとめを行い、次回実験などに必要な文献等を調べておく 収集した文献、資料などを再度読み、レポートにまとめる （学習時間：2時間）
授業方法	講義、演習、実習、実験
評価基準と評価方法	授業（調査・実験・試作・発表）に対する積極性（20%）：到達目標１）２）の到達度で評価する。 卒業論文（60%）：到達目標３）４）の到達度で評価する。 プレゼンテーション（20%）：中間報告会及び卒論報告会での発表内容、質疑応答の的確さなどで総合的に評価する。到達目標３）４）の到達度の確認。
履修上の注意	研究テーマによっては実験やフィールドワークなど、授業外の時間を使う場合がある。

教科書	なし
参考書	授業時間に適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	江　弘毅					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U04090
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	都市生活、都市文化についての研究論文を書く力をつける。
授業の概要	「都市」すなわち「まち」について自分でテーマを見つけ、研究を進める演習の授業です。 テーマはあなたたち自身が、興味や関心、問題意識を持つことがらを「具体的な問い」として立ててください。 その問いに答えること、すなわちある程度の長さの文章を記述し、図表や写真なども使って、一つの研究論文に仕上げていきます。
到達目標	（１）研究論文を書くためにふさわしいテーマを見つけ、設定することができる。（汎用的技能） （２）テーマに応じた、先行研究の文献などを調べたり、社会調査や取材をしたり、データ収集ができる。（汎用的技能） （３）論文としてリーダブルな文章を書くことができる。（態度・志向性） （４）研究論文を要約してプレゼンテーションすることができる。（態度・志向性）
授業計画	都市生活専攻なので、都市（街・ストリートや店舗）、食（グルメ）、衣（ファッション）など、身近なところからテーマ（自分で立てた問題）を決め、先行研究など必要な文献を読み、現場に出て調査・取材し、論証としてまとめてゆき自分なりの答えを出すことが、この卒業研究の論文を書くプロセスです。 都市を解読することは、都市空間、店舗、デザインや音楽、グルメやファッションといった、表現の変数群がむちゃくちゃに入り組んでいるため、単なる文学作品のように「テキスト（書かれた文章）を読み解く」というようにはいきません。 だからテーマ、すなわち「立てるべき問い」は、できるだけ絞り込むほうがいいです。 そしてそのテーマは、1年間情熱を傾けて取りかかるにふさわしいものを決定してください。 研究論文の文章（書き言葉としての言語運用）は、論理的でリーダブル（誰もが読める文）でなければなりませんが、そのあたりも研究・実践の対象となるので、社会人として世に出たときに役立つような「書くこと」のスキル獲得につながるように留意したいと思います。 第1回　オリエンテーション。研究論文を書くために必要なあれこれ 第2回　文章を書くことのメカニズム 第3回　リーダブルな文章を書くこと、読み直すこと 第4回　論文執筆のルール。主語、文体、用字用語、文献引用などのルール 第5回　文献の引用とくにインターネット情報の扱い、研究倫理教育について 第6回　テーマを考え、設定すること 第7.8.9回　テーマ（各自）の発表とアウトライン作成 第10回　テーマ（各自）の決定 第11回　各自の研究方法について 第12・13・14回　研究論文作成（各自）のプロセス（見通し）発表 第15回　テーマと概要決定 第16・17・18・19回　研究プロセスおよびアウトライン完成 第20回　卒業論文執筆要項とWordのフォーマット 第21・22・23回　論文第1稿（各自）提出 第24回　論文第1稿返却と手直し指示 第25回　論文チェックと校正 第26回　最終訂正指示 第27回　卒業研究発表についての準備 第28回　卒業研究発表についての確認 第29回　卒業研究発表の予行演習 第30回　卒業研究発表
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	基本的に卒業研究論文を完成させるまでの研究、社会調査、取材、インタビュー、アンケート、文章執筆など一切のプロセスは、授業時間と教室以外で行われることになります。 授業ではその指導とチェックのみだと思ってください。具体的な授業外における学習は以下です。 授業で扱う教科書の当該箇所を予習・復習する〈2時間〉。 授業内で指示した、指導とチェックにしたがって復習する〈2時間〉。
授業方法	短期間に一気に仕上げていくのではなく、少しずつ試行錯誤しながら、2024年末（12月）までに、論文として仕上がるように進めていきます。 論文の執筆内容、コンテンツの完成度のみならず、リーダブルな文章の書き方、アウトライン、アジェンダやレジュメの作り方なども指導します。 その都度、原稿を指導するのでPCは必携。
評価基準と評価方法	研究論文完成までのプロセス、態度、取り組みの熱意（50%）、研究論文自体の完成度（50%）

履修上の注意	原則としてすべて回に出席すること。欠席する場合はあらかじめ知らせること。
教科書	『最新版　論文の教室ーレポートから卒論まで』戸田山和久著、NHKブックス、 ISBN:9784140912720 を購入し、読み理解すること。
参考書	『コピペと言われないレポートの書き方教室』山口浩之著、新曜社、ISBN-10 : 4788513455 『伝える伝わる文章表現』新稲法子著、ケイエスティープロダクション　SBN-10 :　4908717087 『質的社会調査の方法 -- 他者の合理性の理解社会学』岸政彦ほか著、有斐閣　ISBN-13: 978-4641150379

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	鳥居　さくら					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U04090
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	心理学的研究に関する卒論の作成
授業の概要	卒業研究では１～３学年で学んだ都市生活に関する専門的知識の中から、学生が関心をもった領域に関する問題をとりあげ、自らがその関心に応じた問題を設定して取り組む。具体的には、先行研究を探索後に残された問題の解決や新しい仮説のための方法を計画、実施し、得られた文献やデータをまとめ、考察する。これらの手続きの最終段階として卒業論文を作成する。この授業で主体的にものごとに取り組み達成していく過程をとおして、何かを解明することに対する喜びと動機づけを獲得することが目的である。
到達目標	1.先行研究を発展させ、自ら心理学の実験・研究計画を立てることができる。[知識・理解][態度・志向性] 2.実験や調査を実行し、データをまとめ、統計的解析ができる。[汎用的技能][態度・志向性] 3.結果にもとづいた考察をおこない、卒業論文としてまとめ、卒論発表会で発表することができる。[知識・理解][汎用的技能][態度・志向性] 4.自分の力で計画を立て、主体的に取り組むことができる。[態度・志向性]
授業計画	1.ガイダンス 2.研究倫理教育 3.実験・調査の準備 4.実験・調査の準備 5.実験・調査の準備 6.実験・調査の準備 7.第１回報告会 8.実験・調査の実施 9.実験・調査の実施 10.実験・調査の実施 11.実験・調査のまとめ 12.実験・調査のまとめ 13.実験・調査のまとめ 14.第２回報告会 15.第２回報告会 16.実験・調査の準備 17.実験・調査の準備 18.実験・調査の準備 19.実験・調査の準備 20.実験・調査の実施 21.実験・調査の実施 22.第３回報告会 23.実験・調査のまとめ 24.実験・調査のまとめ 25.実験・調査のまとめ 26.実験・調査のまとめ 27.実験・調査のまとめ 28.実験・調査のまとめ 29.第４回報告会 30.第４回報告会、講評
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこなう。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：出された議論から、反省点をピックアップし、修正、改善する。（学習時間：2<時間>） 目安時間に関わらず、自分の納得のいくまで取り組む態度が必要である。
授業方法	実習・演習形式でおこなう。報告会の際には進めた箇所までをまとめ発表する。そこでの議論を次のステップに生かして進めていく。
評価基準と評価方法	報告書や卒論(70%)：報告書、卒業論文、卒論要旨、卒論発表会の実行性、論理性、正確性、独創性などについて評価する。到達目標1,2,3に関する到達度の確認。 参加の取り組み(30%)：積極性、計画性、粘り強さなどについて評価する。到達目標1,2,3,4に関する到達度の確認。
履修上の注意	毎回出席することが原則である。都合により欠席する場合は、教員に事前に連絡し、次回までに補っておくようにする。

教科書	なし。
参考書	「心理学マニュアル 要因計画法」　北大路書房　ISBN: 978-4762821967 「心理学マニュアル 質問紙法」　北大路書房　ISBN: 978-4762821097

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	花田　美和子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U04090
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	衣生活学、色彩学等に関連するテーマを取り上げ、卒業論文を作成する。
授業の概要	前期はテーマを設定し、先行研究の調査、予備実験等をおこなった上で、研究計画を作成する。 後期は定期的に進捗を確認しながら本実験、調査を進め、提出締切日までに卒業論文を完成させる。
到達目標	各自のテーマに沿って先行研究を調べ、実験や調査を行って知見を得る。【知識・理解】 論理的に文章を組み立て、一定水準の卒業論文を完成させる【汎用的技能】 研究で得られた成果を実生活に役立てる方法を考察する【態度・志向性】
授業計画	第１回：ガイダンス 第２回：先行研究の調査１ 第３回：先行研究の紹介２ 第４回：先行研究の紹介３ 第５回：テーマの設定と研究計画の検討１ 第６回：テーマの設定と研究計画の検討２ 第７回：テーマの設定と研究計画の検討３ 第８回：予備実験１ 第９回：予備実験２ 第１０回：予備実験３ 第１１回：研究テーマと研究計画の発表１ 第１２回：研究テーマと研究計画の発表２ 第１３回：研究テーマと研究計画の発表３ 第１４回：研究の実践 第１５回：中間発表 第１６回：研究の実践 第１７回：研究の実践 第１８回：研究の実践 第１９回：研究進捗状況の確認 第２０回：研究の実践 第２１回：研究の実践 第２２回：研究の実践 第２３回：研究進捗状況の確認 第２４回：卒業論文執筆の方法１ 第２５回：卒業論文執筆の方法２ 第２６回：研究進捗状況の確認 第２７回：論文の完成 第２８回：論文要旨作成 第２９回：研究発表準備 第３０回：研究発表準備
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業時間外にも研究を進めていくことが必要となる。（授業前後、180分） 一斉授業の他、必要に応じて個人指導をおこなう。
授業方法	演習、実験
評価基準と評価方法	研究への取り組み:50%、卒業論文:50%
履修上の注意	研究は互いに協力し合いながら計画的にすすめること。 提出期限を守ること。

教科書	使用しない。
参考書	随時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	前田　直哉					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U04090
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	家計レベルから世界レベルまで、各自の関心に合わせた経済問題に取り組み、経済的知識とその実践手法を修得し、卒業論文を完成させる。
授業の概要	卒業研究では1～3学年で学んだ都市生活に関する専門的知識の中から、学生が関心をもった領域に関する問題をとりあげ、自らがその関心に応じた問題を設定して取り組む。具体的には、先行研究を探索後に残された問題の解決や新しい仮説のための方法を計画、実施し、得られた文献やデータをまとめ、考察する。これらの手続きの最終段階として卒業論文を作成する。この授業で主体的にものごとに取り組み達成していく過程を通して、何かを解明することに対する喜びと動機づけを獲得することが目的である。
到達目標	(1)「社会にどのような経済問題が存在するかを見つけ出し、その原因を金融論あるいは経済学の視点から分析できる」【知識・理解】 (2)「各自が取り組んでいる経済問題を具体的かつ詳細に説明できるる」【汎用的技能】 (3)「卒業論文を完成させるために必要な経済学的手法を修得することができる」【態度・志向性】
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　卒業論文第1節の作成① 第3回　卒業論文第1節の作成② 第4回　卒業論文第1節の見直し 第5回　コピペ、引用、脚注(再確認) 第6回　論文作成のルールと研究倫理 第7回　卒業論文第2節の作成① 第8回　卒業論文第2節の作成② 第9回　卒業論文第2節の見直し 第10回　課題提出の準備① 第11回　課題提出の準備② 第12回　課題提出の準備③ 第13回　課題提出の準備④ 第14回　課題提出の準備⑤ 第15回　卒業論文第3節の提出 第16回　卒業論文第3節の見直し 第17回　課題提出の準備① 第18回　課題提出の準備② 第19回　課題提出の準備③ 第20回　課題提出の準備④ 第21回　課題提出の準備⑤ 第22回　卒業論文の最終チェック 第23日　卒業論文第4節の提出 第24回　卒業論文要旨の作成① 第25回　卒業論文要旨の作成② 第26回　卒業論文要旨の提出 第27回　卒業研究発表会の準備① 第28回　卒業研究発表会の準備② 第29回　卒業研究発表会のリハーサル① 第30回　卒業研究発表会のリハーサル②
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献資料を図書館、論文検索システム、web検索で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：研究テーマの内容を見直し、課題提出の準備を進めること(学習時間：2時間)
授業方法	演習：個人で設定した卒業論文のテーマに即した課題に取り組むこと。
評価基準と評価方法	・卒業論文第1節の提出(15%)：卒業論文第3節の内容をルーブリックで評価するとともに、到達目標(1)～(2)の達成度を確認する。 ・卒業論文第2節の提出(15%)：卒業論文第3節の内容をルーブリックで評価するとともに、到達目標(1)～(2)の達成度を確認する。 ・卒業論文第3節の提出(20%)：卒業論文第3節の内容をルーブリックで評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。 ・卒業論文第4節の提出(20%)：卒業論文第4節の内容をルーブリックで評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。 ・卒業論文要旨の提出(10%)：卒業論文要旨の内容を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。 ・卒業論文発表会での口頭あるいはポスター発表(20%)：卒業論文発表会での口頭あるいはポスター発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。

履修上の注意	・欠席回数が10回を超えた場合には、単位を認定しない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・学校感染症、公共交通機関の運休・遅延といったやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限って考慮の対象とする。
教科書	特に使用しない。
参考書	授業中に適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調理科学実験						
担当教員	長尾　綾子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U21150
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	調理操作に対して興味・関心をもち、調理科学的な視点を培う。
授業の概要	加熱方法や加熱時間による食材の変化、切り方の違いによる味の浸透の差異を実験の手法で学修する。
到達目標	(1) 調理操作が食品に及ぼす影響を理解し、説明できる【知識・理解】 (2) 計量をはじめとする基礎的な調理操作を正しく行うことができる【汎用的技能】 (3) 調理操作による物理的・化学的な影響を踏まえて調理に臨むことができる【態度・志向性】
授業計画	第1回　諸注意その他 第2回　計量　重量と容積の関係 第3回　廃棄率①　野菜の下処理と廃棄率 第4回　食品の変色と防止法　ブランチング処理他、褐変防止方法の効果の確認 第5回　廃棄率②　魚の下処理と廃棄率、浸透圧による吸水・脱水、形状と組織の変化 第6回　加熱の科学・基礎①　炊飯工程と米の糊化条件の確認、米の組成と粘りの関係 第7回　加熱の科学・基礎②　大根の煮え方（食紅の浸透圧実験） 第8回　加熱の科学・基礎③　調味時期とその食味 第9回　実験結果プレゼンテーション・考察〈第2回から8回までの実験結果のまとめ・班による発表〉 第10回　加熱の科学・応用①　卵液希釈度・調味料の量や食味への影響 第11回　加熱の科学・応用②　鍋の材質・炒め油の量と調味時間の関係 第12回　調味の科学①　相乗効果、だし素材、浸漬・加熱方法による食味の違い 第13回　調味の科学②　汁物の塩分含量測定 第14回　調味の科学③　混濁要因の検証、ルウの炒め加減と食味 第15回　実験結果プレゼンテーション・考察〈第10回から14回までの実験結果のまとめ・班による発表〉
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、データの整理や結果のまとめは授業内に行うが、松蔭manabaにて資料の提示やレポートの提出、およびグループごとのプレゼンテーションの準備を行うために次の時間を要する。 授業前準備学習：実験内容に目をとおしておく。＜学習時間：30分＞ 授業後学習：（毎回）レポートの作成、（2回）グループ発表の準備。＜学習時間：30～60分＞
授業方法	実験：実験内容説明後、グループごとに実験を行い、データ整理、結果についてのディスカッションを行う。 各自、実験記録をもとにレポートを作成し、松蔭manabaに提出する。 プレゼンテーション：第9回と第15回にグループごとのプレゼンテーションを行い、要点を整理する。
評価基準と評価方法	授業態度（実験、発表への取り組み）50%、レポート（実験ノートを含む） 50% 授業態度：実験の取り組み、グループ作業への参加度、グループ発表の内容より、総合的に評価する。 到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 レポート：実験結果をもとにレポートが作成できているか、実験記録、結果、考察を総合的に評価する。 到達目標（1）（3）に関する到達度の確認。 フィードバックの方法；授業時および松蔭manabaにて対応する。
履修上の注意	「調理学」を履修していることが望ましい。 実験内容を把握し、実験に適した身支度をした上で臨むこと。（実験用白衣を着用:各自購入） 実験室へは許可された物のみ持ち込みを可能とする。 実験のため全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守。実験後のレポート提出を以ってその回を受講したこととする。
教科書	『調理学実験書』、小川宣子・真部真里子編著、光生館、ISBN 978-4-332-05044-5
参考書	『調理学』、（公社）日本フードスペシャリスト協会編、建帛社、ISBN 978-4-7679-0524-2 『NEW　調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1395-6

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調理学						
担当教員	升井　洋至					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U11130
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	調理について理解し、調理をするために必要な知識を学び、修得する。
授業の概要	人が健康を維持するためには、適切に食事を摂らなければならない。食事は、単にタンパク質、炭水化物、油脂等を摂るだけでなく、「適切に、おいしく」摂る必要がある。このためには、食材の特性を理解し、適切な調理方法を行うことが求められる。嗜好的に好まれる＝おいしく食べるために、調理学では、調理をするために必要な知識として、食事設計の基本知識、食素材の調理性、調理操作による組織または物性と栄養成分の変化などを学ぶ。
到達目標	(1) 食事設計の基本知識、食素材の調理性、調理操作による組織または物性と栄養成分の変化などを理解する。【知識・理解】 (2) 状況に合わせた食事設計ができるようになる。【汎用的技能】
授業計画	第1回　おいしさの設計―①調理の意義、②食べ物の嗜好性 第2回　おいしさの設計―③おいしさの演出 第3回　おいしさの設計―④食事設計 第4回　調理操作―非加熱操作と器具 第5回　調理操作―加熱操作と器具 第6回　調理操作―熱源の種類と加熱機器・器具 第7回　食品素材の調理特性―炭水化物を多く含む食品の調理性〈確認試験〉 第8回　食品素材の調理特性―たんぱく質を多く含む食品の調理性 第9回　食品素材の調理特性―ビタミン・無機質を多く含む食品の調理性 第10回　食品素材の調理特性―成分抽出素材の利用と調理性 第11回　調理と食品開発―調理と摂食機能〈確認試験〉 第12回　調理と食品開発―安全性への配慮 第13回　調理と食品開発―調理から加工への展開 第14回　調理と食品開発―消費と流通への展開 第15回　授業内容のまとめ 第16回　期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：講義テーマについて、教科書による予習（学習時間2時間） 授業後学習；講義内容について、要点整理、確認テストによる理解度の確認（学習時間2時間）
授業方法	対面講義形態で行う。講義では教科書をもとにパワーポイント等で解説する。 調理操作や食品素材の変化について具体的に説明をする。
評価基準と評価方法	期末試験 60%：授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 レポート課題20% 確認試験 20%：2回実施
履修上の注意	日常生活で「調理する」ことについて、興味、関心をもって、講義の予習、復習を行うこと。 食べたものが、どのように調理され、提供されているかを考えてください。 出席回数が開講回数の3分の２に満たない場合、原則単位認定は行わない。 遅刻、早退30分以上は欠席とする。
教科書	『調理学　第2版』 (公社)日本フードスペシャリスト協会編、建帛社 ISBN:9784767906560
参考書	『調理学　第２版』、渕上倫子編著、朝倉書店、ISBN978-4-254-61650-7 『NEW　調理と理論　第二版』、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1507-3 『コツと科学の調理事典 第3版』、河野友美著、医歯薬出版、ISBN978-4-263-70264-2 映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』、松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、ISBN 978-4-8103-1395-6 『たのしい調理―基礎と実習―』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調理実習						
担当教員	松木　宏美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U12140
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3～4	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	基本的な調理操作の実習を行い、自らの食生活と結びつけ、食生活の自立に必要な知識と技術を修得する。
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合的技能を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技能を修得する。また、食事計画から食卓構成を実習するプロセスでは、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。
到達目標	(1)基本的な調理方法、調理の特異性、調理の意味、調理の可能性について理解する。【知識・理解】 (2)基本的な調理技術を習得し、調理に対する興味を広げる。【汎用的技能】 (3)食生活に対する自信を培い、自らの食を省み、食の自律を促す。【態度・志向性】
授業計画	第 1回　オリエンテーション、調理実習の心得、基本的操作、お茶の入れ方　白玉団子① 第 2回　炊飯、だしのとり方①、青菜の茹で方、お茶 第 3回　行事食①炊きおこわ、茶碗蒸し、白玉粉②草もち、お茶 第 4回　炊き込みご飯、潮汁、和え物、お茶 第 5回　おばんざい＜魚の扱い①煮魚、おから、だしのとり方②味噌汁＞、ご飯、お茶 第 6回　魚の扱い②手開き：フライ、タルタルソース、ミネストローネ、ゼリー①アガー、パン 第 7回　魚の扱い③三枚おろし：ムニエル、粉ふき芋、コンソメスープ、ゼリー②ゼラチン、パン 第 8回　小麦粉①ホワイトルウ・若鶏のクリーム煮、麺の茹で方①パスタ、パン、コーヒー 第 9回　小麦粉②ブラウンルウ・ハンバーグステーキ、付け合わせ、スープ、パン 第10回　小麦粉③わんたんスープ、酢豚、白飯、花茶 第11回　中華ちまき、豆腐入りコーンスープ、寒天①杏仁かん、烏龍茶 第12回　行事食②お寿司、麺の茹で方②そうめん、寒天②、お茶 第13回　青椒牛肉絲、卵のスープ、和え物、白飯、プーアル茶 第14回　小麦粉④ケーク・サレ、スープ、紅茶 第15回　総復習・まとめ（炊飯、汁物、茶、他）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学修：実習内容について、資料や教科書の該当箇所を予習し、概要を把握しておく。＜1時間＞ 授業後学修：実習の手順、調理の要点、使用した食材などについてレポートを作成し、提出する。＜2時間＞ ※資料やレポートは松蔭manabaを活用する。
授業方法	実習：調理の説明・示範の後、安全面衛生面に注意をしながら、グループで協力をして調理や後片付けを行う。 　　調理中は調理による変化を観察し、仕上がった料理を試食する。実習後に各自でレポートを作成する。
評価基準と評価方法	授業態度 50%、提出物 40%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（料理の仕上がり）から、総合的に評価する。 　　（実習の取り組みでは、特に衛生面・注意事項への対応を重視する） 　　到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。 　　到達目標(1)に関する到達度の確認。 　　【課題レポート】課題について適切なレポートが作成できているか。 　　到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確にしているかを評価する。 　　到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：授業時や松蔭manabaにて対応する。
履修上の注意	「調理学」の単位修得者が履修できる。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ、持ち込みを可能とする。 実習後・試食後の後片付けと実習室・試食室の清掃終了までが、実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物は、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費8,000円を徴収する。
教科書	『たのしい調理―基礎と実習―』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4

参考書	映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、 ISBN 978-4-906514-86-1 『NEW　調理と理論』第二版、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子・米田千恵・大石恭子共著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1507-3 『これからの調理学実習』新調理研究会編、オーム社、ISBN 978-4-274-06997-0 ※上記の他、必要に応じて松蔭manabaで紹介をする。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	地域インターンシップ／食と農の地域インターンシップ						
担当教員	青谷　実知代					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U22420
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	食卓に上る食べ物が現場でどのように作られているのかを知り、農場から食卓までのプロセスを理解することを目指す。
授業の概要	自分たちの手で、安心な食と環境づくりについて学びながら、食や環境についての課題を探ります。さらに、技術や専門知識を深めるとともに、将来の夢やキャリア形成を考える機会を提供します。 異文化交流をはかりながらコミュニケーション能力など基礎的な実践力を養い、食・農業に関する理解の深化と実践的な立案・調整能力を身につけます。
到達目標	①農場から食卓までにプロセスを理解する。（知識・理解） ②安心な食の環境づくりについておけるプロセスを描くことができる。（汎用的技能） ③将来のキャリア形成を考える。（態度・志向性） ④異文化交流をはかりながらコミュニケーション能力を養う。（態度・志向性）
授業計画	【集中講義】 ＜本学　事前指導4回：青谷＞ 第1回　新しい時代の食・農・環境の農学へ 第2回　農業をめぐるグローバルな関係 第3回　日本の食と農の今 第4回　諸外国の農業の実態 ＜学外でのインターンシップ（課題解決のカギを学ぶ：視察重視）＞ （第5～7回は、青谷と共に学外実習を行う。第8～13回は、履修生のみで実習を行う。） 第5回　食料・農業と環境の関わり（農業体験：田植え） 第6回　歴史の中の日本の農業　（ファーマーズマーケット・道の駅などの視察） 第7回　過去より問う環境とのかかわり（中央卸売市場の体験） 第8回　生産の場の環境：（実習体験） 第9回　花卉の現状について；（実習体験） 第10回　農業を通した異文化交流と食の現状（実習体験） 第11回　持続可能な社会に求められる人材を目指して（実習体験） 第12回　農業の展開と環境・資源問題（実習体験） 第13回　プレゼンテーションの作成と学祭での野菜販売（11月を予定） ＜本学　学内実習および事後指導2回：青谷＞ 第14回　プレゼンテーション：実習報告会 第15回　持続可能な社会に求められる人材を目指して ※例年、12月と2月ににワカメの種付け・収穫体験実習があります。日程が分かり次第、ご連絡します。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①農業や食に関する新聞や雑誌の話題をつかんでまとめておくこと。（事前学習：2時間） ②兵庫県の特産品を確認、整理。環境に配慮した取り組みについてレポート作成（事後学習：2時間）
授業方法	講義と実地研修（インターンシップ） ・講義ではプレゼンテーションやディベートを取り入れて実施する。
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 平常点（インターンシップの参加も含む）50%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）により評価する。到達目標に関する到達度の確認。 プレゼンテーション　30% レポート課題　20%
履修上の注意	①授業回数の3分の1以上欠席した人は評価基準を失うものとする。 ②学外実習の費用（交通費や入館料、参加費など）は、自己負担とする。
教科書	資料を配布して学修を進めます。必要に応じて、レジュメを配布します。
参考書	随時紹介していきます。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	地域ブランド論						
担当教員	青谷　実知代					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72520
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	地域の引力を生み出し、強いブランドを創るためのプロセスを学修する。
授業の概要	地域の引力を生み出し、観光を盛り上げていくには、国・都道府県・市町村・住民・観光施設など様々な関係者が集まり、「自分事」として地域の課題を捉え、取り組むことが強い地域ブランドづくりに繋がる。いわゆるそれは、交流人口の増加や滞在人口の増加、さらに地方創生にも関わる取り組みとなる。 　日本人による旅行消費額は、日本国内における旅行消費額の約8割を占める。こうした需要が、持続的な観光振興の鍵を握ることになる。しかし、日本人の旅行消費額は、国際的に見ても未だに低い水準にある。訪日外国人旅行者数が急激に伸びている一方で、日本人の国内旅行社数や海外旅行者数はほとんど伸びていない。「観光に来てもらう国」よりも国民が「観光に行く国」（旅行にお金をつかう国）のほうが、幸福度は顕著に高い。 　日本人の旅行を促進し、観光を楽しむ人が増えることは、地域振興のみならず人々の幸せにも結びつく。 そこで、地域の引力が増加し、地域のブランド力が強くなるプロセスを、農林水産業・食品産業・伝統工芸産業・観光サービス業・商業などの分野で幅広い展開が行われているケースを取り上げ、理解する。 そして、そのケースを通して本講義ではブランドの理論、手法、実践例、活用方法を学ぶ。
到達目標	①地域ブランドの概念について政府機関の考え方を踏まえながら企業ブランドとの関係性ついて知識と理解を深めることができる。（知識・理解） ②地域ブランドの構築に際して形成すべき要素・構成について理解し、アイデアを深めていく。（汎用的技能） ③ブランドの対象となるものに付与すべき価値や機能について考え、地域の課題を考えることができる。（態度・志向性）
授業計画	第１回　地域ブランドの概念と構成（誘致・誘客からマーケティングへ） 第２回　地域ブランドの意味と役割（観光のブランドづくりとは何か） 第３回　ブランドのマネジメント（どうすれば強いブランドが生まれるのか） 第４回　地域ブランドの分析視覚：地域空間のブランディング（イメージが浮かばなければ、選ばない） 第５回　ブランドと地名の違い【PC必携】 第６回　地域ブランドの付与条件【PC必携】 第７回　地域ブランドの一番とは何か―地方創生との関わり―【PC必携】 第８回　地域ブランドのシンボル【PC必携】 第９回　地域の引力を生み出す方法（ゲストスピーカー） 第10回　地域ブランド資源としての地域産品：食がブランドを強くする【PC必携】 第11回　地域ブランドのマネジメントの特徴（ブランドづくりのステップ）【PC必携】 第12回　地域ブランドと観光地の集客イベント事業（観光立国は幸せな国か）【PC必携】 第13回　地域ブランドの競争（量の観光から質の観光へ）【PC必携】 第14回　地域ブランドの共創（プレゼンテーション）【PC必携】 第15回　地域固有性とブランディング
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①地域の情報誌や駅構内にあるフリーペーパーなど資料を収集し、まとめる。（学習時間：2時間） ②授業中に指示された課題をレポートしつつ、地元（自分が住んでいる市町村）の観光実態を把握すること。（学習時間：2時間）
授業方法	講義形式（BYOD対象科目） ・課題解決型学修を取り入れる。 ・プレゼンテーションを行う。
評価基準と評価方法	・各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・アイデア）などにより評価する。（10%） ・レポート課題への取り組みとプレゼンテーションの評価（30%） ・期末試験（60%）
履修上の注意	①授業中配布するプリントは、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布）。 ②講義全体の2/3の出席が確認できない場合は、受講資格を失う。 　※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッションなど）を積極的に取り入れる。 ④学外実習（見学）を伴うこともあるため、入館料や交通費等は自己負担となる。 ※この科目は、「マーケティング論」「食と観光のマーケティング論」「食と観光産業のマーケティング論」と併せて履修することが望ましい。
教科書	随時紹介する。
参考書	『1からの観光』高橋一夫・大津正和・吉田順一編著、中央経済社　ISBN978-4-502-67410-5 岩崎邦彦著『観光ブランドの教科書』日本経済新聞出版社、ISBN978-4-532-32307 陶山計介・室博・小菅謙一・羽藤雅彦・青谷実知代『地域創生と観光』千倉書房、2022年、ISBN978-4-8051-1273-1

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	地域連携論						
担当教員	江　弘毅					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U12160
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	現在進行形で進む地域連携の具体例を知り、市民的成熟に基づいたコミュニティづくりを考える。
授業の概要	本講義は、現代社会における地域が抱える諸問題について、いかにして関係諸機関が連携を図り、その問題解決を行うかについて学ぶ。 前半は、資本主義(新自由主義とグローバリズム）や社会制度、行政の取り組みから地域連携の意義と必要性を考え、後半はコミュニティづくりや、ソーシャル・ビジネスの具体的事例、NPOや市民団体等による先駆的な実践を紹介する。 また、本学科が地域と連携して行っている活動についても紹介し、大学の地域貢献についても触れる。 官民による多様な実践例から、身近な生活をよりよくする地域連携のあり方について考察する。
到達目標	（１）コミュニティにおいての市民的成熟を身につけることができる。（知識・理解） （２）地域のコミュニティづくりに参画することができる。（態度・志向性） （３）地域のコミュニティづくりの具体案を出すことができる。（知識・理解）
授業計画	前半は「地域連携」の社会的意義、考え方を概論、後半は教員がこれまで関わってきたり取材してきたさまざまなNPOやTMOなどの組織、地域団体、組織、ネットワークの実例をリアルに紹介し、それを理解し考察する。 第1回　この地域連携論でなにをやるのか 第2回　パンデミック下の新自由主義〜個人主義から地域連携へ 第3回　地域連携とグローバリズム 第4回　「公共」「共同体」「私」と「地域連携」 第5回　中間共同体＝「中景」について 第6回　資本主義と社会的共通資本 第7回　ソーシャル・キャピタルの観点 第8回　地元灘区の「灘区のnaddist一地元と生きる」 第9回　尼崎南部再生研究室（尼崎市）の取り組み 第10回　岸和田だんじり祭礼と地域連携 第11回　市民と落語家が作った「天満天神繁昌亭」（大阪市北区） 第12回　農業と地域連携。就農の動き 第13回.　神戸松蔭女子学院大の地域連携 第14回　地域連携＝コモンを創造する 第15回　期末レポートをまとめる すべての回で［PC必携］
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画に関連するテーマに応じて参考書を読み、さまざまなメディアから情報を収集する（学習時間90分）。 授業後学習：授業計画にあがった実例の地元をその都度歩くこと、地域イベントなどに参加すること（学習時間120分）。
授業方法	毎回授業前にmanabaのコースコンテンツに講義の内容をアップします。 レジュメや資料を配布します。 毎回のリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 実際のフィールドワークにつながるように、大阪〜阪神間〜神戸の実例を中心に講義する。 学期中に、自分が知り得た地域連携の実例、タイムリーな地域イベントに参加して、それをレポートすること。 〈BYOD対象科目〉
評価基準と評価方法	期末レポート「わたしが知る地域連携（1200字）」（50%）。各回提出のリアクションペーパー（30%）、授業でのコール＆レスポンス（20%）
履修上の注意	3分の2以上の出席に満たない学生には単位を認めません。
教科書	毎回、授業前にmanabaのコースコンテンツをアップし、レジュメや資料を配布します。
参考書	『NHKテキスト　100分で名著　カール・マルクス　資本論』斎藤幸平著、NHK出版　ISBN:9784142231218 『武器としての資本論』白井聡著、東洋経済新報社 ISBN-10:4492212418 『人口減少社会のデザイン』広井良典著、東洋経済、ISBN-10: 4492396476 『コミュニティを問い直す』広井良典著、ちくま新書、ISBN-10: 4480065018 『ソーシャル・キャピタル入門〜孤立から絆へ』稲葉陽二著、中公新書、ISBN-10: 412102138X

参考書	『奇跡の寄席　天満天神繁昌亭』堤成光著、140B、ISBN-10: 4903993043 『ローカリズム宣言』内田樹著、deco ISBN:9784906905164 『コロナ後の世界』内田樹著、文藝春秋　ISBN:9784163914589 『メイドイン尼崎本』ティーエムオー尼崎 『南部再生〜尼崎南部地域の情報誌』（フリーマガジン） HP『ナダタマ』http://www.naddist.jp

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	データ処理法I						
担当教員	長谷川　誠					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U23090
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	質問紙調査で得られたデータの分析によく利用される多変量解析法について、基礎的な考え方とともに、各種分析法とその分析手順について学習する。特に、分散分析、重回帰分析、因子分析について詳しくとりあげる。
授業の概要	社会学・経営学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する。使用するデータは「社会調査基礎演習Ｉ」で得られた質問紙調査であり、統計ソフト（SPSS）を用いて、このデータで実際に多変量解析を行う。解析の方法は、重回帰分析を中心として、その後データの構造や仮説によって、分散分析や共分散分析、t検定あるいはパス解析や因子分析、数量化理論の適用など、少なくとも2・3種類の統計手法を体験させる。
到達目標	(1)「質問紙から得られたデータを、適切な手法で分析することができるようになる」【知識・理解】 (2)「今までのデータ知識とは違う読み取り方ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「得られたデータから現状を理解し、問題点を捉えることができるようになる」【態度・志向性】
授業計画	第1回　ガイダンス～多変量解析とは 第2回　多変量を要約する：多変量データの種類 第3回　データセットの作成方法：SPSSの基本操作 第4回　記述統計の作成方法：SPSSによる記述統計 第5回　分散分析とは：3つ以上のグループで平均値を比較するための手法 第6回　分散分析の適用方法：一元配置の分散分析、二元配置の分散分析 第7回　分散分析を体験する：SPSSによる分散分析～中間試験 第8回　重回帰分析とは：説明変数が2つ以上の回帰分析 第9回　重回帰分析の適用方法：最小二乗法、偏回帰係数の解釈、決定係数、決定係数の有意性検定、変数選択 第10回　重回帰分析の問題点：多重共線性とその対応方法 第11回　重回帰分析を体験する：SPSSによる重回帰分析 第12回　因子分析とは：複数の観測変数の中から共通因子を抽出するための手法 第13回　因子分析の適用方法：探索的因子分析、確証的因子分析 第14回　因子分析を体験する：SPSSによる因子分析 第15回　授業のまとめと定期試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：2時間)
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、課題を提示する。その課題について周囲と協力しながら取り組むこと。
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第8～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに。到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～7回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。 ・欠席した場合は、必ず相談すること。
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。
参考書	授業中に適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	データ処理法II						
担当教員	江　弘毅					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U23100
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	インタビューすること、インタビュー記事を書くことを実践的に学ぶ。
授業の概要	質的社会調査を行うための基礎的な事柄について学習する。 とくに質的社会調査においての生活史調査のためのインタビューについて、その特徴と方法を理解する。 質的社会調査の一連のプロセスを経験することを通じて、基礎的な力を身につけ、実際に質的社会調査（生活史調査のインタビュー）を企画・実施し、インタビュー原稿にまとめることができるようになることが目的である。
到達目標	（１）質的社会調査の方法として取材とインタビューを理解し、実際に行うことができる。（知識・理解） （２）インタビュイー（インタビューを受ける人）との十全なリレーションシップを取ることができる。（汎用的技能） （３）インタビューした内容を情報化、記述することができる。（汎用的技能）
授業計画	第１回　オリエンテーション（授業の目的、内容、進め方、評価の方法など）［PC必携］ 第２回　情報化社会とメディア［PC必携］ 第３回　情報と情報化。ジャーナリズム［PC必携］ 第４回　質的調査と量的調査。質的社会調査の方法［PC必携］ 第５回　インタビュアー（聞き手）とインタビュイー（話し手）［PC必携］ 第６回　インタビューの方法。フィールドワークと生活史調査［PC必携］ 第７回　新聞・雑誌媒体のインタビュー記事［PC必携］ 第８回　インタビューを情報化する［PC必携］ 第９回　取材、コミュニケーションとインタビュー［PC必携］ 第10回　インタビュー取材の準備の実際［PC必携］ 第11回　アポイントとインタビュー取材項目［PC必携］ 第12回　インタビュー取材の実施［PC必携］ 第13回　インタビュー記事を書く［PC必携］ 第14回　インタビュー記事の講評と手直し［PC必携］ 第15回　インタビュー記事を完成させる［PC必携］
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：新聞や雑誌、ネットなどのさまざまなメディアのインタビュー記事を読むこと。予習として身近にある、その日の新聞、その週の週刊誌、ネット上のニュースサイトなどのインタビュー記事欄を読む（学習時間90分）。 授業後学習：講義で取り上げた実際のインタビュー記事を熟読する（学習時間60分）。 実際にインタビューを行うための手続きを行い、記事を書く（学習時間60分）。
授業方法	編集者／著述家として、実際にインタビュー記事書いている実例をもとに講義する。 毎回授業前にmanabaのコースコンテンツに授業内容をアップ、レジュメを配布し、それらをもとに講義する。 インタビューを実際に行って、記事を作成する。 〈BYOD必携科目〉　ですが、演習教室の131CのPCを使うことも可能。
評価基準と評価方法	試験は実施しない。課題提出（取材、インタビュー記事作成　約2000字または約4000字）70%、質問応答（コール＆レスポンス）、授業中の発表発言30%。
履修上の注意	出席が3分の2に満たない者には単位認定をしません。
教科書	『インタビュー』木村俊介著、ミシマ社　ISBN-10: 4903908968 『質的社会調査の方法』岸政彦ほか著、有斐閣ストゥディア　ISBN978-4-641-15037 『人生最後のご馳走』青山ゆみこ著、幻冬舎　ISBN978-4-344-02826-5 その都度、資料として複写配付しますので、必ずしも購入する必要はありません。
参考書	『インタビュー術！』永江朗著、講談社現代新書、ISBN-13: 978-4061496279 『人物ノンフィクション　表現者の航跡』後藤正治著、岩波現代文庫、ISBN-13: 978-4006031879

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	データ分析法I／調査集計演習						
担当教員	長谷川　誠					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U22080
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目標とする。
授業の概要	定量データや定性データなどの基礎的な資料が読め、平均、分散、標準偏差などの記述統計の知識を使ってデータの作 成・分析ができる事を目標とする。エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作 成などを実際のデータを使いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。
到達目標	①データを作成する手法を身に付け説明することができる。【知識・理解】 ②データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。【汎用的技能】 ③データの裏側を読み解き、それについて議論することができる。【態度・志向性】
授業計画	1. 関連データの探し方 2. 官公庁統計の収集・整理 3. フィールドワーク論文の読み方 4. エクセルの基礎　エクセルデータの入力 5. エクセルの基礎　平均・分散・標準誤差 6. 相関係数　因果関係と相関関係 7. 相関係数とその検定 8. クロス集計の基礎 9. クロス集計表の検定-χ2検定- 10. エクセルによるグラフの作成 11. エクセルとワード　　ワードによるレポートの作成 12. SPSSによる統計分析（1）-t検定- 13. SPSSによる統計分析（2）-一元配置の分散分析- 14. 報告書の作成 15. 報告書の作成
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・社会調査に関するトピックスに関心を持ち、関連文献を活用し代表的な分析手法について下調べをして理解を深めておくこと（学習時間：2時間）。 ・授業内で指示した課題について反復練習を行い、分析手法について理解を深めること（学習時間：2時間）。
授業方法	演習 1人1台のPCを用いて分析、検討を進める
評価基準と評価方法	・授業毎のチャレンジ問題（10%）：授業で示した分析手法の理解度を評価するとともに、到達目標①および③に関する到達度を確認。 ・レポート、小テスト（30%）：データを読み取る力を評価するとともに、到達目標②に関する到達度を確認。 ・期末テスト（60%）：データの性質を読み取り、正しい手法を選択し分析する力を評価するとともに、到達目標①、②および③の理解度を確認。 ・課題のフィードバックのコメントは、翌週授業において紹介、解説する。
履修上の注意	復習は必ずすること 20分以上の遅刻は欠席扱いとする
教科書	なし（授業中に資料を配布する）
参考書	授業中に紹介する

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	特別調理実習						
担当教員	松木　宏美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U23470
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3～4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	この特別調理実習では、伝統食や季節感のある食文化および多様な世代のニーズに対応する献立作成と調理技術を修得し、将来の豊かな食生活や食文化の伝承につないでいくことをテーマとする。
授業の概要	この特別調理実習は、家庭科教職課程の必修教科でもあるため、構成については高校の指導要領を考慮した。日常食を中心に学ぶ「調理実習」に引き続き、特別調理実習では、行事食・供応食、幼児と高齢者の食事、体調を整える食事についての調理実習を行い、調理の理論と技術を深める。具体的には、各食事の献立作成において、栄養面、嗜好性、経済性、能率性、季節性を考慮し、喫食者と食事の目的にあわせて調理をすることによって、その重要性を理解し、それぞれの調理操作やもてなし方について学ぶ。
到達目標	(1)季節ごとの行事食や供応食といった伝統食の特長、および食事の目的や喫食者の多様なニーズに対応した献立作成や調理の工夫について理解する。【知識・理解】 (2)食事の目的や喫食者に応じて、調理の工夫や技術など習得したことを活用できる。【汎用的技能】 (3)将来的には自立した豊かな食生活を営むことが出来るようになることを目指す。【態度・志向性】
授業計画	第 1回　オリエンテーション、お茶と和菓子、水菓子のおもてなし 第 2回　おもてなしの松花堂弁当（春の香り） 第 3回　祝膳：赤飯と尾頭付き 第 4回　祝膳：端午の節句の祝膳 第 5回　咀嚼・嚥下に考慮して①：離乳食 第 6回　咀嚼・嚥下に考慮して②：幼児食 第 7回　野菜と豆類たっぷりの精進料理 第 8回　なつかしの家庭料理①：薄味でおいしい食事 第 9回　なつかしの家庭料理②：揚げ物じょうずに 第10回　なつかしの家庭料理③：食物繊維たっぷりの食事 第11回　「特別招聘講師」による調理実習 第12回　咀嚼・嚥下に考慮して③；高齢者食 第13回　咀嚼・嚥下に考慮して④：長寿を慶ぶ祝膳 第14回　パーティー料理：テーブルマナー 第15回　まとめ、パーティー料理：ティーパーティ ※実習内容の詳細は、第1回オリエンテーションにて伝える。 　実習の順番は、変更することがある。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学修：実習内容について、資料や教科書の該当箇所を予習し、概要を把握しておく。＜1時間＞ 授業後学修：実習の手順、調理の工夫や要点、使用した食材などについてレポートを作成する。＜2時間＞ ※資料の提示やレポートの提出は松蔭manabaを活用する。
授業方法	実習：調理の説明・示範の後、安全面衛生面に注意をしながら、グループで協力をして調理や後片付けを行う。 　　調理中は調理による変化を観察し、仕上がった料理を試食する。実習後に各自でレポートを作成する。 　　実習内容によっては、グループごとに所定の調理を行い、試食することもある。
評価基準と評価方法	授業態度40%、提出物40%、小テスト20% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（料理の仕上がり）から、総合的に評価する。 　　（実習の取り組みでは、特に衛生面・注意事項への対応を重視する） 　　到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。 　　到達目標(1)に関する到達度の確認。 　　【課題レポート】課題について適切なレポートが作成できているか。 　　到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。 小テスト：食事の場面や喫食者に応じた献立作成や調理の工夫、調理操作ができているかを評価する。 　　到達目標(2)に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：授業時および松蔭manabaにて対応する。
履修上の注意	「調理学」および「調理実習」の単位修得者が履修できる。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室には許可された物のみ持ち込みを可能とする。 実習後・試食後の後片付けと実習室・試食室の清掃終了までが実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物は、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。 実習着は「調理実習」で用いたものを使用する。 実習費8,000円を徴収する。

教科書	『調理学実習』第2版、大谷貴美子・饗庭照美・松井元子・村元由佳利編、講談社、ISBN 978-4-06-514095-6
参考書	『たのしい調理―基礎と実習―』第5版、山内知子他著、医師薬出版、ISBN 978-4-263-70653-4 ※上記は「調理実習」の教科書 映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、 ISBN 978-4-906514-86-1 『NEW　調理と理論』第二版、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子・米田千恵・大石恭子共著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1507-3 『これからの調理学実習』新調理研究会編、オーム社、ISEN 978-4-274-06997-0 ※上記は「調理実習」の参考書と同じ。 ※必要に応じて松蔭manabaで紹介をする。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活インターンシップ						
担当教員	青谷　実知代					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U13180
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	地域活動に携わるNPOや市民活動団体、まちづくり系団体、ボランティア団体など非営利組織で仕事をするために必要な知識（社会の捉え方や働き方）の習得と、その現場での10日間の体験を行う。
授業の概要	地域やまちづくり活動を中心としたNPOなど非営利組織で仕事をするために必要な知識（社会の捉え方や働き方）の習得と体験を通してキャリアアップにつなげることを目指す。 本講義の研修とその前後の授業を学習概要は以下です。 ①営利組織と非営利組織の違いについて考える ②社会に出て働くことの意義とその働き方について考えを深める ③地域イベントやまちづくり活動に携わる非営利組織の実態や職場のルール、マナーを学ぶための業務体験実習を行う ④地域活動の体験を通して、社会人としての心構えを学び、豊かな自己表現力を身につける ⑤自分に適した幅広い視野で職業選択ができる ⑥自らの人生設計が組み立てられるようにする
到達目標	（１）「仕事とは何か」「社会で働く」ことを考えることができる。（態度・志向性） （２）利益や営利、経済合理性追求だけではない、現在進行形の「地域活動」と「働く場」を理解することができる。（態度・志向性） （３）専攻の分野が地域社会でどのように役立つかを考えることができる。（態度・志向性） （４）様々な業界・業種の実態や職場・地域のルール、マナーを理解し、就職などのキャリアデザインに活かすことができる。（態度・志向性）
授業計画	【事前学習】 ＜7月6日（土）9時～15時　キャリアのインターンシップと合同＞ 第1回　インターンシップの意義（意義・目的の確認） 第2回　業界・業種（非営利組織や地域活動関連企業も含む）、企業のインターンシップの現状について 第3回　キャリア開発における自己分析と企業研究（プレゼンテーション）：PC持参 第4回　自己分析と研修先の企業研究（プレゼンテーション）：PC持参 【夏休み中実習】 第5回～第13回　現地実習（実習時間は10日間（1日8時間）を原則とする。 【事後学習】 ＜10/12（土）9:00～15:00　＞ 第14回　インターンシップの振り返り（研修先の団体等の特徴とまとめ：プレゼンテーション）：PC持参 第15回　インターンシップの総括：PC持参
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	あらかじめ実習、派遣研修先の活動内容をよく調べて、理解しておく（5時間）。 インターンシップで何を実習し、なにを学ぶのかを考えておく（5時間）。
授業方法	集中講義。 各種団体の職場で就業体験実習を行う。
評価基準と評価方法	事前の準備とその姿勢（20%）、事後報告レポート（20%）、実習先の研修態度と授業参加姿勢など総合的評価（60%）
履修上の注意	授業への積極的な参加が重要です。また、企業とのマッチングなどでご連絡することが多々あります。必ずmanabaでの連絡事項をしっかりみておいて下さい。 実習すなわち派遣研修は夏休みなどの休暇中に実施するので、日程については各自注意すること。 実習中は、実習先の指導に従い、実習先・大学ともに報告・連絡・相談を密にすること。 実習に伴う交通費などは自己負担となる。

教科書	プリントを配布
参考書	随時紹介する

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	青谷　実知代					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0308A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	①地域活性化につながるブランド・マーケティングの在り方を理解し、商品企画・開発を目指す。 ②デジタル社会の変化を捉え消費者のニーズを把握する。
授業の概要	マーケティングにおける基礎知識や方法を実践しながら身につける。 具体的には、商品（イベントも含む）の企画・立案をするために必要な調査方法（仮説構成、様々な調査方法の特徴、調査項目の設定、調査票の作成、分析、報告書）を学び、市場の実態を具体的に捉える。 さらに、一連のプロセスを経験させ、理解したうえで、企画書を作成し、実際にプレゼンテーションを実施する。 【テーマ】 地域や企業の成り立ちから現在に至るまでのプロセスを学び「伝統・文化・事業の継承」を軸にブランドの視点から理解を深めていく。 その上で、次世代につなぐ新たな取り組みをするために創造性を膨らませ、商品企画に取り組む。 企画案の創出には、質的データから得られた情報の分析結果と量的データから得られた統計的分析結果との関連性・相違性を把握し、その上で、総合的なブランド・マーケティングでまとめていく。 最終的には実務家に向けプレゼンテーションが実施できるよう目指していく。
到達目標	①商品の企画・立案の方法を学び、応用しながら実践することができる。（態度・志向性） ②マーケティングの方法論をどのように実践するのか理解することができる。（知識・理解） ③調査データを読み取り、商品につなげ工夫することができる。（汎用的技能）
授業計画	第１回. 演習で取り上げるテーマと取り組み方法 第２回. マーケティングを実践することの意義 第３回. 調査目的の明確化①（フィールドワークを実施する） 第４回. 調査目的の明確化②（フィールドワークを実施する） 第５回. 調査枠組みの検討①【PC必携】 第６回. 調査枠組みの検討②【PC必携】 第７回. 質的調査を行うための仮設設定【PC必携】 第８回. 量的調査を行うための仮説設定【PC必携】 第９回. 調査票の素案作りとその方法【PC必携】 第10回. 調査票の作成・完成とプレテスト【PC必携】 第11回. インタビュー調査実施（テープおこし）【PC必携】 第12回. アンケート調査の実施（学内・学外にて）【PC必携】 第13回. 調査収集とまとめ【PC必携】 第14回. 調査結果についてのプレゼンテーション【PC必携】 第15回. 調査結果についてのプレゼンテーション【PC必携】
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】課題設定を行うためにも人・モノ・情報・環境、全てにおいて常に変化していることの観察力を磨き、まとめておくこと（学習時間：2時間） 【授業後】議論やディスカッションを通して、課題について考え（アイデア）、まとめる（レポート作成も含める）（学習時間：2時間）
授業方法	演習形式（BYOD対象科目） ・課題解決型学修 ・反転授業 ・ディスカッション、ディベート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・フィールドワーク
評価基準と評価方法	企画力（アイデア出し）のまとめかた（20%） グループディスカッション（20%） レポート（30%）、プレゼン発表などによる総合評価（30%）
履修上の注意	①グループ作業をするので各自責任を持って挑んでください。 ②授業への積極的な参加が重要。 ③データ収集や現場視察のため学外実習もある。入場料や交通費などは実費負担となる。 ④好奇心旺盛に楽しむことが必要！ ⑤固定観念を持たないで前に進みましょう。 アクティブラーニング（ディスカッション、グループワークなど）を積極的に取り入れる。
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）

参考書	陶山計介・室博・小菅謙一・羽藤雅彦・青谷実知代編著、『地域創成と観光』千倉書房、2022年、ISBN978-4-8051-1273-1

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	岩田　英以子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0308A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	家計レベルから世界レベルまで、各自の関心に合わせた経済問題に取り組み、その過程で経済的知識とその実践手法の修得を目指す。
授業の概要	都市生活演習Aは、4年次に都市生活に関する領域の中から学生が関心を持つ領域で。卒業研究を行うために必要となる基本的な知識の習得および研究法の習得を目的としている。先行研究からテーマを設定する方法、研究方法の選択、得られたデータをまとめる方法などを学びながら、実際に学生自ら実施し、レポートをまとめ、発表する。それらの過程を通して、自分で都市生活に関わるテーマを選び、その研究計画を立てて実行できる基礎的な能力を身につけることが期待される。
到達目標	(1)「社会にどのような経済問題が存在するかを見つけ出し、その原因を明らかにするために、どのような理論・データ分析が必要になるかを理解することができる」【知識・理解】 (2)「各自が取り組んでいる経済問題を具体的かつ詳細に説明できる」【汎用的技能】 (3)「各自が4年次で作成する卒業論文のために必要な研究手法を修得することができる」【態度・志向性】
授業計画	第1回　ガイダンス〔PC必携〕 第2回　自己紹介①〔PC必携〕 第3回　自己紹介②〔PC必携〕 第4回　研究とは：研究に始めるにあたって、研究テーマの決定、研究の目的と学術的意義、問題の立て方と回答様式〔PC必携〕 第5回　先行研究のレビュー：先行研究と文献情報、文献情報の把握、先行研究の内容点検、先行研究の整理・要約〔PC必携〕 第6回　図書館とインターネットを使った資料収集〔PC必携〕 第7回　コピペ、引用、脚注：コピペ、文化庁の「引用における注意事項」、本学のガイドライン「論文・レポート・作品等提出に関する注意」、引用、脚注、WORDでの脚注と文末脚注の挿入〔PC必携〕 第8回　ディスカッション・グループワーク（１）〔PC必携〕 第9回　ディスカッション・グループワーク（２）〔PC必携〕 第10回　ディスカッション・グループワーク（３）〔PC必携〕 第11回　ディスカッション・グループワーク（４）〔PC必携〕 第12回　クラス内プロジェクト発表（１）〔PC必携〕 第13回　クラス内プロジェクト発表（２）〔PC必携〕 第14回　クラス内プロジェクト発表（３）〔PC必携〕 第15回　振り返り、まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：指示された課題や内容を、次の授業までに準備する。（学習時間：2時間） 授業後学習：各自の課題の達成に向けて振り返りを行い、成果物を提出する。（学習時間：2時間）
授業方法	演習：グループで設定したテーマに即した課題に取り組むこと。＜BYOD対象科目＞ フィールドワーク（学外）を実施する可能性がある。
評価基準と評価方法	1. 平常点：２０％　（各回の学生の授業への参加度、ペアやグループワークへの取り組み） 2. 成果物評価：４０％（プロジェクト完成度及び完成品） 3. 客観評価：４０％　（課題、学習者同士による評価）
履修上の注意	・各自が課題やプロジェクト達成に向けて事前準備をし、参考資料やデータ等を集め持参することが求められる。 ・フィールドワークに伴う交通費などは自己負担となる。
教科書	プリントを配布する。
参考書	授業中に適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	川口　真規子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0308A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	食を通じて地域の活性化に貢献することができる新しい商品の提案や食品素材の提案を行う。 また、このテーマを遂行するためのプレゼンテーション技術や論理的な思考に基づいた提案方法を修得する。
授業の概要	本演習は、4年次の卒業研究を行うために必要となる基本的な知識の習得および研究法の習得を目的としている。 原則的には個別指導とし、研究の内容によって調査、試作（調理）、実験をグループで行う。 成果は授業終了時に発表し、演習の仕上げとする。
到達目標	１）次年度の卒業研究に必要な種々の調査方法について理解する。【知識・理解】 ２）新商品提案などに必要とされる試作、実験の方法などの知識と技術を基礎から積み上げ、修得する。 【知識・理解】【汎用的技術】 ３）成果をレポートにまとめ、さらに効果的なプレゼンテーションができる。【汎用的技術】 ４）自身の持つ興味・関心を具体的な研究テーマに反映することができる【態度・志向性】
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　効率的な研究計画の立て方 第３回　文献の調査方法　《PC必携》 第４回　学術論文の読み方　《PC必携》 第５回　研究テーマを決める　《PC必携》 第６回　研究に必要な手法を探る　《PC必携》 第７回　研究計画を立てる　《PC必携》 第８回　各自の研究について　個別指導 第９回　各自の研究について　個別指導 第１０回　各自の研究について　個別指導 第１１回　各自の研究について　個別指導 第１２回　各自の研究について　個別指導 第１３回　各自の研究について　個別指導 第１４回　各自の研究について　中間報告会 第１５回　後期研究打ち合わせ　《PC必携》
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目のため、原則として授業時間内にデータ整理、考察などのすべての学習を行う。 ただし、中間報告会（プレゼンテーション）のための準備（資料取集・レジュメ作成）は授業外に行う。（学習時間：4時間）
授業方法	講義、演習、実習、実験 《BYOD科目》
評価基準と評価方法	授業態度（３０％）：到達目標２）４）の達成度の確認。 プレゼンテーション（７０％）：到達目標１）２）３）４）の達成度の確認。
履修上の注意	研究テーマによってはフィールドワークなど、授業外の時間も使う場合がある。 試作・実験時は2コマ続きの変則的な授業時間になる可能性もある。
教科書	なし
参考書	授業時に適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	鳥居　さくら					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0308A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学研究法の習得
授業の概要	都市生活演習Ａは、４年次に都市生活に関する領域の中から学生が関心をもつ領域で卒業研究を行うために必要となる基本的な知識の習得および研究法の習得を目的としている。先行研究からテーマ設定する方法、研究方法の選択、得られたデータをまとめる方法などを学びながら実際に学生自ら実施し、レポートにまとめ、発表する。それらの過程を通して、自分で都市生活に関わるテーマに関する研究の計画を立て実行できる基礎的な能力を身につけることが期待される。 心理学実験の心理学研究法に関する演習であり、心理学に関する研究法の基礎知識の習得を目的とする。
到達目標	1.グループで実験を立案し、計画的に進めていくことができる。[態度・志向性] 2.先行研究からテーマを考え、データを図表にまとめ、統計処理をおこない、レポートにまとめたり発表することができる。[汎用的技能][態度・志向性]
授業計画	1.ガイダンス　[PC必携] 2.レポートの書き方　[PC必携] 3.文献検索の仕方　[PC必携] 4.研究における留意点　[PC必携] 5.テーマの設定　[PC必携] 6.実験計画法(1)-解説-　[PC必携] 7.実験計画法(2)-実施-　[PC必携] 8.心理学実験法(1)-解説-　[PC必携] 9.心理学実験法(2)-実施-　[PC必携] 10.実験の実施　[PC必携] 11.データ処理(1)-解説-　[PC必携] 12.データ処理(2)-実施-　[PC必携] 13.統計(1)-解説-　[PC必携] 14.統計(2)-実施-　[PC必携] 15.まとめ　[PC必携]
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこなう。(学習時間：2<時間>) 授業後学習：授業時間で仕上がらなかった実験のまとめや、レポートを作成する。(学習時間：2<時間>)
授業方法	実習・演習形式でおこなう。 授業は一連の研究の流れに沿って進める。先行研究からテーマ設定する方法、実験計画法、実際に実験もしくは調査を行う際の心理学実験法、得られたデータ処理に関する統計処理法を教員が解説した後に、学生がグループでその手続きに則って実施し、レポートにまとめ、発表し、それに対しさらに教員が解説を加え定着を図る。 manabaを利用し小テストやアンケートなどにデータ入力をおこなう授業回もある。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	実習への取り組みの態度(40%)：グループ活動における積極性、協調性を評価する。到達目標1に関する到達度の確認。 レポート(60%)：図表の適切さ、統計処理の適切さを、考察の論理性を評価する。到達目標2に関する到達度の確認。松蔭manabaに提出された課題は松蔭manabaでフィードバックする。
履修上の注意	毎回出席することが原則である。都合により欠席する場合は、教員に事前に連絡し、次回までに補っておくようにする。 必要な資料やデータの収集のため、学外で授業を行う場合があるので、入場料、交通費などの実費負担がある。
教科書	なし。プリントを適宜配布する。
参考書	「心理学マニュアル 要因計画法」　北大路書房　ISBN: 978-4762821967 「心理学マニュアル 質問紙法」　北大路書房　ISBN: 978-4762821097

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	花田　美和子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0308A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	都市生活での学び（主に衣生活学系の科目および色彩学）を応用し、地域貢献に結びつける。 地域連携の活動を通して地域社会から学ぶ。
授業の概要	神戸市北区の農業生産者等との共同プロジェクトとして、花卉、野菜などの農産物を使った企画を実施する。 神戸市灘区・北区の地域協働課との地域連携活動を実施する。 神戸市西区の農業生産者との共同プロジェクトとして、神戸産のビオラ苗を使った大学構内の色彩計画を進める。 地域連携の発表の場として松蔭祭でブース展示の計画を立てる。
到達目標	プロジェクトの中で役割を果たしながら、得意なことを生かし、不得意なことにも向き合えるようになる。【態度・指向性】 都市生活専修でこれまでに学んだ専門知識を再確認し、応用できるようになる。【汎用的技能】
授業計画	第１回：ガイダンス、神戸野菜の生産者との共同プロジェクト説明 第２回：Web用写真撮影ワークショップ(ゲストスピーカー) 第３回：野菜アクセサリー”ヘタに真珠”① 手順の確認、デザイン案 第４回：野菜アクセサリー”ヘタに真珠”② プロトタイプの作成 第５回：野菜アクセサリー”ヘタに真珠”③ 商品の製作 第６回：野菜アクセサリー”ヘタに真珠”④ 商品の製作 第７回：神戸市北区との共同プロジェクト説明 第８回：神戸市北区との共同プロジェクト①、染色の試作 第９回：神戸市北区との共同プロジェクト②、染色の試作 第１０回：神戸市北区との共同プロジェクト②、イベントの準備 第１１回：松蔭ビオラプロジェクトコンペの準備［PC必携］ 第１２回：松蔭ビオラプロジェクトコンペの集計［PC必携］ 第１３回：松蔭ビオラプロジェクトコンペ、結果発表、ビオラ発注［PC必携］ 第１４回：松蔭祭でのブース展示の企画［PC必携］ 第１５回：まとめ、最終課題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	企画案作成と試作品と商品の製作（2時間） 学外研修（時期はプロジェクトの進捗状況等による）や時間外の活動など、授業時間外（土日）の学習（2時間）
授業方法	演習、実験、実習、学外研修、ゲストスピーカーによるワークショップ BYOD対象科目
評価基準と評価方法	平常点80%、課題20% 平常点はプロジェクト等への取り組みを総合的に評価する。
履修上の注意	１．授業時間外の活動にも可能な限り参加すること。 ２．学外研修は交通費等自己負担あり。 ３．授業全般にわたってPCの携行を推奨する。
教科書	必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	青谷　実知代					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0308B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	①マーケティングの考え方を地域経営に応用し、ブランド力を高める商品企画・開発を目指す。 ②社会の変化を捉え消費者のニーズを把握する。
授業の概要	都市生活演習Aで身につけた基礎的なマーケティング知識を応用し、よりハイレベルな商品企画・立案を目指す。 そのために、他大学も参画するプロジェクトに参加しながら、調査分析を応用し、社会でも通用するは企画・立案（プレゼンテーションも含む）について学ぶ解する 【テーマ】 他府県の抱える課題について取り組み、解決策を導く。（万博を考慮した取り組み） 前期と同様に、質的データから得られた情報の分析結果と量的データから得られた統計的分析結果との関連性・相違性を把握し、その上で自らの企画を提案する。その提案には、行政をはじめ関連業界の担当者や実務家の前で 実践することを目指す。
到達目標	①商品の企画・立案の方法を学び、より具体的に実践することができる。（態度・志向性） ②マーケティングの方法論をどのように実践するのか理解することができる。（知識・理解） ③調査データを読み取り、具体的な商品につなげることができる。（汎用的技能）
授業計画	第1回. アイデア創出方法【PC必携】 第2回. グループディスカッションでアイデアをまとめる【PC必携】 第3回. 商品開発の企画・立案の方法①（制作）【PC必携】 第4回. 商品開発の企画・立案の方法②（プレゼン）【PC必携】 第5回. マーケティングの企画書作成（マーケティングの理論展開）【PC必携】 第6回. 調査実施①（フィールドワーク）：アイデアのまとめ方【PC必携】 第7回. 調査実施②（フィールドワーク）：アイデアと理論展開の関係性【PC必携】 第8回. 調査分析（データ入力と集計、分析）①【PC必携】 第9回. 調査分析（データ入力と集計、分析）②【PC必携】 第10回. 中間プレゼンテーション①【PC必携】 第11回. 中間プレゼンテーション②【PC必携】 第12回. 企画書作成【PC必携】 第13回. プレゼン準備と最終確認【PC必携】 第14回. 最終プレゼン発表①【PC必携】 第15回. 最終プレゼン発表②【PC必携】 ※夏期休暇中に実践的な研修を行う（カレッジに参加）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】課題設定をしっかり行うために、人・モノ・情報・環境、全てにおいて常に変化していることの観察力を磨いておくこと。またプレゼンテーションの知識を身につけていくために練習をし、レポートにしてまとめておくこと（学習時間：2時間） 【授業後】ディスカッションを通して、分析や調査方法などを考え、アイデアをまとめていく（学習時間：2時間） ※夏季休暇中にフィールドワークがあります（地域プロジェクトに参加予定）
授業方法	演習形式（BYOD対象科目） ・課題解決型学修 ・反転授業 ・ディスカッション、ディベート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・フィールドワークを取り入れる。
評価基準と評価方法	企画力（アイデア出し）（20%）、グループディスカッション（20%）、レポート（30%）、プレゼン発表などによる総合評価（30%）
履修上の注意	①グループ作業をするので各自責任を持って挑んでください。 ②授業への積極的な参加が重要。 ③データ収集や現場視察のため学外実習もある。入場料や交通費などは自己負担となる。 ④好奇心旺盛に楽しむことが必要！ ⑤固定観念を持たないで前に進みましょう。 アクティブラーニングを積極的に取り入れる。 ⑦学外実習に伴う交通費や入館料、参加費等は自己負担となる。
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）

参考書	陶山計介・室博・小菅謙一・羽藤雅彦・青谷実知代編著『地域創生と観光』千倉書房、2022年、ISBN978-4-8051-1273-1

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	岩田　英以子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0308B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	家計レベルから世界レベルまで、各自の関心に合わせた経済問題に取り組み、その過程で経済的知識とその実践手法の修得を目指す。
授業の概要	都市生活演習Bは、都市生活演習Ａの成果をもとに、さらに都市生活に関する複雑な調査や実験を実施することが可能になるよう、規模を拡大し、レベルアップした研究法を習得し、実行力を身につけることを目的としている。規模の拡大に伴い、複数の学生で協力して実行していく場合もある。それらの過程を通して、最終的には自分で都市生活に関わるテーマを選び、その研究計画を立てて実行でき、発展させることのできる能力を身につけることが期待される。
到達目標	(1)「社会にどのような経済問題が存在するかを見つけ出し、その原因を明らかにするために、どのような理論・データ分析が必要になるかを理解することができる」【知識・理解】 (2)「各自が取り組んでいる経済問題を具体的かつ詳細に説明できる」【汎用的技能】 (3)「各自が4年次で作成する卒業論文のために必要な研究手法を修得することができる」【態度・志向性】
授業計画	第1回　ガイダンス〔PC必携〕 第2回　論文とは：論文とは、序論の役割、序論の構成、背景説明、問題提起、方向付け、全体の予告、本論の役割、本論を書くときに注意すること、本論の構成、論拠を書くときに注意すること、データ提示、意見提示、結論提示、行動提示、論の展開、結びの役割、結びの構成、全体のまとめの構成〔PC必携〕 第3回　理論と分析枠組：アプローチ、観点、理論、分析枠組、因果関係、変数、因果関係を正しく抽出するための方法、相関関係、見せかけの相関、交絡因子、逆の因果関係〔PC必携〕 第4回　論理的説明と論理的思考：論理的説明、論理的説明と説明の順序、個別の要因と複雑な結果、論理的説明とエビデンス〔PC必携〕 第5回　エビデンスの提示：事実資料とエビデンス、エビデンス提示と検証方法の選択、データの性格、事実の紹介とエビデンス〔PC必携〕 第6回　レポートのテーマ決定〔PC必携〕 第7回　データ収集と図表作成①〔PC必携〕 第8回　データ収集と図表作成②〔PC必携〕 第9回　コピペ、引用、脚注(再確認)〔PC必携〕 第10回　レポート作成のルール(再確認)〔PC必携〕 第11回　課題提出の準備①〔PC必携〕 第12回　課題提出の準備②〔PC必携〕 第13回　課題提出の準備③〔PC必携〕 第14回　課題提出の準備④〔PC必携〕 第15回　課題提出〔PC必携〕
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献資料を図書館、論文検索システム、web検索で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：研究テーマの内容を見直し、課題提出の準備を進めること(学習時間：2時間)
授業方法	演習：個人で設定したテーマに即した課題に取り組むこと。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・授業中の課題(50%)：授業中に出した課題を通じて内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・課題提出(50%)：成果物の内容を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。
履修上の注意	各自が課題に向けて事前準備をし、参考資料やデータ等を集め持参することが求められる。
教科書	プリントを配布する。
参考書	授業中に適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	川口　真規子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0308B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	食を通じて地域の活性化に貢献することができる新しい商品の提案や食品素材の提案を行う。 またこのテーマを遂行するためのプレゼンテーション技術や論理的な思考に基づいた提案方法を修得する。
授業の概要	本演習は、都市生活演習Aでの成果をもとに、さらに複雑な調査や実験を実施することが可能になるような知識と技術の習得を目的としている。 これにより、4年次の卒業研究を行うために必要となる知識の習得および研究法の習得を目指す。原則的には各自で設定したテーマを個別指導するが、研究の内容によっては調査、試作（調理）、実験をグループで行う。
到達目標	１）次年度の卒業研究に必要な種々の調査方法について適切に選択できる。【知識・理解】 ２）試作、実験の方法などの知識と技術を基礎から積み上げ、修得する。【知識・理解】 ３）成果をまとめ、効果的なプレゼンテーションができる。【汎用的技能】 ４）食に関わる事柄について興味・関心を持ち、自身の研究テーマを設定できる。【態度・志向性】
授業計画	第１回　各自の研究について　個別指導 第２回　各自の研究について　個別指導 第３回　各自の研究について　個別指導 第４回　各自の研究について　個別指導 第５回　各自の研究について　個別指導 第６回　各自の研究について　個別指導 第７回　各自の研究について　個別指導 第８回　研究のまとめ方について 第９回　報告会　準備　《PC必携》 第１０回　報告会　準備　《PC必携》 第１１回　報告会　準備　《PC必携》 第１２回　報告会　準備　《PC必携》 第１３回　報告会　準備　《PC必携》 第１４回　報告発表会 第１５回　まとめ　次年度卒業研究にむけて
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目のため、原則として授業時間内にデータ整理、考察などのすべての学習を行う。 ただし、報告会（プレゼンテーション）のための準備（資料取集・レジュメ作成）は授業外に行う。（学習時間：4時間）
授業方法	講義、演習、実習、実験 実験・実習に関しては曜日・時限を変更して2コマ連続で実施する場合がある。 《BYOD科目》
評価基準と評価方法	授業態度（70%）：積極性、協調性などで評価する。到達目標２）、４）の確認。 プレゼンテーション（30%）：報告会の準備・プレゼンテーション及び質疑応答の的確さについて総合的に評価する。到達目標１）３）４）の確認。
履修上の注意	研究テーマによってはフィールドワークなど、授業外の時間も使う場合あり
教科書	なし
参考書	授業中に適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	鳥居　さくら					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0308B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学研究法の習得
授業の概要	都市生活演習Ｂは、都市生活演習Ａの成果をもとに、さらに都市生活に関する複雑な調査や実験を実施することが可能になるよう、規模を拡大しレベルアップした研究法を習得し、実行力を身につけることを目的としている。規模の拡大に伴い、複数の学生で協力して実行していく場合もある。それらの過程を通して、最終的には自分で都市生活に関わるテーマに関する研究の計画を立て実行でき、発展させることのできる能力を身につけることが期待される。 心理学調査の心理学研究法に関する演習であり、心理学に関する研究法の基礎知識の習得を目的とする。
到達目標	1.グループで調査を立案し、計画的に進めていくことができる。[態度・志向性] 2.先行研究からテーマを考え、データを図表にまとめ、統計処理をおこない、レポートにまとめたり発表することができる。[汎用的技能][態度・志向性]
授業計画	1.ガイダンス　[PC必携] 2.実験計画法(1)-解説-　[PC必携] 3.実験計画法(2)-実施-　[PC必携] 4.心理学調査法(1)-評価対象について-　[PC必携] 5.心理学調査法(2)-評価項目について-　[PC必携] 6.心理学調査法(3)-評価用紙の作成-　[PC必携] 7.調査(1)-準備-　[PC必携] 8.調査(2)-実施-　[PC必携] 9.データ処理(1)-解説-　[PC必携] 10.データ処理(2)-逆転項目の処理-　[PC必携] 11.統計(1)-記述統計の方法-　[PC必携] 12.統計(2)-推測統計の方法-　[PC必携] 13.統計(3)-多変量解析の方法-　[PC必携] 14.報告　[PC必携] 15.まとめ　[PC必携]
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献講読、調査や発表の準備をおこなう。(学習時間：2<時間>) 授業後学習：授業時間で仕上がらなかった実験のまとめや、レポートを作成する。(学習時間：2<時間>)
授業方法	実習・演習形式でおこなう。 授業は一連の研究の流れに沿って進める。先行研究からテーマ設定する方法、実験計画法、実際に実験もしくは調査を行う際の心理学実験法、得られたデータ処理に関する統計処理法を教員が解説した後に、学生がグループでその手続きに則って実施し、レポートにまとめ、発表し、それに対しさらに教員が解説を加え定着を図る。 manabaを利用し小テストやアンケートなどにデータ入力をおこなう授業回もある。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	実習への取り組みの態度(40%)：グループ活動における積極性、協調性を評価する。到達目標1に関する到達度の確認。 レポート(60%)：図表の適切さ、統計処理の適切さを、考察の論理性を評価する。到達目標2に関する到達度の確認。松蔭manabaに提出された課題は松蔭manabaでフィードバックする。
履修上の注意	毎回出席することが原則である。都合により欠席する場合は、教員に事前に連絡し、次回までに補っておくようにする。 必要な資料やデータの収集のため、学外で授業を行う場合があるので、入場料、交通費などの実費負担がある。
教科書	なし。プリントを適宜配布する。
参考書	「心理学マニュアル 要因計画法」　北大路書房　ISBN: 978-4762821967 「心理学マニュアル 質問紙法」　北大路書房　ISBN: 978-4762821097

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	花田　美和子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0308B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	都市生活での学び（主に衣生活学系の科目および色彩学）を生かした地域連携活動の実施
授業の概要	神戸市灘区の地域連携イベントでワークショップを担当する。 神戸市西区の農業生産者との共同プロジェクトとして、神戸産のビオラ苗を使った大学構内の色彩計画の実施とプロモーション活動をおこなう。 地域連携の発表の場として松蔭祭でブース展示をおこなうとともに、服のリユース交換会を実施する。 卒業研究のテーマ設定に関する課題に取り組む。
到達目標	都市生活専修で学んだ専門知識を応用して、地域連携活動を計画することができる。【汎用的技能】 地域連携活動やワークショップを通して、実践的態度を養い新たな視点を得る【態度・指向性】 卒業研究のテーマ設定に向けて文献調査等を行い、方向性を定める【態度・指向性】
授業計画	第１回：神戸市灘区のイベント準備（ネイチャークラフト） 第２回：松蔭祭準備 服のリユース、ヘタに真珠、その他① 第３回：松蔭祭準備 服のリユース、ヘタに真珠、その他② 第４回：松蔭祭準備 服のリユース、ヘタに真珠、その他③ 第５回：松蔭祭準備 服のリユース、ヘタに真珠、その他④ 第６回：松蔭祭、ブース展示の準備① [PC必携] 第７回：松蔭祭、ブース展示の準備② [PC必携] 第８回：松蔭ビオラプロジェクト、プロモーション活動 第９回：松蔭祭ふりかえり 第１０回：服のリユース、まとめ① [PC必携] 第１１回：服のリユース、まとめ② [PC必携] 第１２回：ゲストスピーカーによる寄せ植え講座 第１３回：花のあるくらし、SNSによる情報発信 第１４回：卒業研究に向けてのディスカッション① [PC必携] 第１５回：卒業研究に向けてのディスカッション② [PC必携]
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	企画案作成と試作品と商品の製作（2時間） 学外研修（時期はプロジェクトの進捗状況等による）や時間外の活動など、授業時間外（土日）の学習（2時間）
授業方法	演習、実験、実習、学外研修、ゲストスピーカーによるワークショップ BYOD対象科目
評価基準と評価方法	平常点:80点、課題:20点 平常点はプロジェクト等への参加度、課題への取り組み等を総合的に評価する。
履修上の注意	１．授業時間外の活動にも可能な限り参加すること。 ２．交通費等自己負担あり。 ３．授業全般にわたってPCの携行を推奨する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習A						
担当教員	青谷　実知代					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0207A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Aの目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。
到達目標	(1)「個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる」【知識・理解】 (2)「論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる」【汎用的技能】 (3)「自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができる」【態度・志向性】
授業計画	第1回　ガイダンス〔PC必携〕 第2回　自己紹介①：1stグループ〔PC必携〕 第3回　自己紹介②：2ndグループ〔PC必携〕 第4回　研究手法①：テーマと問題意識の設定、先行研究のサーベイ〔PC必携〕 第5回　研究手法②：コピペと引用、参考文献の挙げ方〔PC必携〕 第6回　研究手法③：事実確認と論理的解釈〔PC必携〕 第7回　Excelによる図表作成①：データの種類と収集方法〔PC必携〕 第9回　Excelによる図表作成②：既存のデータによる図表の作成〔PC必携〕 第10回　Excelによる図表作成③：テーマに関連するデータによる図表の作成〔PC必携〕 第11回　パワーポイントの使い方〔PC必携〕 第12回　定性的調査の方法〔PC必携〕 第13回　定性的調査の実践〔PC必携〕 第13回　学外研修・見学 第14回　プロジェクトの決定：1stグループ〔PC必携〕 第15回　プロジェクトの決定：2ndグループ〔PC必携〕
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献資料を図書館、論文検索システム、web検索で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションすること(学習時間：2時間)
授業方法	演習：各回のテーマに即した課題にPCを使いながら、グループワークまたは個人ワークによって取り組むこと。 ＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：授業中に出した課題を通じて内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：発表内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。
教科書	特に使用しない。
参考書	授業中に適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習A						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0207A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Aの目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。
到達目標	(1)「個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる」【知識・理解】 (2)「論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる」【汎用的技能】 (3)「自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができる」【態度・志向性】
授業計画	第1回　ガイダンス〔PC必携〕 第2回　自己紹介①：1stグループ〔PC必携〕 第3回　自己紹介②：2ndグループ〔PC必携〕 第4回　研究手法①：テーマと問題意識の設定、先行研究のサーベイ〔PC必携〕 第5回　研究手法②：コピペと引用、参考文献の挙げ方〔PC必携〕 第6回　研究手法③：事実確認と論理的解釈〔PC必携〕 第7回　Excelによる図表作成①：データの種類と収集方法〔PC必携〕 第9回　Excelによる図表作成②：既存のデータによる図表の作成〔PC必携〕 第10回　Excelによる図表作成③：テーマに関連するデータによる図表の作成〔PC必携〕 第11回　パワーポイントの使い方〔PC必携〕 第12回　定性的調査の方法〔PC必携〕 第13回　定性的調査の実践〔PC必携〕 第13回　学外研修・見学 第14回　プロジェクトの決定：1stグループ〔PC必携〕 第15回　プロジェクトの決定：2ndグループ〔PC必携〕
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献資料を図書館、論文検索システム、web検索で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションすること(学習時間：2時間)
授業方法	演習：各回のテーマに即した課題にPCを使いながら、グループワークまたは個人ワークによって取り組むこと。 ＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：授業中に出した課題を通じて内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：発表内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。
教科書	特に使用しない。
参考書	授業中に適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	青谷　実知代					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0207B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Bの目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評定、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し定めていくことになる。
到達目標	(1)「プロジェクトをデザインする力を身につけることができる」【知識・理解】 (2)「問題解決能力を高めることができる」【汎用的技能】 (3)「3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる」【態度・志向性】
授業計画	第1回　ガイダンス〔PC必携〕 第2回　夏休みの課題報告①：1stグループ〔PC必携〕 第3回　夏休みの課題報告②：2ndグループ〔PC必携〕 第4回　プロジェクトの中間発表準備①：データの収集〔PC必携〕 第5回　プロジェクトの中間発表準備②：EXCELによる図表の作成〔PC必携〕 第6回　プロジェクトの中間発表準備③：PPTによるスライドの作成〔PC必携〕 第7回　プロジェクトの中間発表①：1stグループ〔PC必携〕 第8回　プロジェクトの中間発表②：2ndグループ〔PC必携〕 第9回　プロジェクトの最終発表準備①:中間報告のフィードバック〔PC必携〕 第10回　プロジェクトの最終発表準備②：追加調査〔PC必携〕 第11回　プロジェクトの最終発表準備③：図表の修正〔PC必携〕 第12回　プロジェクトの最終発表準備③：スライドの修正〔PC必携〕 第13回　プロジェクトの最終発表①：1stグループ〔PC必携〕 第14回　プロジェクトの最終発表②：2ndグループ〔PC必携〕 第15回　学びの総括と3年次以降の学び〔PC必携〕
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献資料を図書館、論文検索システム、web検索で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションすること(学習時間：2時間)
授業方法	演習：グループワークあるいは実習・フィールドワークによって、各プロジェクトチームがそれぞれ設定したテーマに取り組み、その成果発表(プレゼンテーション)を行う。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：授業中に出した課題を通じて内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：発表内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。
教科書	特に使用しない。
参考書	授業中に適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U0207B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Bの目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評定、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し定めていくことになる。
到達目標	(1)「プロジェクトをデザインする力を身につけることができる」【知識・理解】 (2)「問題解決能力を高めることができる」【汎用的技能】 (3)「3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる」【態度・志向性】
授業計画	第1回　ガイダンス〔PC必携〕 第2回　夏休みの課題報告①：1stグループ〔PC必携〕 第3回　夏休みの課題報告②：2ndグループ〔PC必携〕 第4回　プロジェクトの中間発表準備①：データの収集〔PC必携〕 第5回　プロジェクトの中間発表準備②：EXCELによる図表の作成〔PC必携〕 第6回　プロジェクトの中間発表準備③：PPTによるスライドの作成〔PC必携〕 第7回　プロジェクトの中間発表①：1stグループ〔PC必携〕 第8回　プロジェクトの中間発表②：2ndグループ〔PC必携〕 第9回　プロジェクトの最終発表準備①:中間報告のフィードバック〔PC必携〕 第10回　プロジェクトの最終発表準備②：追加調査〔PC必携〕 第11回　プロジェクトの最終発表準備③：図表の修正〔PC必携〕 第12回　プロジェクトの最終発表準備③：スライドの修正〔PC必携〕 第13回　プロジェクトの最終発表①：1stグループ〔PC必携〕 第14回　プロジェクトの最終発表②：2ndグループ〔PC必携〕 第15回　学びの総括と3年次以降の学び〔PC必携〕
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献資料を図書館、論文検索システム、web検索で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションすること(学習時間：2時間)
授業方法	演習：グループワークあるいは実習・フィールドワークによって、各プロジェクトチームがそれぞれ設定したテーマに取り組み、その成果発表(プレゼンテーション)を行う。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：授業中に出した課題を通じて内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：発表内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。
教科書	特に使用しない。
参考書	授業中に適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活論						
担当教員	江　弘毅					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U01050
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	現在進行形の都市生活から「まち」「都市」「都会」とはなにかを概観し、具体的な都市を読み解く。
授業の概要	前半は、まちに関心をもってもらえるような具体的な事例（最寄りの駅前など）を取り上げながら、「まちを読み解く 」ことを主眼に、都市の成り立ちも含めたハード面や、都市生活上のソフト面を解説し、これからの都市生活の課題や展望について考えていく。 後半は、都市生活の基底、すなわち高度に発達した情報システムを軸としたメディアと情報リテラシーの問題、インターネットと変貌する都市空間、消費社会と欲望、資本制と価値、貨幣および交換・贈与、公共、都市生活においての実名性と匿名性などから、都市生活〜文化を考察する基礎知識と態度を身につける。
到達目標	（1）近代〜現在の都市生活を知り、自分にとっての「まち」を考察することができる。(知識・理解) （2）高度情報化社会の中の「まち」を情報化、記述し、都市情報を発信することができる。（知識・理解） （3）「まちづくり」に参画することができる。（態度・志向性）
授業計画	第１回　この都市生活論で学ぶこと 第２回　まちを読み解く１　「まちヨミ」してみよう（まちを読み解いていこう） 第３回　まちを読み解く２　「まちヨミ」の切り口。何から読み解くか 第４回　まちを読み解く３　みなさんの「駅前」から読み解く→中間試験 第５回　街と商業施設。大阪／アメリカ村・南船場・堀江・中崎町　神戸／トアウエスト・乙仲通りを例に 第６回　インターネットが都市生活に入ってきた 第７回　コンビニ的消費社会と都市空間 第８回　情報化、記号化、広告化される都市空間 第９回　「ブランドもの」と象徴価値 第10回　おカネ＝貨幣について。交換と贈与 第11回　都市生活と消費者マインド 第12回　都市生活と情報。メディア・リテラシー 第13回　「自分のまち」と居場所。実名性、匿名性 第14回　まとめと期末試験のテーマ 第15回　「わたし」の都市生活について書く すべての回で［PC必携］
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：あらかじめ授業計画のテーマについて、参考書を読み、自分なりの考察を深めておくこと（学習時間90分） 授業後学習：まち（例えば神戸や自分の居住地）についての具体的な情報を収集し、それに応じて街を歩き、都市空間について理解すること（学習時間120分）。
授業方法	毎回、授業前にmanabaのコースコンテンツに、テキストや資料、レジュメなどをアップします。 それをもとに授業を進めます。 毎回授業が終わると、リアクションペーパーがわりの「レポート」をmanabaへオンラインで書いてください（書くテーマや字数は毎回指示します）。 manabaがこの授業のプラットフォームになります。 〈BYOD対象科目〉
評価基準と評価方法	中間試験と期末試験50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答（コール＆レスポンス）、授業中の発表発言20%。
履修上の注意	BYODを前提に講義をするので、ノートパソコンを持ち込んで利用すること。 出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。
教科書	その都度、manabaのコースコンテンツなどを通じて資料を用意します。
参考書	『歩いて読み解く地域デザイン　普通のまちの見方・活かし方』山納洋著、学芸出版社　ISBN978-4-7615-2707-5 『「街的」ということ　お好み焼き屋は街の学校だ』、江 弘毅著、講談社現代新書　ISBN-10: 4061498568 『街場の大阪論』江 弘毅著、バジリコ　ISBN-10: 4862381316、新潮文庫　ISBN-10: 4101319219 『広告都市・東京　その誕生と死』北田暁大著、廣済堂出版　ISBN-10: 433185017X 『アメリカ大都市の死と生』、ジェーン・ジェコブス著、鹿島出版会　ISBN-10: 4306051188 『愛するということ「自分」を、そして「われわれ」を』ベルナール・スティグレール著、新評論　ISBN-10: 4794807430

参考書	『愛と経済のロゴス　カイエ・ソバージュⅢ』中沢新一著、講談社選書メチエ、ISBN-10: 4062582600

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	発酵学						
担当教員	川口　真規子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73460
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	発酵によって作られる様々な食品について、その製造原理、歴史、食文化的な背景を学ぶ。 本学の地元・灘における酒造りの歴史、製造技術の変遷について知識を深める。
授業の概要	ヒトは古来から微生物を利用して発酵食品を作ってきた。本講義では、①微生物とヒトとの関わりの歴史、②微生物の生物学的な分類および形態や性質の特徴、③発酵食品と食文化　について概説する。さらに、各種発酵食品の製造方法ならびに食文化的な背景について個別に解説する。
到達目標	１）微生物利用による食品製造についてその原理、利用する微生物の説明ができる。【知識・理解】 ２）各種発酵食品について、その食品の生まれた地域の気候、風土、食文化も併せて説明ができる。 【知識・理解】 ３）地元・灘の日本酒製造の歴史を理解し、日本酒の製造法・品質管理について述べることができる。 【知識・理解】
授業計画	第１回　はじめに　発酵と腐敗　【対面】 第２回　微生物の分類と性質　【対面】 第３回　発酵食品と食文化　【遠隔】 第４回　酒類　①総説　【遠隔】 第５回　酒類　②清酒・焼酎　【遠隔】 第６回　酒類　③ビール・ワイン　【遠隔】 第７回　酒類　④ウイスキー・ブランデー・その他の酒類　【遠隔】 第８回　発酵調味料　①味噌・醤油　【遠隔】 第９回　発酵調味料　②食酢・みりん・魚醤油　【遠隔】 第１０回　その他の発酵食品　①納豆・漬物・水産発酵食品　【遠隔】 第１１回　その他の発酵食品　②発酵乳製品　【遠隔】 第１２回　世界の発酵食品　現代の発酵技術を用いた食品製造　【遠隔】 第１３回　期末テスト　【遠隔】 第１４回　灘五郷の歴史と現在の酒造技術　（ゲストスピーカー招へい）【対面】 第１５回　学外研修（酒蔵見学）【対面】
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：学習項目についてあらかじめ決められた内容を調べ、プレゼンテーション資料を作成する。 また、学外研修の前には「灘五郷」の歴史について調べておく（学習時間：2時間） 授業後：授業時に配布したプリントを再度読み返し、指示した内容についてレポートにまとめる。 （学習時間：2時間）
授業方法	松蔭manabaとzoomを使用する。 学外研修・ゲストスピーカーによる講義の際は対面授業となる。 講義：第4回から11回はアクティブラーニング形式で授業を実施する。 各回テーマに沿った学生プレゼンテーションを行い、 その発表をふまえて解説・講義を行う。 学外研修：日本の伝統的な酒造りと最新の醸造技術について見学する（所要時間：約4時間）。 ＜遠隔指定授業＞
評価基準と評価方法	レポート（40%）：灘五郷の歴史と地理的背景、日本酒の製造についてのレポートで評価する。 到達目標３）の確認。 期末テスト（50%）：到達目標１）２）の確認。 授業時の態度１0%：主体的な学修が行われているかなどで評価する。到達目標１）、２）の確認。
履修上の注意	学外研修は西郷（神戸市灘区大石付近）の酒蔵見学を予定している。交通費は各自負担となる。
教科書	なし 授業時にプリントを配布
参考書	発酵食品学　小泉武夫編著　講談社

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	パーソナルファイナンス演習						
担当教員	荒木　千秋					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73070
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	「パーソナルファイナンス理論」に引き続き、パーソナルファイナンスの基礎知識（不動産・相続等）を習得する とともに、実践能力を育成する。
授業の概要	パーソナルファイナンスの基礎知識として、主に不動産・相続について学ぶ。これらの知識がライフプランニングやファイナンシャルプランニングの中でどのように活用されているのかを講義を通じて学ぶ。 また、演習問題として、パーソナルファイナルに関する時事トピックスを取り上げ、実践的な力を育成する。
到達目標	(1)「パーソナルファイナンス中で不動産や相続・事業承継がどのように位置づけれられているかを理解できる」【知識・理解】 (2)「パーソナルファイナンスの基礎知識(特に不動産、相続・事業継承)を習得し、その具体的説明ができる」【汎用的技能】 (3)「パーソナルファイナンスの実践を身近なものとして認識することができる」【態度・志向性】
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　不動産の基礎知識：不動産の類型と権利 第3回　不動産取引：宅地建物取引業法、不動産の売買契約、不動産の貸借契約 第4回　不動産に関する法令①：都市計画法、建築基準法 第5回　不動産に関する法令②：区分所有法、国土利用計画法 第6回　不動産にかかる税金：不動産取得税、登録免許税、消費税、印紙税、固定資産税、都市計画税、譲渡税、不動産所得税〔PC必携〕 第7回　第2～6回のまとめと中間試験〔PC必携〕 第8回　贈与と法律、税金：贈与の意義と贈与契約、贈与の種類、民法の規定、贈与税の課税、財産と非課税財産、贈与税の計算、相続時精算課税制度、贈与税の申告と納付 第9回　相続と法律：相続人と相続分、代襲相続、遺産分割、相続の承認と放棄、遺言 第10回　相続税①：相続税とは、相続税の課税財産、相続税の非課税財産 第11回　相続税②：債務控除、相続税の計算、相続税の申告、相続税の納付 第12回　相続財産の評価〔PC必携〕 第13回　演習問題①〔PC必携〕 第14回　演習問題②〔PC必携〕 第15回　第11～14回のまとめと定期試験〔PC必携〕
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献資料を図書館およびweb検索で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内の復習を行う (学習時間：2時間)
授業方法	各回設定のテーマについて講義する。授業の単元ごとに、演習問題またはレポート課題を課す。PCを使いながら、その問題に、個人ワークあるいはグループワークによって答えること。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第8～12回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第2～6回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：松陰manabaコースコンテンツへの提出物によって内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、定期試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・授業開始後30分を超えた場合は遅刻扱いとし、遅刻は5回で1回の欠席とする。 ・学校感染症、公共交通機関の運休・遅延といったやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限って考慮の対象とする。 ・〔PC必携〕の授業回はパソコンを持参すること。
教科書	特に使用しない。
参考書	授業中に適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	パーソナルファイナンス理論						
担当教員	北野　友士					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73060
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	個人がライフデザインやライフプランを実現するために必要となるファイナンシャル・プランニングの基本的な知識や考え方（パーソナルファイナンス）の習得を目指します。
授業の概要	「こうやって生きていきたい」という個人の価値観をライフデザイン（人生設計）といい、そのための行動計画をライフプラン（人生計画）といいます。ライフデザインやライフプランを実行するにはお金に関する計画が欠かせず、個人のお金に関する計画をファイナンシャル・プランニング（FP）といいます。また特に個人に関する金融の知識や考え方の体系はパーソナルファイナンスとも呼ばれます。 本科目ではパーソナルファイナンスの基本を踏まえたうえで、個人のFPに大きな影響を与えるタックスプランニングを中心的に学びます。
到達目標	(1)「ライフプランに基づいた目標を達成する上での、パーソナルファイナンスの重要性を理解することができる」【知識・理解】 (2)「パーソナルファイナンスの基礎知識(特にタックスプランニング)を習得し、その具体的説明ができる」【汎用的技能】 (3)「パーソナルファイナンスとは学生時代から実践できるものであると認識することができる」【態度・志向性】
授業計画	第1回　ガイダンス～パーソナルファイナンスと我が国の税制 第2回　所得税の仕組み 第3回　10種類の所得①：利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得、給与所得 第4回　10種類の所得②：給与所得、退職所得、山林所得、譲渡所得、一時所得、雑所得 第5回　損益通算 第6回　所得控除①物的控除 第7回　所得控除②人的控除 第8回　税額の計算 第9回　所得税の申告と納付 第10回　ゲストスピーカーによる特別講義 第11回　個人住民税と個人事業税 第12回　法人税 第13回　法人税にかかわる周辺知識 第14回　消費税 第15回　パーソナルファイナンス理論のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回の授業で取り上げる内容を参考文献等で学んでおくこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内容を復習したうえで毎回の小テストに臨むこと(学習時間：2時間)
授業方法	PBL:各回設定のテーマについて講義し、配布資料に穴埋めをしてもらいながら授業を進めます。講義後には授業内容に関する小テストを出しますので、個人もしくはグループで解答してください。
評価基準と評価方法	・小テスト（70%）：第1～14回の各回の内容について毎回10点満点の小テストを出題し、理解度を確認します。 ・期末確認テスト（30%）：第15回講義で総まとめをしたうえで、30点満点の総復習テストを行います。 以上の小テストと期末確認テストをもってに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認します。
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、期末確認テストを受ける資格はありません。
教科書	特に指定しません。講義はパワーポイントの投影資料で進め、配布資料に穴埋めをしてもらう形で進めます。
参考書	書店などでFP技能検定の市販のテキストのうち自分に合うものを何か一冊入手しておいてもらえればと思います。何が良いか決められない場合の参考として以下の1冊を挙げておきます。 ・株式会社マネースマート（著）『FP技能士2級・AFP最速合格ブック』成美堂出版。 また手前みそではありますが、大学生に学んで欲しい金融リテラシーをまとめた拙著も参考になれば幸いです。 ・北野友士（2024）『学生に読んで欲しいお金の攻略本―ゼミ生と考えたお金の攻略本―』パブファンセルフ。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服材料学						
担当教員	花田　美和子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72170
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	被服の材料である糸、布、その他の素材について学ぶ。
授業の概要	被服繊維学では多種多様な繊維材料について学んだ。本講義では、繊維から作られる糸や織物や編物の他、皮革や羽毛に至るさまざまなアパレル材料の特徴と、被服に要求される消費性能について解説する。
到達目標	代表的な被服材料の種類と特徴を説明することができる【知識・理解】 アパレル製品の消費性能と被服材料との関係を説明することができる【知識・理解】 身の回りのアパレル製品について、消費者の視点から考えを述べることができる【知識・理解】
授業計画	第１回：はじめに　被服材料と消費性能 第２回：糸の種類と構造１　糸の分類 第３回：糸の種類と構造２　恒重式番手 第４回：糸の種類と構造３　恒長式番手とより構造 第５回：布の組織と種類１　織物 第６回：生地見本帳の作成 第７回：生地見本帳の説明 第８回：まとめと中間試験 第９回：布の組織と種類２　編物 第１０回：その他の被服材料１　不織布、天然皮革 第１１回：その他の被服材料２　合成皮革、毛皮 第１２回：その他の被服材料３　レース、羽毛 第１３回：学外研修 第１４回：復習と期末試験 第１５回：衣料管理士による講義（ゲストスピーカー）[PC必携]
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を読んで予習する（1.5時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をまとめプリントで確認する（2.5時間）
授業方法	講義、動画視聴、演習、ゲストスピーカーによる講義、学外研修（神戸ファッション美術館※予定） BYOD対象科目
評価基準と評価方法	平常点:40%、試験:60% 平常点は各回の提出課題の内容、演習課題等を評価する 試験は中間と期末の2回実施する。
履修上の注意	１．学外研修は交通費等一部自己負担あり。実施は授業時間外または補講期間の予定。 ２．被服材料学実験を希望する場合は、被服材料学（講義）も履修しなければならない。 ３．前期開講の被服繊維学は、被服材料学の基礎となる内容なので、可能な限り受講することが望ましい。 ４．授業の小課題は必ず期限内に提出すること。 ５．ほとんどすべての授業回でmanabaを使用するため、PCの携行を推奨する。
教科書	『生活科学テキストシリーズ 衣服材料学』平井 郁子・松梨 久仁子(編著)　朝倉書店、ISBN 978-4-254-60635-5
参考書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著　建帛社、ISBN 9784767910499

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服材料学実験						
担当教員	花田　美和子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U23130
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	繊維、糸、布の物理学的実験
授業の概要	被服に要求される性能はさまざまである。被服を構成する繊維、糸、布の物理的性質を学ぶことは、これらを解明し、よりよい衣生活に生かしていく上で欠かせない。ここでは被服材料学で得た知識をもとに実験を行い、それらの方法を理解するとともに、得られた結果から試料の性能を評価する。
到達目標	測定器類の使い方を身につけ、正しく測定をすることができる。【汎用的技能】 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる。【汎用的技能】 指定された方法に従ってレポートを作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第１回：ガイダンス、実験の説明［PC必携］ 第２回：繊維の鑑別―顕微鏡による繊維の観察 第３回：繊維の鑑別―繊維の燃焼性と比重 第４回：繊維の鑑別―染色法、混用率測定 第５回：糸の太さと撚り 第６回：織物の基本構造① 第７回：織物の基本構造② 第８回：編物の基本構造 第９回：織物の水分率、撥水性 第１０回：布のピリング、防しわ性 第１１回：布の剛軟性、吸水性 第１２回：糸の引張強さ、布の引き裂き強さ 第１３回：布のドレープ性と摩擦強さ 第１４回：布の通気性、保温性 第１５回：まとめ［PC必携］
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成など、すべての学習をおこなう。ただし、授業時間内で完成できなかった人は、次回までに完成させておくこと。
授業方法	個人またはグループによる実験 BYOD対象科目
評価基準と評価方法	平常点：40%　レポート：60% 平常点には実験への取り組み、グループ内でのディスカッションへの参加度により総合的に評価する。
履修上の注意	１．履修の対象者：被服材料学（講義）を履修した学生を対象とする。 ２．実験科目であるので、遅刻、欠席をしないようにすること。 ３．安全な靴を着用し、必要に応じて白衣を着用すること。
教科書	「衣服材料学実験」松梨久仁子、平井郁子 編著、朝倉書店　ISBN 9784254606348 ※第1回の授業から使用するので、必ず入手しておくこと。
参考書	『生活科学テキストシリーズ 衣服材料学』平井 郁子・松梨 久仁子(編著)　朝倉書店　ISBN 978-4-254-60635-5 『被服材料実験書』石川欣造 著、同文書院　ISBN 9784810311044

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服心理学						
担当教員	平松　隆円					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72210
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	被服を通じての、個人・他者・社会との関わりについて考える。
授業の概要	「よそおい」とは、広義に「身体の外観を変えるために用いるすべてのものやそのための行動」を意味する。主要なものには、身体の各部を包み込む衣服や化粧などの「被服」がある。「よそおい」は自己を表現する手段であり、日常生活、他者とのコミュニケーションを円滑におこなうために、それをおこなう人の人間性や生活態度などを表現し、伝達する。「何を着るか」「どのような装飾をするのか」は、個人として「どのような生活を送るのか」ということだけではなく、「どのように社会参加をおこなうのか」や「どのように他者とかかわるのか」をあらわしている。 被服を通じての、個人・他者・社会との関わりについて考える。
到達目標	被服の意味を知り、それを通じてもたらされる社会的・対人的効果について説明できる。【知識・理解】 生活の質の向上という視点から、被服を活用したよりよい生活のあり方を理解することができるようになる。【知識・理解】
授業計画	第１回：被服の心理学 第２回：被服と身体装飾 第３回：被服の起源と動機 第４回：被服の意味・機能・効用 第５回：NON-VERBAL COMMUNICATIONの一手段として 第６回：被服のコミュニケーション 第７回：被服による装飾・整容・変身行動 第８回：被服の購買・消費行動 第９回：被服と流行行動 第10回：身体と被服行動 第11回：自己への意識と被服行動 第12回：人間の発達と被服行動 第13回：被服によるジェンダーの表示 第14回：被服と逸脱行動 第15回：まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：事前に配付された資料内容を、確認する＜2時間＞。 復習：授業内で学習した内容をもう一度繰り返し、習熟しておく＜2時間＞。
授業方法	講義形式。反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室でおこなう）とディスカッションやディベートを適宜おこなう。
評価基準と評価方法	・講義中におこなう小レポート（60%） ・期末試験（40%） 課題は添削して返却する。
履修上の注意	・出席を重視する。 ・締め切りに遅れた提出物（課題）は一切受け取らないので、注意すること。
教科書	なし
参考書	『被服行動の社会心理学―装う人間のこころと行動』北大路書房、ISBN-10 ： 4762821616 『装いの心理学: 整え飾るこころと行動』北大路書房、ISBN-10 ： 4762831034 『まとう―被服行動の心理学』朝倉書店、ISBN-10 ： 4254526318 『外見とパワー』北大路書房、ISBN-10 ： 4762823848 『モードの体系―その言語表現による記号学的分析』みすず書房、ISBN-10 ： 4622019639 『ひとはなぜ服を着るのか』筑摩書房 、ISBN-10 ： 4480429905 『邪推するよそおい: 化粧心理学者の極私的考察』繊研新聞社、ISBN-10 ： 4881243004

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服整理学						
担当教員	花田　美和子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72180
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	被服の洗浄と管理について学ぶ。
授業の概要	日常の被服の手入れや季節ごとの保管から最終的な廃棄にまでを取り扱う。特に、被服整理の中心となる洗濯について科学的な視点から解説し、さらに柔軟剤やアイロンによる仕上げや虫害による損傷を防ぐための適切な保管方法についても解説する。到達目標は、被服の洗浄理論を説明するできること、素材に応じた適切な管理方法を選択することができること、洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができることである。
到達目標	・被服の洗浄理論を説明することができる【知識・理解】 ・素材に応じた適切な管理方法を選択することができる。【知識・理解】 ・洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができる。　【知識・理解】
授業計画	第１回：衣服の汚れ 第２回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗濯用水 第３回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗剤 第４回：洗剤の成分と洗浄作用～界面活性剤水溶液の性質 第５回：洗剤の成分と洗浄作用～陰イオン、非イオン界面活性剤 第６回：洗剤の成分と洗浄作用～陽イオン、両性イオン界面活性剤 第７回：まとめと中間試験 第８回：洗剤の成分と洗浄作用～配合剤の種類と洗浄作用 第９回：洗濯機、家庭洗濯 第１０回：洗浄力の試験法と評価 第１１回：機械作用の試験法と評価 第１２回：漂白剤と増白、しみ抜き 第１３回：衣服の保管、商業洗濯 第１４回：取扱い絵表示、衣服の廃棄とリサイクル 第１５回　まとめと期末試験［PC必携］
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を読んで予習する（1.5時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をまとめプリントで確認する（2.5時間）
授業方法	講義、動画視聴 BYOD対象科目
評価基準と評価方法	平常点:40%、試験:60% 平常点は各回の提出課題の内容を評価する 試験は中間と期末の２回おこなう。
履修上の注意	１．授業の小課題は必ず期限内に提出すること。 ２．ほとんどすべての授業回でmanabaを使用するため、PCの携行を推奨する。
教科書	『被服整理学』社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士（ISBNなし）
参考書	『洗剤と洗浄の科学』中西茂子著　コロナ社　978-4339076837

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服整理学実験						
担当教員	花田　美和子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U22110
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	被服の洗濯・洗浄と染色に関する実験
授業の概要	日常の被服管理において、洗濯は最も中心的な役割を果たす。本実験では、洗剤の主成分である界面活性剤の作用と洗濯の諸条件、色素の分解（漂白）や吸着（染色）、染色物の色の落ちにくさ（堅ろう度）に関する実験を行う。
到達目標	実験器具の使い方を身につけ、正しく実験をすることができる【汎用的技能】 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる【汎用的技能】 指定された方法に従ってレポートを作成することができる【汎用的技能】
授業計画	第１回：界面現象 第２回：界面活性剤の性質と作用 第３回：石けんの製造 第４回：洗浄試験、水洗濯、ドライクリーニング 第５回：精練・漂白・増白 第６回：しみぬき 第７回：洗濯に伴うトラブル 第８回：茜による染色 第９回：酸性染料による染色・透過率測定 第１０回：直接染料による染色・吸光度測定 第１１回：反応染料による三原色配合染色 第１２回：分散染料による染色、ナフトール染料による染色 第１３回：建て染め染料による染色 第１４回：染色堅ろう度試験 第１５回：まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成など、すべての学習をおこなう。ただし、授業時間内で完成できなかった人は、次回までに完成させておくこと。
授業方法	個人またはグループによる実験
評価基準と評価方法	平常点：40%、レポート：60% 平常点には実験への取り組み、グループ内でのディスカッションへの参加度により総合的に評価する。
履修上の注意	１．履修の対象者：被服整理学（講義）を履修した学生を対象とする。 ２．実験科目であるので、遅刻、欠席をしないようにすること。 ３．安全な靴を着用し、必要に応じて白衣を着用すること。
教科書	テキスト（プリント）配布
参考書	『被服整理学』社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田　美和子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72160
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。
授業の概要	被服の材料である綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維との関わりについて考察する。到達目標は、被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができること、繊維素材と着用目的を関連づけ、着用目的に合った繊維素材を選択することができることである。
到達目標	・被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができる【知識・理解】 ・自分の被服の繊維素材を調べ、着用目的に照らし合わせて問題点を列挙することができる【知識・理解】 ・着用目的に合った繊維素材を選択することができる【知識・理解】
授業計画	第１回：被服の材料、繊維について 第２回：天然繊維　植物繊維～綿① 第３回：天然繊維　植物繊維～綿② 第４回：天然繊維　植物繊維～麻 第５回：天然繊維　動物繊維～羊毛 第６回：天然繊維　動物繊維～絹 第７回：まとめと中間試験 第８回：化学繊維　再生繊維 第９回：化学繊維　半合成繊維 第１０回：化学繊維　合成繊維～ナイロン 第１１回：化学繊維　合成繊維～ポリエステル 第１２回：化学繊維　合成繊維～ビニロン、生分解性繊維、他 第１３回：無機繊維～ガラス・炭素・金属繊維、高機能繊維　他 第１４回：まとめと期末試験 第１５回：試験の復習、最終課題、服のリユースに関する演習［PC必携］
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を読んで予習する（1.5時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をまとめプリントで確認しする（2.5時間）
授業方法	講義、演習、動画視聴等を含む。 BYOD対象科目
評価基準と評価方法	平常点:40%、試験:60% 平常点は各回提出の小課題の内容等を評価する。 試験は中間と期末の2回実施する。
履修上の注意	１．授業の小課題は必ず期限内に提出すること。 ２．ほとんどすべての授業回でmanabaを使用するため、PCの携行を推奨する。
教科書	『生活科学テキストシリーズ 衣服材料学』平井 郁子・松梨 久仁子 編著、朝倉書店、ISBN 978-4-254-60635-5
参考書	『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773 『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著　建帛社、ISBN 9784767910499

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	フードコーディネート論						
担当教員	草尾　賀子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72500
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	フードコーディネートに必要な幅広い知識と応用力を身につける。
授業の概要	料理やお菓子をよりおいしく楽しく食べるために、季節や行事、スタイルに合わせたコーディネート方法を修得する。日本の行事食や各国の食文化、メニュープランニング、テーブルマナー、フードマネージメントなどを学び、フードコーディネートに必要な幅広い知識と応用力を身につけて、自らの実生活や食分野のスペシャリストとして生かせる能力を備えるための授業を行う。
到達目標	(1)フードコーディネートの重要性を理解し、フードコーディネートに必要な基礎知識を身につけることができる。 (2)食の企画やフードコーディネートのアイデアを発想する力を養うことができるようになる
授業計画	第 1回　フードコーディネートの基本理念 第 2回　日本の食事・食卓文化 第 3回　外国の食事・食卓文化 第 4回　食卓（テーブル）のコーディネートの基本 第 5回　西洋料理のテーブルコーディネート 第 6回　日本料理と中国料理のテーブルコーディネートの基本 第 7回　ビュッフェとティーのテーブルコーディネートの基本 第 8回　食卓のサービスとマナー（西洋料理） 第 9回　食卓のサービスとマナー（日本料理・中国料理） 第10回　メニュープランニングの要件 第11回　各調理様式とメニュー開発の基礎 第12回　食空間のコーディネートとインテリア 第13回　フードサービスマネージメント 第14回　食企画の実践コーディネート 第15回　食企画の発表、全授業のまとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学修：各授業で扱う教科書の概要個所を熟読して予習し、事前に指定するキーワードについて参考図書などで下調べする。＜2時間＞ 授業後学修：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。次回授業で実施する確認テストに備えて授業内容を復習する。＜2時間＞
授業方法	講義：各界の授業内容について、パワーポイントと配布資料を用いて講義を行う。学びを深めるために、個人またはグループ単位で実技、ディスカッション、発表を行うこともある。
評価基準と評価方法	授業内の提出物40%、期末試験60% 授業内の提出物：各回授業のまとめプリント、コーディネートのコンセプトや企画の提案書の内容・記述の的確さ等により評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認 期末試験：授業で扱った授業内容の理解度、応用力について評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認 課題に対するフィードバックの方法：提出物にコメントをつけて返却、実技については授業内で直接コメントする。期末試験の結果への講評を松蔭manabaで告知する。
履修上の注意	1. 指定教科書を毎回の授業に持参すること。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は期末試験の受験資格を失うものとする。
教科書	『三訂フードコーディネート論』、フードスペシャリスト協会著、建帛社、ISBN978-4-7679-0440-5
参考書	『TALK食空間コーディネーター3級テキスト』、NPO法人食空間コーディネート協会著、株式会社優しい食卓、ISBN978-4-901359-47-4

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	フードスペシャリスト論						
担当教員	川口　真規子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U23490
学期	後期　前半	曜日・時限	木曜1～2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	フードスペシャリストの概念を理解し、フードスペシャリストとして活躍できうる知識を修得する。
授業の概要	フードスペシャリストが持つ専門性と役割について概説する。また、食物学、食品官能評価・鑑別などのフードスペシャリスト資格認定試験に出題される分野についてのまとめと試験対策も行う。
到達目標	１）フードスペシャリストが持つ専門性について理解する。【知識・理解】 ２）フードスペシャリスト資格認定試験に合格しうる知識を修得する。【知識・理解】 ３）フードスペシャリストとして必要とされる学問領域を総合的・俯瞰的に理解した上で、食に関わる様々な問題についてその解決法を探求できる。【汎用的技能】【態度・志向性】
授業計画	第１回：フードスペシャリストの概念 第２回：人類と食物 第３回：世界の食 第４回：日本の食 第５回：現代日本の食生活・食品産業の役割 第６回：食品の品質規格と表示 第７回：食情報と消費者保護 第８回：まとめ①、小テスト 第９回：「フードスペシャリスト論」過去問の傾向と対策 第１０回：資格試験問題演習と解答・解説① 第１１回：資格試験問題演習と解答・解説② 第１２回：資格試験問題演習と解答・解説③ 第１３回：資格試験問題演習と解答・解説④ 第１４回：資格試験問題演習と解答・解説⑤ 第１５回：まとめ②、期末テスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところを読み、演習問題についてはあらかじめ解いておく。（学習時間：2時間） 授業後：過去問題演習で不正解だった箇所を再度を解きなおし、関連する内容について教科書でもう一度学習しておく。（学習時間：2時間）
授業方法	講義、演習 演習の際にはあらかじめ過去問を解いておき、授業時間は問題の正誤の解説を行う。また、関連する内容についての講義も行う。
評価基準と評価方法	小テスト（40%）、期末テスト（50%）：講義内容の理解度の確認を行う。到達目標１）２）３）の到達度を確認する。 授業態度（10%）：演習時における積極性などで評価する。到達目標２）の到達度を確認する。
履修上の注意	授業外における学習をしっかり行うこと。
教科書	四訂フードスペシャリスト論第7版　日本フードスペシャリスト協会編　建帛社　ISBN　978-4-7679-0714-7 2023年版フードスペシャリスト資格試験過去問題集　日本フードスペシャリスト協会編　建帛社 ISBN 978-4-7679-0741-3
参考書	

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	保育・看護学						
担当教員	寺村　ゆかの					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U72020
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。
授業の概要	高齢化、少子化、核家族化が一般的となった現代、若い夫婦が健全な生活を営むのには多大の努力が必要である。出産や死亡は病院が普通となり、医学の進歩により家庭での看護の意義も変容してきた。育児では家庭が主体であることに変わりはないが、保育所や幼稚園も無視できない。 本講義では、乳幼児の発育、家族の発達過程で生じるさまざまな健康の問題に対し、解決方法や家庭での看護のあり方、具体的な看護技術について学ぶ。さらに、より健康的なライフスタイルを獲得するためには何が必要かを考える。
到達目標	（1）子どもの発達や健康、さらに現代の子育て家庭が抱える課題について説明することができる。【知識・理解】 （2）地域生活の質の向上という観点から、子育て支援のあり方を提案することができる。【知識・理解】
授業計画	第1回　授業のオリエンテーション／保育とは何か 第2回　成長と発達とは 第3回　妊娠期の女性（母親）の心身の変化と胎児の成長・発達 第4回　新生児・乳児期の心身の成長・発達 第5回　幼児期の心身の成長・発達 第6回　乳幼児期の人間関係の発達 第7回　乳幼児の健康（かかりやすい病気と家庭での看護）管理（家庭での看護実習） 第8回　乳幼児期におこりやすい事故とその予防 第9回　子どもへの接し方 第10回　子どもの遊びの発達 第11回　子どもの文化 第12回　家庭保育の現状と課題 第13回　保育サービスの現状と課題 第14回　地域の子育て支援の現状と課題 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学修：毎回の講義中、次回の講義内容に関係する「キーワード」を提示するので、それについて次回の授業までに自己学習をしておく。授業では、その「キーワード」についての質問を行い、受講者の意見等を求めるので、答えられるように準備しておく。＜2時間＞ 授業後学修：授業で取り上げた内容の要点を復習し、それに関する新聞記事や文献等を読む。＜2時間＞
授業方法	講義では、まず前回の時間に作成したミニレポートの内容を全員で振り返り共有することから始める。 準備学習で調べたキーワードをもとに意見交換を行いながら、それぞれの回のテーマについて内容を展開していく。 子どもの病気に対するケアや現代の子育て家庭が抱える課題などの事例検討の際には、演習（グループワークもしくはペアワーク）を行う。
評価基準と評価方法	①毎回（1回～14回）の授業内で提出するミニレポート又は小テスト（70%） ②最終レポート（30%）。 ①と②の合計（100%）で評価する。 授業内での提出物：ミニレポート（講義内容についての理解や気づき、意見など）の記述内容の的確さを評価する。最終レポート：授業で扱った内容について統合的に理解が深まっているか、子育てに対する関心や支援のあり方について意見が述べられているか等で評価する。到達目標(1)および(2)についての到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法： ミニレポートの内容や意見・質問については、翌週の授業で紹介・解説する。
履修上の注意	出席回数が、開講日数の2/3に満たないものには単位取得が認められない。 授業中の携帯電話・スマートフォン等の使用を禁止する。
教科書	なし。 毎回レジュメを配布する。
参考書	「保育の心理学」伊藤篤 編著（2017）ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-07956-8 「授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト」小林美由紀 編著（2018）診断と治療社　ISBN:978-4-7878-2330-4

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	マーケティング論						
担当教員	青谷　実知代					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U12090
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	社会における新しい動きや経験を創りだす、「マーケティング・デザイン」について理解を深め、強い創造志向と未来志向を学修することが目的である。
授業の概要	「デザイン」には、色や形を創りだす活動の印象がありますが、本講座では、「社会や消費の動きや経験を生み出すこと」を「マーケティング・デザイン」と捉え学修する。 社会の中に新しい動きを創るためには、①新たな顧客を発見すること、②それらと共に、新たな顧客体験と実現の仕組みと、収益の仕組みを創造することが不可欠である。 2000年以降、インターネット、ソーシャルメディアなどが登場し、世界の社会基盤は大きく進化した。同時に、我が国では超高齢化社会と人口減少社会が現実化し、地域間などの格差の問題も顕在化しはじめた。また、海外では新興国の経済成長と共に、環境・エネルギー問題、そして昨今のコロナ禍における物価高の消費問題など、重要な課題が多数存在する。社会課題の解決と共に、新たな時代の経済成長の枠組みとしてマーケティングへの期待もさらに高くなり、同時に対応を迫られている。そのような環境の変化に対応するマーケティングの課題を、具体的にどのように解決すれば良いかの手がかりに至るまでの説明をしながら理解を深めていく。 さらに、環境の変化に対応するマーケティングのあり方として、マーケティング3.0など、次の時代のマーケティング枠組みも一歩踏み込んで学修していく。
到達目標	①マーケティングの仕組みついて興味・関心を高めることができる。（知識・理解） ②生活システムにおけるマーケティングの役割に気が付くことができる。（知識・理解） ③商品開発の裏側を読み解き、自らの企画・開発力を実践することができる。（汎用的技能） ④具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。（態度・志向性） ⑤商品開発の難しさ・面白さを理解することができる。（態度・志向性）
授業計画	第１回　　マーケティング発想法ーニューコークとタイドー 第２回　　マーケティング・ミックスによる顧客創造ーネスレ日本　キットカットー 第３回　　製品による顧客創造ーカモ井加工紙株式会社ー 第４回　　価格による顧客創造ーサントリーー 第５回　　チャネルによる顧客創造ー（ゲストスピーカー招聘予定） 第６回　　コミュニケーションにおける顧客創造ーファーストリテイリングー【PC必携】 第７回　　顧客理解ーライオン株式会社ー【PC必携】 第８回　　関係構築ーガンホー・オンライン・エンターテイメントー【PC必携】 第９回　　デジタル・マーケティングーハウス食品ー【PC必携】 第10回　　ディマンドチェーンーカルビーー【PC必携】 第11回　　ブランド構築ーマンダム【PC必携】 第12回　　営業活動ーカゴメー【PC必携】 第13回　　マーケティングの戦略展開ー花王ー【PC必携】 第14回　　社会共生と環境ートヨターー【PC必携】 第15回　　マーケティング3.0ーP&Gーからマーケティング5.0へ（まとめ）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】流行のものや話題のものを常に把握し、資料を収集しながらまとめる。（街の変化などにも敏感にキャッチしてください）（学習時間：2時間） 【授業後】授業の復習と共に新聞・雑誌は必ずよんでおくこと。授業中に指示された課題についてレポートを作成（学習時間：2時間）
授業方法	【講義形式】（BYOD対象科目） ・課題解決型学修 ・反転授業 ・時折、ディスカッション、ディベートを取り入れた授業を実践する。 【実務経験のある教員等による授業】 マーケティング＆リサーチ事業の代表として食品マーケティングを中心とする商品開発を行った経験を生かし具体的事例を提供しつつ授業を進め製品開発についての知識を教える。
評価基準と評価方法	・中間テスト（20%） ・授業内での提出物（レポートも含む）（20%） ・期末試験（60%）よって総合的に判断する。
履修上の注意	①消費者に指示される商品の特徴とは何か？常に考えておいてください。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 　※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 　※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ③新聞は必読 ④食ビジネス専修の学生は、以下の科目も関連して履修することが望ましい。 　「地域ブランド」（2年生～）「食と観光のマーケティング論」(3年生以降）「食と観光産業のマーケティング論」（３年生以降）
教科書	石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編著『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎 2016年 ISBN978-4-502-20021-2

参考書	随時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	和食文化研究						
担当教員	湯木　潤治					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	U73630
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	茶懐石の作法や流れについての知識を習得できる。
授業の概要	「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されて以来、日本文化としての「和食」に世界的な注目が集まっている。「和食」といえば料理内容に関心が集まりやすいが、登録された「和食」とは「日本人の伝統的な食文化」である。 　本講義では、伝統的な「日本人の食文化」がどのようなものであったかを、ハレとケ、日本の四季と食文化の関係、行事食、米食、酒、食器とはし、食事の場としつらえ、地域と食文化などの内容で解説する。現代の私たちが「和食の文化」をどのように受け継ぎ、活かすことができるかを考えることを目的とする。
到達目標	（１）食文化が日本の四季とどのように結びつき、伝統文化を醸成してきたかについて説明できる【知識・理解】 （２）茶懐石の歴史や文化的側面を考察しながら、懐石の作法や流れが身に附く【汎用的技能】 （３）季節感を得て、「一期一会」に代表されるような精神的な考え方を取り入れることができる【態度・志向性】
授業計画	1. 茶懐石とは 2. 茶懐石の起源 3. 茶懐石の歴史 4. 茶懐石の心 5. 茶懐石の作法 6. 茶懐石の料理の器 7. 茶懐石の流れ 8. 茶懐石のすすめ方・いただき方 9. 飯　　実演 10. 汁物　　実演 11. 向付　　実演 12. 煮物 実演 13. 焼き物 実演 14. 預け鉢 実演 15. 茶懐石と日本の食文化（実習含む）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：茶懐石に関連した書籍が多く出版されているので、1冊読んで、時代的背景や文化的側面に対する理解を深めておくとよい。（予習2時間） 授業後学習：授業で示したテーマ・課題について報告文を作成する（復習2時間）
授業方法	講義：前半は、各項目に沿って講義、ビデオを使用して理解を深めてもらう、後半は、料理を作りながら、調理の仕方、だしの引き方など日本料理の基礎を学んでもらう。
評価基準と評価方法	授業内での提出物　50%：各回でのリアクションペーパーによって茶懐石の作法や流についての知識を問い、到達目標（１）および（２）に関する到達度を確認する。 レポート提出　　50%：到達目標（１）および（３）に関して「一期一会」に代表されるような精神的な考え方を取り入れたレポートが作成できているかどうか確認する。 両方を総合的に見て判断する
履修上の注意	失格条件：レポート未提出及び授業を1/3以上欠席したもの 実習のために材料費を受益者負担として徴収する。学外で研修する場合は、交通費や入館料が必要な場合があります。
教科書	特に使用しない。（プリントを配布する）
参考書	特になし